

大学等名	福岡県立大学
プログラム名	データサイエンス・プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称
人間社会学部

③ 修了要件

データサイエンス(リテラシー)学修証明書
 データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を学修した者に与えられる。
 3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満足した者。
 表Ⅰに示す科目の中から合計2単位以上を取得
 表Ⅰ、表Ⅱ、表Ⅲに示す科目の中から合計8単位以上を取得
 上記単位取得科目の獲得GPの総和(累積GP)が16以上
(最低科目数4科目、最低単位数8単位、「情報処理の基礎と演習」(2単位)は必須科目)

データサイエンス(基礎)学修証明書
 データサイエンスにおける基礎的な知識・技能を学修し、またデータサイエンスを用いた基本的な調査分析の方法やICTの利活用について学修した者に与えられる。
 3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満足した者。
 表Ⅰ、表Ⅱに示す科目の中からそれぞれ4単位以上を取得
 表Ⅰ、表Ⅱ、表Ⅲに示す科目の中から合計18単位以上を取得
 上記単位取得科目の獲得GPの総和(累積GP)が36以上
(最低科目数9科目、最低単位数18単位、「情報処理の基礎と演習」(2単位)は必須科目)

データサイエンス学修証明書
 データサイエンスにおける知識・技能を学修し、またデータサイエンスを用いて実践的な調査分析の方法、問題解決等に活用する方法について学修した者に与えられる。
 3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満足した者。
 表Ⅰ、表Ⅱ、表Ⅲに示す科目の中からそれぞれ4単位以上を取得
 表Ⅰ、表Ⅱ、表Ⅲに示す科目の中から合計30単位以上を取得
 上記単位取得科目の累積GPが75以上
(最低科目数15科目、最低単位数30単位、「情報処理の基礎と演習」(2単位)は必須科目)

表Ⅰ データサイエンス共通基礎
 1. 数学概論(2単位)、2. 統計学(2単位)、3. 情報科学(2単位)、4. 情報処理の基礎と演習(2単位)、5. 情報処理演習Ⅰ(1単位)、6. 情報処理演習Ⅱ(1単位)、7. 情報処理応用演習(1単位)

表Ⅱ データサイエンス専門基礎
 1. データ分析の基礎(2単位)、2. 社会統計学Ⅰ(2単位)、3. 社会統計学Ⅱ(2単位)、4. 心理学統計法(2単位)、5. 保健統計学(2単位)、6. 疫学(2単位)、7. 情報数学(2単位)、8. プログラミング概論(2単位)、9. データベース論(2単位)、10. マルチメディア論(2単位)、11. 情報ネットワーク論(2単位)、12. 現代社会論B(情報社会論)(2単位)、13. 現代社会論C(情報社会と法)(2単位)、14. 情報検索システム論(2単位)、15. 個人情報法制(2単位)、16. 地理情報システム論(2単位)

表Ⅲ データサイエンス専門応用
 1. 社会調査法(2単位)、2. 社会福祉調査法(2単位)、3. 保健社会調査論(2単位)、4. 心理学研究法(2単位)、5. 社会調査の設計(2単位)、6. 地域社会分析法C(2単位)、7. 心理学実験Ⅰ(2単位)、8. 心理学実験Ⅱ(2単位)、9. 社会調査実習Ⅰ(2単位)、10. 社会調査実習Ⅱ(2単位)、11. 看護研究(2単位)、12. 公衆衛生看護アセスメントⅠ(2単位)、13. 公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ(2単位)、14. データ処理とデータ解析Ⅰ(1単位)、15. データ処理とデータ解析Ⅱ(1単位)、16. Webデザイン演習(1単位)、17. 看護情報学(1単位)、18. 情報ネットワーク演習(1単位)、19. プログラミング演習(1単位)

必要最低科目数・単位数 4 科目 8 単位 履修必須の有無 令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報処理の基礎と演習	2	○	○	○					
情報処理演習Ⅰ	1		○	○					
情報処理演習Ⅱ	1		○	○					
情報科学	2		○	○					
情報数学	2		○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報処理の基礎と演習	2	○	○	○	情報処理応用演習	2		○	
情報処理演習Ⅰ	1		○	○	マルチメディア論	2		○	○
情報処理演習Ⅱ	1		○	○					
データ処理とデータ解析Ⅰ	1		○	○					
データ処理とデータ解析Ⅱ	1		○	○					
情報科学	2		○	○					
情報数学	2		○						

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報処理の基礎と演習	2	○	○	○	情報検索システム論	2		○	
情報処理演習 I	1		○	○	マルチメディア論	2			○
情報処理演習 II	1		○	○					
データ処理とデータ解析 I	1		○	○					
データ処理とデータ解析 II	1		○	○					
情報数学	2		○						

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報処理の基礎と演習	2	○	○	○	現代社会論C(情報社会と法)	2		○	
情報処理演習 I	1		○	○					
情報処理演習 II	1		○	○					
情報科学	2		○	○					
情報検索システム論	2		○						
情報ネットワーク論	2			○					
個人情報法制	2		○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報処理の基礎と演習	2	○	○	○	○	社会統計学 II	2		○		
情報処理演習 I	1		○	○	○	情報処理応用演習	1		○	○	
情報処理演習 II	1		○	○	○						
統計学	2		○	○							
データ処理とデータ解析 I	1		○	○	○						
データ分析の基礎	2		○	○	○						
社会統計学 I	2		○								

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
数学概論	4-1統計および数理基礎	プログラミング概論	4-7データハンドリング
情報数学	4-1統計および数理基礎	データ処理とデータ解析I	4-8データ活用実践(教師あり学習)
プログラミング概論	4-2アルゴリズム基礎	情報検索システム論	4-8データ活用実践(教師あり学習)
情報数学	4-3データ構造とプログラミング基礎	データ処理とデータ解析 II	4-8データ活用実践(教師あり学習)
プログラミング概論	4-3データ構造とプログラミング基礎	社会統計学 I	4-8データ活用実践(教師あり学習)
プログラミング演習	4-3データ構造とプログラミング基礎	社会統計学 II	4-8データ活用実践(教師あり学習)
マルチメディア論	4-5テキスト解析	データ処理とデータ解析 II	4-9データ活用実践(教師なし学習)

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
<p>(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている</p>	<p>1-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Society5.0、データ駆動型社会「情報処理の基礎と演習」(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報処理演習Ⅰ」(1回目、8回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報処理演習Ⅱ」(1回目) ・計算機の処理性能の向上「情報科学」(1回目) ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、Society 5.0「情報科学」(15回目) ・AI「情報数学」(15回目) <p>1-6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報処理の基礎と演習」(1回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報処理演習Ⅰ」(1回目、8回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報処理演習Ⅱ」(1回目) ・AI最新技術の活用例「情報科学」(15回目)、「情報数学」(15回目)
<p>(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p>	<p>1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、オープンデータ「情報処理の基礎と演習」(14回目) ・調査データ「情報処理演習Ⅰ」(10回目、11回目) ・調査データ「情報処理演習Ⅱ」(10回目、12回目) ・調査データ、実験データ「データ処理とデータ解析Ⅰ」(1回目)、「データ処理とデータ解析Ⅱ」(1回目) ・構造化データ、非構造化データ「情報科学」(3~6回目) ・構造化データと非構造化データ「情報数学」(3~5回目) ・調査データ、オープンデータ「情報処理応用演習」(5回目) ・構造化データ、非構造化データ「マルチメディア論」(2, 5, 7, 11, 12回目) <p>1-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり「情報処理の基礎と演習」(1回目) ・データ・AI活用領域の広がり「情報処理演習Ⅰ」(1回目、8回目) ・データ・AI活用領域の広がり「情報処理演習Ⅱ」(1回目) ・データ・AI活用領域の広がり「情報科学」(15回目) ・仮説検証「データ処理とデータ解析Ⅰ」(5~15回目) ・仮説検証、原因究明「データ処理とデータ解析Ⅱ」(2~15回目) ・データ・AI活用領域の広がり「マルチメディア論」(3, 5, 8, 13回目)
<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	<p>1-4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: グルーピング「情報処理の基礎と演習」(13回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ「情報処理の基礎と演習」(14回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ「情報処理演習Ⅰ」(10回目、11回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ「情報処理演習Ⅱ」(10回目、12回目) ・データ解析、データ可視化「データ処理とデータ解析Ⅰ」(2~15回目)、「データ処理とデータ解析Ⅱ」(2~15回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと「情報数学」(15回目) ・非構造化データ処理: 言語処理「情報検索システム論」(2, 4~6, 8, 12~13回目) ・認識技術「情報検索システム論」(4, 8, 10, 11~15回目) ・データ可視化: 関係性の可視化、地図上の可視化「情報処理応用演習」(5回目) <p>1-5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造、サービス、インフラ等におけるデータ・AIの活用事例紹介「情報処理の基礎と演習」(1回目) ・ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報処理演習Ⅰ」(10回目、11回目) ・ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報処理演習Ⅱ」(10回目、12回目) ・データサイエンスのサイクル「データ処理とデータ解析Ⅰ」(2~15回目)、「データ処理とデータ解析Ⅱ」(2~15回目) ・製造、サービス等におけるデータ・AIの活用事例紹介「マルチメディア論」(3, 5, 8, 13回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> データ倫理: プライバシー保護「情報処理の基礎と演習」(3回目) データ倫理: 盗用「情報処理の基礎と演習」(5回目) 個人情報保護: データ倫理「情報処理演習 I」(9回目) データ倫理: 盗用「情報処理演習 II」(9回目, 13回目) 個人情報保護「情報科学」(13回目) データバイアス「情報検索システム論」(11回目) プライバシー保護「現代社会論C(情報社会と法)」(第5回)、「個人情報法制」(第2回) 個人情報保護「現代社会論C(情報社会と法)」(第10回)「個人情報法制」(第1~15回) EU一般データ保護規則(GDPR): 忘れられる権利「個人情報法制」(第11~12回) データバイアス: アルゴリズムバイアス「現代社会論C(情報社会と法)」(第15回) AI社会原則「現代社会論C(情報社会と法)」(第15回) AIサービスの責任論「現代社会論C(情報社会と法)」(第15回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ「情報処理の基礎と演習」(3回目) 情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「情報処理演習 I」(9回目) 情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「情報処理演習 II」(9回目) 情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「情報科学」(10~12回目) 情報セキュリティ「情報ネットワーク論」(12回目) 匿名加工技術: 暗号化「情報ネットワーク論」(13回目) 匿名加工情報「個人情報法制」(第6回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> 統計情報の正しい理解「情報処理の基礎と演習」(13回目) 統計情報の正しい理解「情報処理演習 I」(10回目, 11回目) 統計情報の正しい理解「情報処理演習 II」(10回目) データの種類(量的変数、質的変数)「統計学」(2回目)、「データ分析の基礎」(2回目)、「社会統計学 I」(1回目) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「統計学」(4, 6回目)、「データ分析の基礎」(6, 8回目)、「社会統計学 I」(5回目) 代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)「統計学」(5回目)、「データ分析の基礎」(6回目) データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「統計学」(5回目)、「データ分析の基礎」(6, 7回目)、「社会統計学 I」(5回目) 観測データに含まれる誤差の扱い「統計学」(2回目) 相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「統計学」(7, 8, 10回目)、「データ分析の基礎」(9~11回目)、「社会統計学 I」(7, 8, 14回目)、「社会統計学 II」(11回目) 母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出)「統計学」(3, 11回目)、「データ分析の基礎」(4回目)、「社会統計学 I」(9回目) クロス集計表「統計学」(9, 10回目)、「データ分析の基礎」(12~14回目)、「社会統計学 I」(6, 11, 12回目)、「社会統計学 II」(5~7回目) 統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「統計学」(6回目) データの種類(量的変数、質的変数)「データ処理とデータ解析I」(1回目) データの分布(ヒストグラム)と代表値、代表値の性質の違い、データのばらつき「データ処理とデータ解析I」(2, 3回目) 相関と因果「データ処理とデータ解析I」(11回目) クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「データ処理とデータ解析I」(10回目) データの分布(ヒストグラム)と代表値「情報処理応用演習」(5回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> データの図表表現「情報処理の基礎と演習」(12~14回) データの表現(棒グラフ、折線グラフ)「情報処理の基礎と演習」(14回目) データ表現(棒グラフ、折線グラフ)「情報処理演習 I」(5回目, 10回目, 11回目) データ表現(棒グラフ、折線グラフ)「情報処理演習 II」(10回目) データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図)「統計学」(6回目)、「データ分析の基礎」(8回目) 不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「統計学」(6回目) 優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「統計学」(1回目) データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図)「データ処理とデータ解析I」(2, 3, 11回目) データの表現(散布図)「情報処理応用演習」(5回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> データの集計(和、平均)「情報処理の基礎と演習」(13回目) データの並び替え、ランキング「情報処理の基礎と演習」(13, 15回目) データ解析ツール「情報処理の基礎と演習」(12~15回) データの集計「情報処理演習 I」(4回目) データの集計「情報処理演習 II」(4回目) データの集計、データ解析ツール、表形式のデータ(csv)「データ処理とデータ解析I」(2~15回目) データの集計(和、平均)「データ分析の基礎」(2回目) データの並び替え「データ分析の基礎」(2回目) データ解析ツール(スプレッドシート)「データ分析の基礎」(5~14回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

第1段階(共通基礎)としてデータサイエンスの共通基礎、第2段階(専門基礎)として各専門分野のデータサイエンスの基礎を身につけ、第3段階(専門応用)として各専門分野のデータサイエンスの応用を演習形式で学ぶことにより、データサイエンスの知識やスキルを各専門分野での課題解決に活用できる力を養う。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

大学等名	福岡県立大学
プログラム名	データサイエンス・プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

看護学部

③ 修了要件

データサイエンス(リテラシー)学修証明書
 データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を学修した者に与えられる。
 3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満足した者。
 表Ⅰに示す科目の中から合計2単位以上を取得
 表Ⅰ、表Ⅱ、表Ⅲに示す科目の中から合計8単位以上を取得
 上記単位取得科目の獲得GPの総和(累積GP)が16以上
 (最低科目数5科目、最低単位数8単位、「情報処理演習Ⅰ」(1単位)は必須科目)

データサイエンス(基礎)学修証明書
 データサイエンスにおける基礎的な知識・技能を学修し、またデータサイエンスを用いた基本的な調査分析の方法やICTの利活用について学修した者に与えられる。
 3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満足した者。
 表Ⅰ、表Ⅱに示す科目の中からそれぞれ4単位以上を取得
 表Ⅰ、表Ⅱ、表Ⅲに示す科目の中から合計18単位以上を取得
 上記単位取得科目の獲得GPの総和(累積GP)が36以上
 (最低科目数10科目、最低単位数18単位、「情報処理演習Ⅰ」(1単位)は必須科目)

データサイエンス学修証明書
 データサイエンスにおける知識・技能を学修し、またデータサイエンスを用いて実践的な調査分析の方法、問題解決等に活用する方法について学修した者に与えられる。
 3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満足した者。
 表Ⅰ、表Ⅱ、表Ⅲに示す科目の中からそれぞれ4単位以上を取得
 表Ⅰ、表Ⅱ、表Ⅲに示す科目の中から合計30単位以上を取得
 上記単位取得科目の累積GPが75以上
 (最低科目数16科目、最低単位数30単位、「情報処理演習Ⅰ」(1単位)は必須科目)

表Ⅰ データサイエンス共通基礎
 1. 数学概論(2単位)、2. 統計学(2単位)、3. 情報科学(2単位)、4. 情報処理の基礎と演習(2単位)、5. 情報処理演習Ⅰ(1単位)、6. 情報処理演習Ⅱ(1単位)、7. 情報処理応用演習(1単位)

表Ⅱ データサイエンス専門基礎
 1. データ分析の基礎(2単位)、2. 社会統計学Ⅰ(2単位)、3. 社会統計学Ⅱ(2単位)、4. 心理学統計法(2単位)、5. 保健統計学(2単位)、6. 疫学(2単位)、7. 情報数学(2単位)、8. プログラミング概論(2単位)、9. データベース論(2単位)、10. マルチメディア論(2単位)、11. 情報ネットワーク論(2単位)、12. 現代社会論B(情報社会論)(2単位)、13. 現代社会論C(情報社会と法)(2単位)、14. 情報検索システム論(2単位)、15. 個人情報法制(2単位)、16. 地理情報システム論(2単位)

表Ⅲ データサイエンス専門応用
 1. 社会調査法(2単位)、2. 社会福祉調査法(2単位)、3. 保健社会調査論(2単位)、4. 心理学研究法(2単位)、5. 社会調査の設計(2単位)、6. 地域社会分析法C(2単位)、7. 心理学実験Ⅰ(2単位)、8. 心理学実験Ⅱ(2単位)、9. 社会調査実習Ⅰ(2単位)、10. 社会調査実習Ⅱ(2単位)、11. 看護研究(2単位)、12. 公衆衛生看護アセスメントⅠ(2単位)、13. 公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ(2単位)、14. データ処理とデータ解析Ⅰ(1単位)、15. データ処理とデータ解析Ⅱ(1単位)、16. Webデザイン演習(1単位)、17. 看護情報学(1単位)、18. 情報ネットワーク演習(1単位)、19. プログラミング演習(1単位)

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無 令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報処理の基礎と演習	2		○	○					
情報処理演習Ⅰ	1	○	○	○					
情報処理演習Ⅱ	1		○	○					
情報科学	2		○	○					
情報数学	2		○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報処理の基礎と演習	2		○	○	情報処理応用演習	2		○	
情報処理演習Ⅰ	1	○	○	○	マルチメディア論	2		○	○
情報処理演習Ⅱ	1		○	○					
データ処理とデータ解析Ⅰ	1		○	○					
データ処理とデータ解析Ⅱ	1		○	○					
情報科学	2		○	○					
情報数学	2		○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報処理の基礎と演習	2		○	○	情報検索システム論	2		○	
情報処理演習 I	1	○	○	○	マルチメディア論	2			○
情報処理演習 II	1		○	○					
データ処理とデータ解析 I	1		○	○					
データ処理とデータ解析 II	1		○	○					
情報数学	2		○						

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報処理の基礎と演習	2		○	○	現代社会論C(情報社会と法)	2		○	
情報処理演習 I	1	○	○	○					
情報処理演習 II	1		○	○					
情報科学	2		○	○					
情報検索システム論	2		○						
情報ネットワーク論	2			○					
個人情報法制	2		○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報処理の基礎と演習	2		○	○	○	社会統計学 II	2		○		
情報処理演習 I	1	○	○	○	○	情報処理応用演習	1		○	○	
情報処理演習 II	1		○	○	○						
統計学	2		○	○							
データ処理とデータ解析 I	1		○	○	○						
データ分析の基礎	2		○	○	○						
社会統計学 I	2		○								

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
数学概論	4-1統計および数理基礎	プログラミング概論	4-7データハンドリング
情報数学	4-1統計および数理基礎	データ処理とデータ解析I	4-8データ活用実践(教師あり学習)
プログラミング概論	4-2アルゴリズム基礎	情報検索システム論	4-8データ活用実践(教師あり学習)
情報数学	4-3データ構造とプログラミング基礎	データ処理とデータ解析 II	4-8データ活用実践(教師あり学習)
プログラミング概論	4-3データ構造とプログラミング基礎	社会統計学 I	4-8データ活用実践(教師あり学習)
プログラミング演習	4-3データ構造とプログラミング基礎	社会統計学 II	4-8データ活用実践(教師あり学習)
マルチメディア論	4-5テキスト解析	データ処理とデータ解析 II	4-9データ活用実践(教師なし学習)

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
<p>(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている</p>	<p>1-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Society5.0、データ駆動型社会「情報処理の基礎と演習」(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報処理演習Ⅰ」(1回目、8回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報処理演習Ⅱ」(1回目) ・計算機の処理性能の向上「情報科学」(1回目) ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、Society 5.0「情報科学」(15回目) ・AI「情報数学」(15回目) <p>1-6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報処理の基礎と演習」(1回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報処理演習Ⅰ」(1回目、8回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報処理演習Ⅱ」(1回目) ・AI最新技術の活用例「情報科学」(15回目)、「情報数学」(15回目)
<p>(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p>	<p>1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、オープンデータ「情報処理の基礎と演習」(14回目) ・調査データ「情報処理演習Ⅰ」(10回目、11回目) ・調査データ「情報処理演習Ⅱ」(10回目、12回目) ・調査データ、実験データ「データ処理とデータ解析Ⅰ」(1回目)、「データ処理とデータ解析Ⅱ」(1回目) ・構造化データ、非構造化データ「情報科学」(3~6回目) ・構造化データと非構造化データ「情報数学」(3~5回目) ・調査データ、オープンデータ「情報処理応用演習」(5回目) ・構造化データ、非構造化データ「マルチメディア論」(2, 5, 7, 11, 12回目) <p>1-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり「情報処理の基礎と演習」(1回目) ・データ・AI活用領域の広がり「情報処理演習Ⅰ」(1回目、8回目) ・データ・AI活用領域の広がり「情報処理演習Ⅱ」(1回目) ・データ・AI活用領域の広がり「情報科学」(15回目) ・仮説検証「データ処理とデータ解析Ⅰ」(5~15回目) ・仮説検証、原因究明「データ処理とデータ解析Ⅱ」(2~15回目) ・データ・AI活用領域の広がり「マルチメディア論」(3, 5, 8, 13回目)
<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	<p>1-4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: グルーピング「情報処理の基礎と演習」(13回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ「情報処理の基礎と演習」(14回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ「情報処理演習Ⅰ」(10回目、11回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ「情報処理演習Ⅱ」(10回目、12回目) ・データ解析、データ可視化「データ処理とデータ解析Ⅰ」(2~15回目)、「データ処理とデータ解析Ⅱ」(2~15回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと「情報数学」(15回目) ・非構造化データ処理: 言語処理「情報検索システム論」(2, 4~6, 8, 12~13回目) ・認識技術「情報検索システム論」(4, 8, 10, 11~15回) ・データ可視化: 関係性の可視化、地図上の可視化「情報処理応用演習」(5回) <p>1-5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造、サービス、インフラ等におけるデータ・AIの活用事例紹介「情報処理の基礎と演習」(1回目) ・ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報処理演習Ⅰ」(10回目、11回目) ・ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報処理演習Ⅱ」(10回目、12回目) ・データサイエンスのサイクル「データ処理とデータ解析Ⅰ」(2~15回目)、「データ処理とデータ解析Ⅱ」(2~15回目) ・製造、サービス等におけるデータ・AIの活用事例紹介「マルチメディア論」(3, 5, 8, 13回目)

(4) 活用に応じた様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> データ倫理: プライバシー保護「情報処理の基礎と演習」(3回目) データ倫理: 盗用「情報処理の基礎と演習」(5回目) 個人情報保護: データ倫理「情報処理演習 I」(9回目) データ倫理: 盗用「情報処理演習 II」(9回目, 13回目) 個人情報保護「情報科学」(13回目) データバイアス「情報検索システム論」(11回目) プライバシー保護「現代社会論C(情報社会と法)」(第5回)、「個人情報法制」(第2回) 個人情報保護「現代社会論C(情報社会と法)」(第10回)「個人情報法制」(第1~15回) EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利「個人情報法制」(第11~12回) データバイアス、アルゴリズムバイアス「現代社会論C(情報社会と法)」(第15回) AI社会原則「現代社会論C(情報社会と法)」(第15回) AIサービスの責任論「現代社会論C(情報社会と法)」(第15回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ「情報処理の基礎と演習」(3回目) 情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「情報処理演習 I」(9回目) 情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「情報処理演習 II」(9回目) 情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「情報科学」(10~12回目) 情報セキュリティ「情報ネットワーク論」(12回目) 匿名加工技術: 暗号化「情報ネットワーク論」(13回目) 匿名加工情報「個人情報法制」(第6回)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> 統計情報の正しい理解「情報処理の基礎と演習」(13回目) 統計情報の正しい理解「情報処理演習 I」(10回目, 11回目) 統計情報の正しい理解「情報処理演習 II」(10回目) データの種類(量的変数、質的変数)「統計学」(2回目)、「データ分析の基礎」(2回目)、「社会統計学 I」(1回目) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「統計学」(4, 6回目)、「データ分析の基礎」(6, 8回目)、「社会統計学 I」(5回目) 代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)「統計学」(5回目)、「データ分析の基礎」(6回目) データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「統計学」(5回目)、「データ分析の基礎」(6, 7回目)、「社会統計学 I」(5回目) 観測データに含まれる誤差の扱い「統計学」(2回目) 相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「統計学」(7, 8, 10回目)、「データ分析の基礎」(9~11回目)、「社会統計学 I」(7, 8, 14回目)、「社会統計学 II」(11回目) 母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出)「統計学」(3, 11回目)、「データ分析の基礎」(4回目)、「社会統計学 I」(9回目) クロス集計表「統計学」(9, 10回目)、「データ分析の基礎」(12~14回目)、「社会統計学 I」(6, 11, 12回目)、「社会統計学 II」(5~7回目) 統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「統計学」(6回目) データの種類(量的変数、質的変数)「データ処理とデータ解析I」(1回目) データの分布(ヒストグラム)と代表値、代表値の性質の違い、データのばらつき「データ処理とデータ解析I」(2, 3回目) 相関と因果「データ処理とデータ解析I」(11回目) クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「データ処理とデータ解析I」(10回目) データの分布(ヒストグラム)と代表値「情報処理応用演習」(5回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> データの図表表現「情報処理の基礎と演習」(12~14回) データの表現(棒グラフ、折線グラフ)「情報処理の基礎と演習」(14回目) データ表現(棒グラフ、折線グラフ)「情報処理演習 I」(5回目, 10回目, 11回目) データ表現(棒グラフ、折線グラフ)「情報処理演習 II」(10回目) データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図)「統計学」(6回目)、「データ分析の基礎」(8回目) 不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「統計学」(6回目) 優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「統計学」(1回目) データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図)「データ処理とデータ解析I」(2, 3, 11回目) データの表現(散布図)「情報処理応用演習」(5回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> データの集計(和、平均)「情報処理の基礎と演習」(13回目) データの並び替え、ランキング「情報処理の基礎と演習」(13, 15回目) データ解析ツール「情報処理の基礎と演習」(12~15回) データの集計「情報処理演習 I」(4回目) データの集計「情報処理演習 II」(4回目) データの集計、データ解析ツール、表形式のデータ(csv)「データ処理とデータ解析I」(2~15回目) データの集計(和、平均)「データ分析の基礎」(2回目) データの並び替え「データ分析の基礎」(2回目) データ解析ツール(スプレッドシート)「データ分析の基礎」(5~14回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

第1段階(共通基礎)としてデータサイエンスの共通基礎、第2段階(専門基礎)として各専門分野のデータサイエンスの基礎を身につけ、第3段階(専門応用)として各専門分野のデータサイエンスの応用を演習形式で学ぶことにより、データサイエンスの知識やスキルを各専門分野での課題解決に活用できる力を養う。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 人 女性 人 (合計 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数										
人間社会学部	653	150	600	176	100	154	106	163	48	162	51					655	109%
看護学部	379	90	360	97	50	89	49	91	0	100	0					377	105%
合計	1,032	240	960	273	150	243	155	254	48	262	51	0	0	0	0	1,032	108%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

 全学横断型教育プログラムは以下の4つである。
 (1) データサイエンス・プログラム
 (2) 援助力養成プログラム
 (3) 国際交流プログラム
 (4) キャリアマネジメント・プログラム

⑦ 具体的な構成員

 小部会長
 人間社会学部 教授 石崎 龍二
 人間社会学部
 教授 森脇 敦史
 准教授 中村 晋介
 准教授 井上 奈美子
 准教授 柴田 雅博
 准教授 坂無 淳
 看護学部
 准教授 四戸 智昭
 講師 小出 昭太郎

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	108%	令和6年度予定	100%	令和7年度予定	100%
令和8年度予定	100%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	960

具体的な計画

本学は、保健・福祉分野の国家資格取得などを旨とする2学部4学科の「専門コース」での学びに加え、未来社会で活躍するための潜在的な能力や基礎力を身につける「全学横断型教育プログラム」を設けて、創造的な人材育成教育を展開している。

現在、「全学横断型教育プログラム」として、①「データサイエンス・プログラム」をはじめ、②対人支援力を実践する「援助力養成プログラム」、③海外留学を含め4年間で卒業できる「国際交流プログラム」、④就業力強化の「キャリアマネジメント・プログラム」の4つのプログラムを開講しており、学生は自由に選択できるようになっている。

このうち「データサイエンス・プログラム」では、令和2年度から、本プログラムの授業科目群を履修した学生に対し、取得した単位数に応じて「データサイエンス(基礎)学修証明書」または「データサイエンス学修証明書」を交付している。令和4年度からは、データサイエンスのリテラシーレベルを学修した者に「データサイエンス(リテラシー)学修証明書」の交付も開始した。「データサイエンス(リテラシー)学修証明書」の交付を開始したことにより、学修証明書の交付対象者数が令和3年度の48名から令和4年度には155名へ大幅に増加した。

履修率は令和5年度に既に100%に達していることから、「データサイエンス・プログラム」のさらなる発展と修了者数の増加を目指し、学修証明書の交付対象者数を定期的に評価し、必要に応じてプログラムを改善していく予定である。この取り組みにより、プログラムの質の維持・向上を図りつつ、より多くの学生がデータサイエンスのリテラシーを身につけ、未来社会での活躍に必要なスキルを習得できるよう努めていく。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

令和5年度から、全学横断型教育を推進するために、本学の教養教育を運営する「基盤教育センター」に「全学横断型教育小部会」を新たに設置した。「基盤教育センター」は学部・学科を問わず全学生に必要な知識やスキルを身につけさせる基盤教育を運営している。基盤教育は、専門教育を学ぶ前の土台を築くことを目的としている。

「全学横断型教育小部会」では、学生からのフィードバックを取り入れ、教員間で情報を共有しながら、教育プログラムの改善に取り組んでいる。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

毎年度の初めに、全学部・学科の学生を対象に「全学横断型教育プログラム」の履修ガイダンスを実施している。

これに加えて、「データサイエンス・プログラム」への関心を高め、履修者数及び履修率を向上させるため、データサイエンスに関心がある全ての学生を対象に、情報処理関係資格取得支援プログラム説明会を開催している。説明会では、データサイエンス・プログラムの内容、学習することで開けるキャリアパスなど詳しい情報を提供している。これにより、学生の学修意欲を刺激し、プログラムへの参加意欲を高めている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラムでは、多くの授業科目でオンライン学習プラットフォームであるLMSを積極的に活用している。LMS上では、授業資料の閲覧、課題の提出、掲示板を通じた教員や他の学生とのディスカッションなど、学修に必要な様々な機能を提供しており、学生は場所を選ばずに学習を進めることができる。

また、授業では、学期の期末だけではなく中間でも授業アンケートを実施し、授業方法や授業内容を見直し、学生が履修した科目を修得できるような取り組みを行っている。

さらに、マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)資格取得講座を開講している。この講座では、データ分析や情報処理の基本的なスキルを身につけるための実践的なトレーニングを提供し、学生がデータサイエンス分野での実務能力を高める手助けをしている。

以上のようなサポート体制を整え、多くの学生が自分の意欲や能力に合わせた学びを進めることができるようにしている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本教育プログラムでは、学生が授業時間内外にわたって学修支援が受けられるよう学習相談・助言体制を整えている。シラバスには、学生が教員からの学修指導や質問対応を受けるための方法を明記している。

具体的には、オフィスアワーを設定したり、メールやLMS等による質問を受け付け、学生の学びをサポートしている。オフィスアワーの時間帯では、学生が自由に教員のもとを訪れ、授業内容に関する疑問や学修上の課題について相談できる機会を提供している。対面に加えてオンラインでも応じている。

また、学生はメールやLMS等を利用して、授業時間外でも教員に質問を送ることができる。これにより、学生は自宅や学外での学修中に生じた疑問点を迅速に解決することが可能となっている。

こうした仕組みにより、学生は授業時間内だけでなく、授業時間外、学外での学修時にも教員の指導を受けることができる。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

公立大学法人福岡県立大学基盤教育センター全学横断型教育小部会

(責任者名) 石崎龍二

(役職名) 小部会長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムの授業科目群を履修した学生に対し、取得した単位に応じて「データサイエンス(リテラシー)学修証明書」「データサイエンス(基礎)学修証明書」「データサイエンス学修証明書」の3種類の学修証明書を交付している。学修証明書は3年次終了時もしくは卒業時に取得できる。学修証明書の交付は令和2年度から開始した。令和2年度終了時での「データサイエンス(基礎)学修証明書」又は「データサイエンス学修証明書」の取得者数は51名であった。令和4年度からデータサイエンスのリテラシーレベルを学修した者に「データサイエンス(リテラシー)学修証明書」の交付を開始した。令和4年度終了時での3種類の学修証明書のいずれかを取得した学生は155名に大きく増加した。令和5年度終了時でのプログラムの履修率は100%に達している。</p>
学修成果	<p>SD・FD部会において実施している授業アンケートを分析することによって、学修成果を把握している。その結果をもとに、必要に応じて科目担当教員が授業の改善を行っている。</p> <p>令和5年度の授業アンケートにおける「この授業は、授業到達目標が達成できる学習効果の高い授業でしたか」という項目において、データサイエンス共通基礎科目群の平均が約3.6(※)(100点換算で約90点)、データサイエンス専門基礎科目群の平均が約3.5(100点換算で約87.5点)、データサイエンス専門応用科目群の平均が約3.6(100点換算で約90点)であった。</p> <p>以上のことから、学修成果は高いと考えられる。</p> <p>※「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4段階で点数化</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>SD・FD部会において実施している授業アンケートを分析することによって、学生の授業内容の理解度を把握している。その結果をもとに、必要に応じて科目担当教員が授業の改善を行っている。</p> <p>令和5年度の授業アンケートにおける「この授業は、総合的に満足できるものでしたか」という項目において、データサイエンス共通基礎科目群の平均が3.6(※)(100点換算で約90点)、データサイエンス専門基礎科目群の平均が3.5(100点換算で約87.5点)、データサイエンス専門応用科目群の平均が3.5(100点換算で約87.5点)であった。</p> <p>以上のことから、学生の授業内容の理解度は高いと考えられる。</p> <p>※「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4段階で点数化</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>SD・FD部会において、受講生に対する授業アンケートを学期の中間と期末で実施しているが、中間アンケートにおいて、受講生から指摘された授業改善点に対して、授業対応プランを提示している。授業内容や授業形式などを改善することで、より多くの学生にとって魅力的なプログラムとなるように努めている。</p> <p>全授業科目の授業対応プランは科目の受講生以外の全学生が閲覧することができる。受講生の感想や意見に対する教員の対応を掲示することで、より多くの学生が本プログラムに興味を持ち、受講を希望するようになることを期待している。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>令和4年度からデータサイエンスのリテラシーレベルを学修した者に「データサイエンス(リテラシー)学修証明書」の交付を開始した。令和4年度終了時での3種類のデータサイエンス・プログラムの学修証明書のいずれかを取得した学生は、令和3年度の48名に対して155名へ大きく増加した。</p> <p>令和5年度から、全学横断型教育を推進するために、本学の教養教育を運営する「基盤教育センター」に「全学横断型教育小部会」を新たに設置し、履修者数、履修率の向上に取り組んでいる。令和5年度終了時では、プログラムの履修率が100%に達した。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>卒業生の就職率は、令和4年度では、公共社会学科96.2%（民間企業・団体等、官公庁、教員、大学院進学等）、社会福祉学科100%（社会福祉施設、病院医療施設、官公庁、教員、大学院進学等）、人間形成学科100%（幼稚園・保育所、民間企業・団体等、官公庁、教員、大学院進学等）、看護学科100%（医療施設、官公庁（保健師）、教員（養護教諭）、大学院進学等）である。</p> <p>進路・生活支援部会において、毎年、卒業生就職先アンケートを実施し、本学の卒業生に対する企業等評価を把握している。</p> <p>令和5年度の卒業生就職先アンケートでは、送付数172に対して57の回答を得た（回収率33.1%）。本学の卒業生が身についていると感じる能力に関して「そう思う」又は「ややそう思う」と回答を得た割合が、「大学で学んだ専門分野の知識」が69.1%、「大学で学んだ専門分野のスキル」が65.5%「情報を分析する力」が65.5%であった。</p> <p>令和5年度から、本教育プログラムの改善に向けて、学外からの意見を広く取り入れるために、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムに参画している。基盤教育センター全学横断型教育小部会において、本コンソーシアムを通して、産業界からの視点を取り入れたり、先進的な取り組みをしている大学を参考にして、教育プログラムの授業や実データを活用した演習等の手法の改善に取り組んでいる。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>社会におけるデータとAIの活用に関する学習の場面では、現実の社会での実例を紹介し、AIがどのように活用されているかを示し、学生の学ぶ楽しさや学ぶことの意義が理解できるように工夫している。さらに、映像資料を活用することで、理解を深めるようにしている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>SD・FD部会が全学授業アンケートを、各学期の中間と期末に実施している。</p> <p>このアンケートを通じて、授業方法や授業内容に関する学生からのフィードバックを収集し、特に授業の「分かりやすさ」に着目して、各授業科目の内容や実施方法を見直し、授業の質を維持・向上させる取り組みを行っている。</p>

科目名	数学概論		
科目名(英語)	Introduction to Mathematics		
担当教員	石崎 龍二		
科目区分	基盤教育科目、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(情報)、上級情報処理士資格		
標準履修年次	1～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本講義では、自然現象や社会現象を数学的に記述・分析するための基礎的な数学を学ぶ。具体的には、問題に対して帰納的、類推的、演繹的、体系的、抽象的に考える力を養うための「集合・論理」、関数で表現されたデータの変化率を求める「微分」、変化の累積を求める「積分」、多変数を扱う基礎となる「線形代数」などを学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
特になし。

関連資格

上級情報処理士

テキスト

独自テキストを配付する。

参考図書・教材等

開講時に紹介する。

学習相談・助言体制

授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	「集合・論理」「微分積分」「線形代数」に関する基本的概念を理解している。
(DP2)	基本的な集合演算ができる。 初等関数の微分・積分ができる。 行列の基本演算ができる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

「集合・論理」「微分積分」「線形代数」に関する基本的概念を理解し、基本的な集合演算、初等関数の微分・積分、行列の基本演算ができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

「集合・論理」「微分積分」「線形代数」に関する基本的概念を理解している。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。
不可: ~59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	50	知識・技能(DP1)：20，(DP2)：30
授業外レポート・宿題	20	知識・技能(DP1)：7，(DP2)：13
授業態度・授業への参加度	30	知識・技能(DP1)：10，(DP2)：20
備考	再試験を実施する。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	数の基礎 - 自然数、整数、有理数、実数、複素数
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	自然数、整数、有理数、実数、複素数の違いについて整理する。
2	授業内容(担当教員)	集合と集合の演算
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	集合の定義と演算について整理する。
3	授業内容(担当教員)	命題と論理
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	命題と論理について整理する。
4	授業内容(担当教員)	関数 - 集合と写像、1次関数、2次関数
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	講義1次関数と2次関数について整理する。
5	授業内容(担当教員)	関数 - 指数関数、対数関数、三角関数
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	指数関数、対数関数、三角関数について整理する。
6	授業内容(担当教員)	微分 - 関数の極限
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	関数の極限について整理する。
7	授業内容(担当教員)	微分 - 微分係数
	授業方法/進め方	講義・レポート課題提示
	事前・事後学習	微分係数について整理し、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
8	授業内容(担当教員)	微分 - 導関数
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	導関数について整理する。
9	授業内容(担当教員)	積分 - 不定積分
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	不定積分について整理する。
10	授業内容(担当教員)	積分 - 置換積分、部分積分
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	置換積分、部分積分について整理する。
11	授業内容(担当教員)	積分 - 定積分
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	定積分について整理する。
12	授業内容(担当教員)	線形代数 - ベクトル、行列
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	ベクトル、行列について整理する。
13	授業内容(担当教員)	線形代数 - 行列式
	授業方法/進め方	講義・レポート課題提示
	事前・事後学習	行列式について整理し、講義終了時に提示

14	授業内容（担当教員）	線形代数 - 行列式の展開と逆行列
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	行列式の展開と逆行列について整理する。
15	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	本講義の履修目標に達していない部分について復習し、定期試験に備える。

科目名	統計学		
科目名(英語)	Statistics		
担当教員	坂無 淳		
科目区分	基盤教育科目、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(情報)、上級情報処理士資格		
標準履修年次	1～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

統計学の基本的事項を理解することを目的に、統計学の考え方、記述統計学や推測統計学の基礎を学ぶ。統計学の基本的事項(統計学の考え方、記述統計学や推測統計学の基礎ほか)について講義する。また統計学が現実社会や研究にどのように活用されているのかについても解説する。(専門的教育の基礎を主たる目的とする科目)

履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等

電卓を用意すること(初回に指示する)。高校で学習した統計に関する知識と重なる部分があるのでよく復習しておくこと。

学期開始前と初回に授業の実施方法について確認すること。

テキスト

講義資料(レジュメ)を配布する。

参考図書・教材等

参考文献: 栗原伸一・丸山敦史『統計学図鑑』オーム社、2017。廣瀬毅士・寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010。ほか授業内で指示する。

学習相談・助言体制

授業中や前後での質問、課題、メール等。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	データの要約や解釈を行うための統計学の基本的な知識を身につけている。
-------	------------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	統計学の基本的な知識に基づいて論理的に思考・判断することができる。
-------	-----------------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

統計学の基礎的な知識と技能について、正確に理解したうえで、論理的に思考・判断することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

統計学の基礎的な知識と技能について、基本的な理解ができている。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
履修目標(統計学の基礎的な知識と技能について、正確に理解したうえで、論理的に思考・判断することができる。)	だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
履修目標(統計学の基礎的な知識と技能について、正確に理解したうえで、論理的に思考・判断することができる。)	を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
到達目標(統計学の基礎的な知識と技能について、基本的な理解ができている。)	は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。
到達目標(統計学の基礎的な知識と技能について、基本的な理解ができている。)	を達成している。
不可:～59	到達目標を達成できていない。
到達目標(統計学の基礎的な知識と技能について、基本的な理解ができている。)	を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内課題	60	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3)
宿題・授業内レポート	40	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3)
備考	各回の課題やレポートの提出方法を初回や授業内の説明で確認すること。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	ガイダンス
	授業方法/進め方	講義ほか
	事前・事後学習	授業で指示する授業資料の予習と復習。
2	授業内容(担当教員)	統計について学ぶための基礎知識
	授業方法/進め方	講義ほか
	事前・事後学習	授業で指示する授業資料の予習と復習。
3	授業内容(担当教員)	統計の種類と具体例
	授業方法/進め方	講義ほか
	事前・事後学習	授業で指示する授業資料の予習と復習。
4	授業内容(担当教員)	度数分布、代表値と散布度
	授業方法/進め方	講義ほか
	事前・事後学習	授業で指示する授業資料の予習と復習。
5	授業内容(担当教員)	代表値と散布度、標準化
	授業方法/進め方	講義ほか
	事前・事後学習	授業で指示する授業資料の予習と復習。
6	授業内容(担当教員)	正規分布、図表の種類と効果的な表現方法
	授業方法/進め方	講義ほか
	事前・事後学習	授業で指示する授業資料の予習と復習。
7	授業内容(担当教員)	相関係数
	授業方法/進め方	講義ほか
	事前・事後学習	授業で指示する授業資料の予習と復習。
8	授業内容(担当教員)	回帰分析、確認小テスト
	授業方法/進め方	講義、確認小テストほか
	事前・事後学習	授業で指示する授業資料の予習と復習。授業前半の復習。
9	授業内容(担当教員)	クロス集計(クロス集計の基本ほか)
	授業方法/進め方	講義ほか
	事前・事後学習	授業で指示する授業資料の予習と復習。
10	授業内容(担当教員)	クロス集計(3重クロス集計ほか)
	授業方法/進め方	講義ほか
	事前・事後学習	授業で指示する授業資料の予習と復習。
11	授業内容(担当教員)	記述統計学と推測統計学
	授業方法/進め方	講義ほか
	事前・事後学習	授業で指示する授業資料の予習と復習。
12	授業内容(担当教員)	統計的推定と統計的検定(t検定ほか)
	授業方法/進め方	講義ほか
	事前・事後学習	授業で指示する授業資料の予習と復習。
13	授業内容(担当教員)	統計的推定と統計的検定(独立性の検定ほか)
	授業方法/進め方	講義ほか
	事前・事後学習	授業で指示する授業資料の予習と復習。

14	授業内容（担当教員）	統計的推定と統計的検定、授業内レポート
	授業方法 / 進め方	講義・授業内レポート
	事前・事後学習	授業後半を中心とした授業全体の復習。
15	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	授業で指示する授業資料の予習と復習。授業全体の復習。
備考	<p>受講生の状況、授業進行の状況に応じて、スケジュールを変更する場合がありますので、授業で最新情報を確認すること。授業内で行う作業・課題やレポート作成は、履修学生の知識、パソコン操作技術などによって、ある程度進み具合が異なることが予想される。授業内でも標準的な時間をとるが、時間内に作業が終わらなかった回は各自必ず復習し、次回までに理解してくること。積み重ねが重要なので、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。</p>	

科目名	情報科学		
科目名（英語）	Information Science		
担当教員	石崎 龍二		
科目区分	基盤教育科目、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許（情報）、上級情報処理士資格		
標準履修年次	1～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本講義では、高度情報化社会を支える情報機器や情報通信技術の仕組み等について学ぶ。情報機器や情報通信技術が発展する一方で、不正アクセス、コンピュータウイルスなどのサイバー犯罪が社会問題になってきた。こうした様々な脅威に対する情報セキュリティ対策について学ぶ。
本科目は本学専門教育の基礎となる知識の修得を主たる目的とする。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
特になし。

関連資格

上級情報処理士

テキスト

独自テキストを配付する。

参考図書・教材等

駒谷昇一編著、『情報と社会』、オーム社、2004年、（2,625円） ICT基礎教育研究会著、『ネットワーク社会における情報の活用と技術』、実況出版、2003年、（2,100円）

学習相談・助言体制

授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	コンピュータやコンピュータネットワークの基本的な仕組みを理解している。 情報のデジタル表現について理解している。 情報セキュリティ対策の基礎について理解している。
(DP2)	種々のアナログ情報を2進数を使って表現できる。 種々のアナログ情報の情報量を計算できる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

情報のデジタル表現、コンピュータやコンピュータネットワークの基本的な仕組み、情報セキュリティ対策の基礎を理解しており、情報化社会の諸問題に対し、情報科学の知識に基づいて論理的に考察できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。

履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

情報のデジタル表現、コンピュータやコンピュータネットワークの基本的な仕組み、サイバー犯罪及び情報セキュリティ対策の基礎を理解している。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	40	知識・技能(DP1) : 20 , (DP2) : 20
確認テスト	10	知識・技能(DP1) : 5 , (DP2) : 5
授業外レポート・宿題	20	知識・技能(DP1) : 10 , (DP2) : 10
授業態度・授業への参加度	30	知識・技能(DP1) : 15 , (DP2) : 15
備考	再試験を実施する。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	コンピュータの歴史 - ENIACからPCの出現まで
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	コンピュータの歴史について整理
2	授業内容(担当教員)	コンピュータの基本構成
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	コンピュータの5大装置について整理
3	授業内容(担当教員)	情報のデジタル表現 - アナログとデジタル、2進数、16進数
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	2進数、16進数、進数変換の方法について整理
4	授業内容(担当教員)	情報のデジタル表現 - 数字、文字のデジタル化
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	JISコードとASCIIコードの違いを整理
5	授業内容(担当教員)	情報のデジタル表現 - 音、画像のデジタル化
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	普段扱っている文書ファイルの情報量と音声や画像データの情報量とを比較する。
6	授業内容(担当教員)	デジタル情報の圧縮技術
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	可逆圧縮と非可逆圧縮の仕組みについて整理
7	授業内容(担当教員)	コンピュータネットワークの歴史 - ARPANETからInternetまでの発展
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	集中処理方式と分散処理方式の違いを整理
8	授業内容(担当教員)	情報通信ネットワークのしくみ - パケット通信、通信プロトコル、IPアドレス
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	パケット交換方式や通信プロトコルの特徴を整理
9	授業内容(担当教員)	情報通信ネットワークのしくみ - DNS、WWW、電子メールのしくみ
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	TCP/IPプロトコルのアプリケーション層の働きについて整理
10	授業内容(担当教員)	情報セキュリティ対策 - 物理的脅威
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	インターネットで、サイバー犯罪の統計情報を確認、暗号化方式について整理

11	授業内容（担当教員）	情報セキュリティ対策 - 技術的脅威
	授業方法 / 進め方	講義・レポート課題提示
	事前・事後学習	コンピュータウイルス対策ソフトとファイアウォールの働きを整理し、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
12	授業内容（担当教員）	情報セキュリティ対策 - 人的脅威
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	ソーシャルエンジニアリングとその対策について整理
13	授業内容（担当教員）	情報社会と法律
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	個人情報、プライバシー権、肖像権、知的財産権等について整理
14	授業内容（担当教員）	情報社会とメディア
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	マスメディアとインターネットの特性について整理
15	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	本講義の履修目標に達していない部分について復習し、定期試験に備える。

科目名	情報処理の基礎と演習		
科目名(英語)	The General Constructs of Information		
担当教員	柴田 雅博		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(公民)、高等学校教諭一種免許(情報)、中学校教諭一種免許(社会)、上級情報処理士資格		
標準履修年次	1～4年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本学専門教育を受ける際に必修となる情報基礎スキルの習得を目的とする。

レポート作成や課題発表に必要な基礎知識として、パソコンの基本操作、Wordを使った文書作成、Excelを使った表計算・グラフ作成、PowerPointを使った発表資料の作成を学習する。また、インターネットを利用し効率的に情報検索を行う方法を学習する。そのほか、ICT機器やインターネットの利用に対する基礎的なセキュリティ知識を学習する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

なし

関連資格

高等学校教諭一種免許(公民)、高等学校教諭一種免許(情報)、中学校教諭一種免許(社会)、上級情報処理士

テキスト

矢野文彦『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2019+Access対応版』, オーム社, 2019, 2400円

参考図書・教材等

なし

学習相談・助言体制

授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	ICT機器およびネットワークに関する基礎知識と基本的技能を身に付ける。 ICT機器を安全に活用するための基礎的なセキュリティ知識を身に付ける。
-------	--

思考・判断・表現

(DP3)	ICTを活用し、大学の授業で必要な調査、レポート作成、発表などを問題なく行える。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

ICTに対する基礎知識を身につけ、ICTを十分に活用しながら、効率的に調査、レポート作成、発表などを実施することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

ICTを活用し、大学の授業で必要な調査、レポート作成、発表などを問題なく行える。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業演習課題	60	知識・技能(DP2)：50，思考・判断・表現(DP3)：10
授業態度・参加度	40	知識・技能(DP2)：20，思考・判断・表現(DP3)：20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

その他：PCを使った演習

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	オリエンテーション：Windowsの基本操作、電子メール、印刷、e-learning
	授業方法 / 進め方	オリエンテーション 学内情報システム利用演習
	事前・事後学習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 大学のパソコン環境が問題なく利用できるようにしておく。パスワード変更など個人アカウントの設定をしておく。
2	授業内容（担当教員）	インターネットの利用：電子メールの書き方、インターネットの概要、Web検索、その他ネットワークサービスの利用
	授業方法 / 進め方	講義とメール作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
3	授業内容（担当教員）	情報セキュリティ：情報機器利用に対するトラブル、情報セキュリティ対策、ネットリテラシー、著作権など
	授業方法 / 進め方	講義と教材動画の閲覧
	事前・事後学習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 情報セキュリティに関して十分復習しておく。
4	授業内容（担当教員）	Wordを使った文書作成：文字入力、文字修飾、印刷、保存
	授業方法 / 進め方	Wordでの文書作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
5	授業内容（担当教員）	Wordを使った文書作成：書式設定、文書の体裁（1）（引用、脚注）
	授業方法 / 進め方	Wordでの文書作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 演習課題を進めておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
6	授業内容（担当教員）	Wordを使った文書作成：文書の体裁（2）（タブとリーダー、ページ番号）
	授業方法 / 進め方	Wordでの文書作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他

7	授業内容（担当教員）	Wordを使った文書作成：表と図の挿入
	授業方法 / 進め方	Wordでの文書作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
8	授業内容（担当教員）	PowerPointを使った発表資料の作成：基本的なスライドの作成
	授業方法 / 進め方	PowerPointでの資料作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 演習課題を進めておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
9	授業内容（担当教員）	PowerPointを使った発表資料の作成：図表の挿入、図形の挿入
	授業方法 / 進め方	PowerPointでの資料作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 演習課題を進めておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容（担当教員）	PowerPointを使った発表資料の作成：アニメーション
	授業方法 / 進め方	PowerPointでの資料作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
11	授業内容（担当教員）	PowerPointを使った発表資料の作成：写真の編集、飾り文字
	授業方法 / 進め方	PowerPointによるポスター作成演習 ポスター作成に使用するため事前に写真を準備
	事前・事後学習	事前に、ポスター作成に使用するための写真を準備しておく。 事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
12	授業内容（担当教員）	Excelを使った表計算：表の作成
	授業方法 / 進め方	Excelを使った表の作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
13	授業内容（担当教員）	Excelを使った表計算：関数
	授業方法 / 進め方	Excelの関数の演習
	事前・事後学習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
14	授業内容（担当教員）	Excelを使った表計算：グラフ
	授業方法 / 進め方	Excelを用いたグラフ作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
15	授業内容（担当教員）	Excelを使った表計算：データベースとしての利用
	授業方法 / 進め方	Excelのデータベース利用演習
	事前・事後学習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他

科目名	情報処理演習		
科目名(英語)	Information Processing		
担当教員	四戸 智昭、原田 直樹		
科目区分	看護学部 看護学科、データサイエンス・プログラム、看護師国家試験受験資格、養護教諭一種免許		
標準履修年次	1～4年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位	1単位

・科目情報

授業概要

パソコンを用いて、レポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける基本的な操作方法を習得するとともに、インターネットに代表される情報通信技術やその利用方法を学ぶ。加えて、それら情報に対するメディアリテラシーを身に付ける。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
なし

関連資格

看護師、養護教諭1種

テキスト

イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応、noa出版

参考図書・教材等

授業で適宜指示する。

授業中の撮影

無

学習相談・助言体制

オフィスアワー、メールで対応する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	目的に適合するように情報収集するとともに、得た情報を使用することができる。
-------	---------------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	パソコンを活用して、必要な情報を収集し、わかりやすくまとめることができる。 各自の関心事について、主体的に調べ、まとめ、プレゼンテーションすることができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

コンピューターを用いて、レポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける基本的な操作方法を習得するとともに、インターネットに代表される情報通信技術やその利用方法を学び、それら情報に対するメディアリテラシーを身に付けることができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

コンピューターの基本的な操作方法を習得するとともに、インターネット等に対するメディアリテラシーを身に付けること。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

パソコンを用いてレポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける十分な操作方法を習得し、それらを用いて主体的に調べ、まとめて、高度なプレゼンテーションができるとともに、インターネット等に対するメディアリテラシーを理解し、実践できる。

A:80～89 履修目標を達成している。

コンピューターを用いてレポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける基本的な操作方法を習得し、それらを用いたある程度のプレゼンテーションができるとともに、インターネット等に対するメディアリテラシーを理解し、実践できる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

コンピューターの基本的な操作方法を習得するとともに、インターネット等に対するメディアリテラシーを理解し、実践できる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

コンピューターの基本的な操作方法を習得するとともに、インターネット等に対するメディアリテラシーを理解している。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

コンピューターの基本的な操作方法が習得できず、インターネット等に対するメディアリテラシーが身に付いていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	60	知識・技能(DP2) : 40, 思考・判断・表現(DP3) : 20
授業外レポート・宿題	10	知識・技能(DP2) : 10
発表	20	思考・判断・表現(DP3) : 20
その他	10	思考・判断・表現(DP3) : 10

・授業計画、 . アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
各自、パソコンを用いての演習、発表

回	授業計画	
1 [メディア]	授業内容 (担当教員)	オリエンテーション-大学Webメール、eラーニング、周辺機器の取扱
	授業方法 / 進め方	1. 講義 大学Webメール、eラーニング、周辺機器の取扱等について説明する 2. 演習 大学Webメール、eラーニングを操作し、メールの送受信方法やeラーニングの基本的な操作方法を身に付ける。
	事前・事後学習	【事前】アカウント情報 (IDやパスワード)を確認しておく。テキスト1～28ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
2 [メディア]	授業内容 (担当教員)	ワープロソフト (Word) - 書式設定
	授業方法 / 進め方	【講義】 ワープロソフト (Word) の基本操作から書式設定までを説明する。 【演習】 ワープロソフト (Word) を操作し、テキストおよび配布資料に沿って文書作成をする。
	事前・事後学習	【事前】テキスト30～59ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習

3 [ｽﾀｲﾌﾟ]	授業内容（担当教員）	ワープロソフト（Word） - チラシを作ってみよう
	授業方法 / 進め方	【講義】 ワープロソフト（Word）の書式設定とレポート作成に必要な機能について説明する。 【演習】 ワープロソフト（Word）を操作し、テキストおよび配布資料に沿って文書作成をする。
	事前・事後学習	【事前】テキスト60～98ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
4 [ｽﾀｲﾌﾟ]	授業内容（担当教員）	表計算ソフト（Excel） - 簡単な数値演算
	授業方法 / 進め方	【講義】 表計算ソフト（Excel）の基本操作から簡単な数値演算までを説明する。 【演習】 表計算ソフト（Excel）を操作し、テキストおよび配布資料に沿って簡単な演算を行う。
	事前・事後学習	【事前】テキスト99～129ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
5 [ｽﾀｲﾌﾟ]	授業内容（担当教員）	表計算ソフト（Excel） - 関数の活用
	授業方法 / 進め方	【講義】 表計算ソフト（Excel）の関数について説明する。 【演習】 表計算ソフト（Excel）を操作し、テキストおよび配布資料に沿って関数演算を行う。
	事前・事後学習	【事前】テキスト130～176ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
6 [ｽﾀｲﾌﾟ]	授業内容（担当教員）	プレゼンテーションソフト（Power Point） - アニメーションの設定
	授業方法 / 進め方	【講義】 プレゼンテーションソフト（Power Point）の基本操作からアニメーションの設定までを説明する。 【演習】 プレゼンテーションソフト（Power Point）を操作し、テキストおよび配布資料に沿ってスライド作成を行う。
	事前・事後学習	【事前】テキスト177～210ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習

7 [メディア]	授業内容（担当教員）	プレゼンテーションソフト（Power Point） - 効果的なスライドの作成
	授業方法 / 進め方	【講義】 プレゼンテーションソフト（Power Point）を中心としたさまざまな方法による効果的なプレゼンテーションの方法とスライド作成について説明する。 【演習】 プレゼンテーションソフト（Power Point）を操作し、テキストおよび配布資料に沿ってスライド作成を行う
	事前・事後学習	【事前】テキスト211～248ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
8 [メディア]	授業内容（担当教員）	インターネット概論
	授業方法 / 進め方	【講義】 インターネットの仕組みや利用状況等の概要やWeb検索に必要なブラウザや基本的な検索方法について【講義】する。 【演習】 より正確な情報を得るための様々な方法によるWeb検索を行う。
	事前・事後学習	【事前】テキスト249～273ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
9 [メディア]	授業内容（担当教員）	メディアリテラシー
	授業方法 / 進め方	【講義】 コンピューターリテラシーや情報リテラシーについて講義するとともに、インターネット上の情報の信頼性評価について講義する。 【演習】 検索したWebページの信頼性評価を行う。
	事前・事後学習	【事前】テキスト273～287ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
10 [メディア]	授業内容（担当教員）	情報検索と集約
	授業方法 / 進め方	【講義】 コンピューターを用いた文献検索や統計情報検索の方法について講義する。 【演習】 コンピューターを用いて、様々な方法による文献検索や統計情報検索を行う。
	事前・事後学習	【事前】政府統計の総合窓口（e-Stat）にアクセスし、どのような統計データがあるのか見ておく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習

11 [メディア]	授業内容（担当教員）	情報検索と集約
	授業方法 / 進め方	<p>【演習】 コンピューターを用いて、様々な方法による文献検索や統計情報検索を行う。</p> <p>【レポート】 関心のある保健福祉に関するテーマで情報を収集し、プレゼンテーションスライドを作成し、提出する。</p>
	事前・事後学習	<p>【事前】e-Stat等を活用して、関心のある保健福祉に関するテーマで情報を収集する。</p> <p>【事後】上記テーマでプレゼンテーションスライドを作成し、提出する。</p>
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
12 [メディア]	授業内容（担当教員）	プレゼンテーション発表
	授業方法 / 進め方	<p>【演習・課題発表】 各自が関心のある保健福祉に関するテーマで情報を収集し、作成したプレゼンテーションスライドを使って、プレゼンテーションを行う。</p>
	事前・事後学習	<p>【事前】テキスト178～185、243～248ページを読んでおく。発表資料の準備をしておく。プレゼンテーション課題は事前に提出しておく。</p> <p>【事後】自身や他者の発表を振り返り、プレゼンテーション技術の向上についてまとめておく。</p>
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、その他
13 [メディア]	授業内容（担当教員）	プレゼンテーション発表
	授業方法 / 進め方	<p>【演習・課題発表】 各自が関心のある保健福祉に関するテーマで情報を収集し、作成したプレゼンテーションスライドを使って、プレゼンテーションを行う。</p>
	事前・事後学習	<p>【事前】テキスト178～185、243～248ページを読んでおく。発表資料の準備をしておく。</p> <p>【事後】自身や他者の発表を振り返り、プレゼンテーション技術の向上についてまとめておく。</p>
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、その他
14 [メディア]	授業内容（担当教員）	プレゼンテーション発表
	授業方法 / 進め方	<p>【演習・課題発表】 各自が関心のある保健福祉に関するテーマで情報を収集し、作成したプレゼンテーションスライドを使って、プレゼンテーションを行う。</p>
	事前・事後学習	<p>【事前】テキスト178～185、243～248ページを読んでおく。発表資料の準備をしておく。</p> <p>【事後】自身や他者の発表を振り返り、プレゼンテーション技術の向上についてまとめておく。</p>
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、その他

15 [マイ]	授業内容 (担当教員)	プレゼンテーション発表・まとめ
	授業方法 / 進め方	【演習・課題発表】 各自が関心のある保健福祉に関するテーマで情報を収集し、作成したプレゼンテーションスライドを使って、プレゼンテーションを行う。
	事前・事後学習	【事前】テキスト178～185、243～248ページを読んでおく。発表資料の準備をしておく。 【事後】自身や他者の発表を振り返り、プレゼンテーション技術の向上についてまとめておく。授業全体を振り返り、学んだ技術を今後の大学での学習に生かせるようにしておく。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、その他

科目名	情報処理演習		
科目名（英語）	Information Processing		
担当教員	原田 直樹		
科目区分	看護学部 看護学科、データサイエンス・プログラム、養護教諭一種免許		
標準履修年次	1～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

パソコンを用いて、Windowsとともに、レポート作成やプレゼンテーション時に必要な代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。具体的にはWordを使った文書作成、Excelを使った表計算及びグラフの作成、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法を修得する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
なし

関連資格

養護教諭1種

テキスト

イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応、noa出版

参考図書・教材等

授業中に適宜指示する。

授業中の撮影

無

学習相談・助言体制

オフィスアワー、メールで対応する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	目的に適合するように情報収集するとともに、得た情報を使用することができる。
-------	---------------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	WordやExcel、PowerPoint等のアプリケーションを活用して、情報をわかりやすくまとめることができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

コンピューターを用いて、Windowsとともに、レポート作成やプレゼンテーション時に必要な代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を習得する。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

コンピューターの基本的な操作方法が習得できている。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。 コンピューターを用いてレポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける十分な操作方法を習得し、それらを用いて主体的に調べ、まとめて、伝わりやすいレポートやプレゼンテーション資料を作成することができる。
A: 80～89	履修目標を達成している。 コンピューターを用いてレポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける基本的な操作方法を習得し、それらを用いて与えられた内容について調べ、まとめて、レポートやプレゼンテーション資料を作成することができる。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

レポートやプレゼンテーションの形式を理解し、コンピューターを用いてレポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける基本的な操作方法を習得できている。

C:60～69 到達目標を達成している。

コンピューターの基本的な操作方法が習得できている。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

コンピューターの基本的な操作方法が習得できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	70	知識・技能(DP2)：40，思考・判断・表現(DP3)：30
授業外レポート・宿題	20	知識・技能(DP2)：10，思考・判断・表現(DP3)：10
その他	10	思考・判断・表現(DP3)：10

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

各自、パソコンを用いた演習

回	授業計画	
1 [メディア]	授業内容(担当教員)	オリエンテーション 基本的なPC操作
	授業方法/進め方	【講義】 大学Webメール、eラーニング、周辺機器の取扱等について説明する 【演習】 大学Webメール、eラーニングを操作し、メールの送受信方法やeラーニングの基本的操作方法を身に付ける。
	事前・事後学習	【事前】アカウント情報(IDやパスワード)を確認しておく。テキスト1～28ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習、体験学習/調査学習
2 [メディア]	授業内容(担当教員)	ワープロソフト(Word) - 入力、印刷、保存
	授業方法/進め方	【講義】 ワープロソフト(Word)の基本操作(入力、印刷、保存)を説明する。 【演習】 ワープロソフト(Word)を操作し、テキストおよび配布資料に沿って文書作成をし、印刷、保存をする。
	事前・事後学習	【事前】テキスト30～59ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習、体験学習/調査学習

3 [メディア]	授業内容(担当教員)	ワープロソフト(Word) - 書式設定
	授業方法/進め方	【講義】 ワープロソフト(Word)の書式設定とレポート作成に必要な機能について説明する。 【演習】 ワープロソフト(Word)を操作し、テキストおよび配布資料に沿って文書作成をする。
	事前・事後学習	【事前】テキスト60～98ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習、体験学習/調査学習
4 [メディア]	授業内容(担当教員)	表計算ソフト(Excel) - 入力、簡単な計算表の作成
	授業方法/進め方	【講義】 表計算ソフト(Excel)の基本操作から簡単な計算表までを説明する。 【演習】 表計算ソフト(Excel)を操作し、テキストおよび配布資料に沿って簡単な計算表の作成を行う。
	事前・事後学習	【事前】テキスト99～129ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習、体験学習/調査学習
5 [メディア]	授業内容(担当教員)	表計算ソフト(Excel) - グラフの作成
	授業方法/進め方	【講義】 表計算ソフト(Excel)のグラフについて説明する。 【演習】 表計算ソフト(Excel)を操作し、テキストおよび配布資料に沿ってグラフの作成を行う。
	事前・事後学習	【事前】テキスト130～176ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習、体験学習/調査学習
6 [メディア]	授業内容(担当教員)	プレゼンテーションソフト(Power Point) - 入力、スライドの作成
	授業方法/進め方	【講義】 プレゼンテーションソフト(Power Point)の基本操作(入力、スライド作成)を説明する。 【演習】 プレゼンテーションソフト(Power Point)を操作し、テキストおよび配布資料に沿ってスライド作成を行う。
	事前・事後学習	【事前】テキスト186～210ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習、体験学習/調査学習

7 [マイ]	授業内容 (担当教員)	プレゼンテーションソフト (Power Point) - オブジェクトの取扱
	授業方法 / 進め方	【講義】 プレゼンテーションソフト (Power Point) のオブジェクト取り扱いについて説明する。 【演習】 プレゼンテーションソフト (Power Point) を操作し、テキストおよび配布資料に沿ってスライド作成を行う
	事前・事後学習	【事前】テキスト211～242ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
8 [マイ]	授業内容 (担当教員)	インターネットの利用 - セキュリティと情報モラル
	授業方法 / 進め方	【講義】 インターネットの仕組みや利用状況等の概要やWeb検索に必要なブラウザや基本的な検索方法について講義する。 【演習】 より正確な情報を得るための様々な方法によるWeb検索を行う。
	事前・事後学習	【事前】テキスト249～273ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
9 [マイ]	授業内容 (担当教員)	インターネットの利用 - Webページ検索の方法、メディアリテラシー
	授業方法 / 進め方	【講義】 コンピューターリテラシーや情報リテラシーについて講義するとともに、インターネット上の情報の信頼性評価について講義する。 【演習】 検索したWebページの信頼性評価を行う。
	事前・事後学習	【事前】テキスト273～287ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
10 [マイ]	授業内容 (担当教員)	インターネットの利用 - 統計データ検索と加工
	授業方法 / 進め方	【講義】 コンピューターを用いた文献検索や統計情報検索の方法について講義する。 【演習】 コンピューターを用いて、様々な方法による文献検索や統計情報検索を行う。
	事前・事後学習	【事前】政府統計の総合窓口 (e-Stat) にアクセスし、どのような統計データがあるのか見ておく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習

11 [メディア]	授業内容（担当教員）	レポート作成のルールと必要な技術 - 著作権とワードでの文献リストの作成
	授業方法 / 進め方	【演習】 レポート作成における引用・参考文献の取り扱い方法とワープロソフト（Word）での文献リスト作成について講義する。 【レポート】 ワープロソフト（Word）を操作し、文献リストを作成する。
	事前・事後学習	【事前】テキスト81～98ページを再度読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題をeラーニングで提出する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
12 [メディア]	授業内容（担当教員）	レポート作成のルールと必要な技術 - エクセルの活用
	授業方法 / 進め方	【講義】 レポート作成における図表の取り扱い方法と表計算ソフト（Excel）とワープロソフト（Word）との連動について説明する。 【演習】 表計算ソフト（Excel）を操作し、テキストおよび配布資料に沿ってレポートの図表作成を行う。
	事前・事後学習	【事前】テキスト87～89ページ、153～176ページを再度読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題をeラーニングで提出する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
13 [メディア]	授業内容（担当教員）	プレゼンテーション技術 - 動画作成
	授業方法 / 進め方	【講義】 プレゼンテーションの場に応じた様々なプレゼンテーション媒体について説明する。 【演習】 動画作成ソフトを操作して、動画を作成する。
	事前・事後学習	【事前】動画作成に使用する写真（jpegやpng）や音楽（mp3）を準備する。 【事後】授業中に提示された課題をeラーニングで提出する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
14 [メディア]	授業内容（担当教員）	プレゼンテーション技術 - 伝えるための発表の技術
	授業方法 / 進め方	【講義】 プレゼンテーションの場に応じた様々なプレゼンテーション媒体について説明する。 【演習】 動画作成ソフトを操作して、動画を作成する。
	事前・事後学習	【事前】テキスト178～185ページ、243～248ページを読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題をeラーニングで提出する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習

15 [メディア]	授業内容 (担当教員)	まとめ - 新聞の作成
	授業方法 / 進め方	【演習】 これまでの授業で身に付けた技術を駆使し、各自が関心のあるテーマで情報を収集し、新聞の形式にまとめて、伝わり内容の新聞を作成する。
	事前・事後学習	【事前】テキスト30～129ページを再度読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題をeラーニングで提出する。授業全体を振り返り、学んだ技術を今後の大学での学習に生かせるようにしておく。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習

科目名	情報処理応用演習		
科目名(英語)	Advanced Information Processing Practicum		
担当教員	柴田 雅博		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(情報)、上級情報処理士資格		
標準履修年次	1～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

「情報処理の基礎と演習」では、Microsoft Officeを中心に本学で専門教育を受けるのに必要な基礎技能を身に付けた。本演習では、より専門性を深めてOfficeソフトを利用する技能を身に付ける。Word, Excelの使い方についてさらに掘り下げ、またデータベースソフトであるAccessの使用法を学習する。また、VBAマクロの基本についても学習する。

履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等

「情報処理の基礎と演習」を受講していること

関連資格

高等学校教諭一種免許(情報), 上級情報処理士

テキスト

矢野文彦『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2019+Access対応版』, オーム社, 2019, 2400円

参考図書・教材等

なし

学習相談・助言体制

授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、調査研究、卒業論文執筆などに必要なスキルを身につける。 データベースソフトの機能を理解し、作業を行うことができる。
-------	--

思考・判断・表現

(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> 調査データをどのように分析し、また分析データをどのように表現するか、その方法を修得している。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

ICTを適切に活用し、調査研究、卒業論文執筆などを自由に行うことができる。マクロなどを使って業務の効率化を図ることができる。データベースソフトを用いてデータ管理を実施できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

ICTを活用し、調査研究、卒業論文執筆などに必要なスキルを身につける。データベースソフトの機能を理解し、作業を行うことができる。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
演習課題	60	知識・技能(DP2)：50，思考・判断・表現(DP3)：10
授業態度・参加度	40	知識・技能(DP2)：20，思考・判断・表現(DP3)：20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

その他：PCを使った演習

回	授業計画	
1 [ｽﾃｲｱ]	授業内容（担当教員）	Word：アウトラインと目次
	授業方法／進め方	Wordによる文書作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 演習課題を進めておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
2 [ｽﾃｲｱ]	授業内容（担当教員）	Word：セクションと書式設定
	授業方法／進め方	Wordによる文書作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 演習課題を進めておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
3 [ｽﾃｲｱ]	授業内容（担当教員）	Word：相互参照、文献目録
	授業方法／進め方	Wordによる文書作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
4 [ｽﾃｲｱ]	授業内容（担当教員）	Word：差し込み印刷
	授業方法／進め方	Wordによる差し込み印刷演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
5 [ｽﾃｲｱ]	授業内容（担当教員）	Excel：グラフ応用、印刷設定
	授業方法／進め方	Excelで、分析ツールを用いた統計分析とグラフ作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
6 [ｽﾃｲｱ]	授業内容（担当教員）	Excel：関数応用
	授業方法／進め方	より高度な関数を利用したExcelの表計算演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
7 [ｽﾃｲｱ]	授業内容（担当教員）	Excel：ピボットテーブル
	授業方法／進め方	Excelのピボットテーブル作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他

8 [ｽﾀｰｲｱ]	授業内容（担当教員）	Excel：マクロの作成と実行
	授業方法／進め方	Excelマクロの作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
9 [ｽﾀｰｲｱ]	授業内容（担当教員）	Excel：VBAマクロ（１） - 入出力、グラフ作成
	授業方法／進め方	Excel VBAによるプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 演習課題を進めておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
10 [ｽﾀｰｲｱ]	授業内容（担当教員）	Excel：VBAマクロ（２） - 制御（条件分岐・繰り返し）
	授業方法／進め方	Excel VBAによるプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 演習課題を進めておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
11 [ｽﾀｰｲｱ]	授業内容（担当教員）	Excel：VBAマクロ（３） - じゃんけんゲーム（乱数）
	授業方法／進め方	Excel VBAによるプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
12 [ｽﾀｰｲｱ]	授業内容（担当教員）	Access：データベースの作成
	授業方法／進め方	Accessによるデータベース操作演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
13 [ｽﾀｰｲｱ]	授業内容（担当教員）	Access：複数のテーブルの取り扱い
	授業方法／進め方	Accessによるデータベース操作演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
14 [ｽﾀｰｲｱ]	授業内容（担当教員）	Access：クエリの作成
	授業方法／進め方	Accessによるデータベース操作演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
15 [ｽﾀｰｲｱ]	授業内容（担当教員）	Access：フォーム、レポート
	授業方法／進め方	Accessによるデータベース操作演習
	事前・事後学習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他

科目名	データ分析の基礎		
科目名（英語）	Introduction to Data Analysis		
担当教員	坂無 淳		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許（公民）、高等学校教諭一種免許（情報）、中学校教諭一種免許（社会）、社会調査士資格、上級情報処理士資格		
標準履修年次	1～4年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

受講生がデータ分析の基礎的な方法を身につけることを目標とする。現代社会の状況把握や問題解決など目的に応じたデータを入手して内容を読み取り、データ分析を行なって他者との効果的な議論を行うための基本的な方法を学ぶ。各種の公的統計や調査報告書の入手方法とその適切な読み方、データを数値や図表で表現する方法、その他の基礎的なデータ分析について講義する。また、実際にコンピューターを使いながら、受講生自身がデータ分析を行って、データを活用(理解・分析・提示など)する方法を学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

高校で学習した統計に関する知識と重なる部分があるので、よく復習しておくこと。パソコンでエクセル等を使用する場合があるので使用方法について復習しておくこと。

学期開始前と初回に授業の実施方法について確認すること。使用教室の状況によって、必要に応じてパソコンの持参を推奨する場合がある。その場合、持参するパソコンがないなどの事情がある学生は初回授業で授業の実施方法について確認し、相談すること。

テキスト

テキスト：廣瀬毅士・寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010、2600円

参考図書・教材等

参考文献：岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎 JGSSデータとオンライン集計の活用』有斐閣、2007。
中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)、高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省)ほか。

学習相談・助言体制

授業中や前後での質問、課題、メール等。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	社会学で使われるデータ分析の基本的な知識を身につけている。
-------	-------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	社会的事象に関するデータをもとに論理的な考察と判断ができる。 データ分析の結果を適切かつ効果的に表現することができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

目的に応じたデータを入手して読み取り、データ分析を行なう知識と技能について、正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

目的に応じたデータを入手して読み取り、データ分析を行なう知識と技能について、基本的な理解ができている。

。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

履修目標(目的に応じたデータを入手して読み取り、データ分析を行なう知識と技能について、正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。)だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80 ~ 89 履修目標を達成している。
履修目標（目的に応じたデータを入手して読み取り、データ分析を行なう知識と技能について、正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。）を達成している。
B: 70 ~ 79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
到達目標（目的に応じたデータを入手して読み取り、データ分析を行なう知識と技能について、基本的な理解ができている。）は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60 ~ 69 到達目標を達成している。
到達目標（目的に応じたデータを入手して読み取り、データ分析を行なう知識と技能について、基本的な理解ができている。）を達成している。
不可: ~ 59 到達目標を達成できていない。
到達目標（目的に応じたデータを入手して読み取り、データ分析を行なう知識と技能について、基本的な理解ができている。）を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
小レポート	30	知識・技能(DP2), 思考・判断・表現(DP3)
最終レポート	70	知識・技能(DP2), 思考・判断・表現(DP3)
備考	提出方法を初回や授業内の説明で確認すること。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	ガイダンス：データを土台とした議論の重要性
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。
2	授業内容（担当教員）	データを活用するための基礎知識、質的データの読み方・まとめ方（Excelによる統計分析ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。
3	授業内容（担当教員）	統計の種類と役割（e-Statでのデータの入手と活用法ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。
4	授業内容（担当教員）	既存統計資料や調査報告書の収集と読み方（具体例と活用方法）（e-Statでのデータの入手と活用法ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。
5	授業内容（担当教員）	1つの質的変数を記述する：度数分布
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。
6	授業内容（担当教員）	1つの量的変数を記述する：記述統計量の計算（代表値(平均、中央値ほか)、散布度(分散、標準偏差ほか))
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。
7	授業内容（担当教員）	異なる尺度上の値を比較する：標準化ほか
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。

8	授業内容（担当教員）	データを視覚化する：グラフの読み方・作り方
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。
9	授業内容（担当教員）	2つの量的変数の関連をみる：相関係数
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。
10	授業内容（担当教員）	2つの量的変数の関連をみる：回帰分析（因果関係と相関関係）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。
11	授業内容（担当教員）	3つの量的変数の関連をみる：偏相関係数（疑似相関）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。
12	授業内容（担当教員）	2つの質的変数の関連をみる：クロス集計
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。
13	授業内容（担当教員）	2つの質的変数の関連をみる：クロス集計の関連係数
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。
14	授業内容（担当教員）	3つの質的変数の関連をみる：3重クロス集計
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。
15	授業内容（担当教員）	まとめ、データを提示して議論する方法、推測統計学と多変量解析の基礎（SSJDA等のデータ・アーカイブの活用法ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する。
備考	受講生の状況、授業進行の状況に応じて、スケジュールを変更する場合がありますので、授業で最新情報を確認すること。授業内で行う作業・課題やレポート作成は、履修学生の知識、パソコン操作技術などによって、ある程度進み具合が異なることが予想される。授業内では標準的な時間を想定するが、時間内に作業が終わらなかった回は各自必ず復習し、次回までに理解してくること。積み重ねが重要なので、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。	

科目名	社会統計学		
科目名(英語)	Social Statistics		
担当教員	坂無 淳		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(情報)、社会調査士資格、上級情報処理士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学について学ぶ。推測統計学の基礎的な知識を中心に学ぶことで、統計的データを読み、まとめ、分析し、現代社会について様々な角度から適切な分析と議論ができるようになることを目指す。また、実際にコンピューターを使いながら、受講生自身がデータ分析を行って、データを活用(理解・分析・提示など)する方法を学ぶ。

履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等

「データ分析の基礎」を履修していることが望ましい(履修している学生は復習をしておき、履修していない学生は必ず各自テキスト等で自習しておくこと)。

学期開始前と初回に授業の実施方法について確認すること。使用教室の状況によって、必要に応じてパソコンの持参を推奨する場合がある。その場合、持参するパソコンがないなどの事情がある学生は初回授業で授業の実施方法について確認し、相談すること。

テキスト

テキスト：岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎 JGSSデータとオンライン集計の活用』有斐閣、2007、2800円

参考図書・教材等

参考文献：廣瀬毅士・寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010ほか

学習相談・助言体制

授業中や前後での質問、課題、メール等

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	社会統計学に関する基本的な知識を身につけている。
-------	--------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	社会的事象に関するデータについて社会統計学の知識をもとに論理的な考察と判断ができる。社会統計学の手法を使って分析の結果を適切かつ効果的に表現することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、基本的な理解ができている。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
	履修目標(社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。)だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
	履修目標(社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。)を達成している。

B:70~79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

到達目標（社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、基本的な理解ができている。）は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60~69 到達目標を達成している。

到達目標（社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、基本的な理解ができている。）を達成している。

不可:~59 到達目標を達成できていない。

到達目標（社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、基本的な理解ができている。）を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
小レポート	30	知識・技能(DP2), 思考・判断・表現(DP3)
最終レポート	70	知識・技能(DP2), 思考・判断・表現(DP3)
備考	提出方法を初回や授業内の説明で確認すること。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	ガイダンス、社会調査と統計データ(SSJDA等のデータ・アーカイブ、オンライン集計システムNesstar、Excelによる統計分析の活用法ほか)
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
2	授業内容（担当教員）	統計データの収集・作成・活用
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
3	授業内容（担当教員）	多様な分析方法、複数回答
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
4	授業内容（担当教員）	度数分布表、グラフ
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
5	授業内容（担当教員）	基本統計量、標準化
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
6	授業内容（担当教員）	クロス集計表
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
7	授業内容（担当教員）	関連性を表す統計量（相関係数、属性相関係数）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する

8	授業内容（担当教員）	変数のコントロール（3重クロス集計表、偏相関係数）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
9	授業内容（担当教員）	確率論の基礎（確率変数、正規分布）とサンプリングの理論
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
10	授業内容（担当教員）	統計的推定と統計的検定
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
11	授業内容（担当教員）	クロス集計表と独立性の検定、比率の差の検定
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
12	授業内容（担当教員）	クロス集計表と独立性の検定、比率の差の検定
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
13	授業内容（担当教員）	平均の差の検定
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
14	授業内容（担当教員）	相関と因果、回帰分析の基礎
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
15	授業内容（担当教員）	回帰分析の基礎、まとめ
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
備考	受講生の状況、授業進行の状況に応じて、スケジュールを変更する場合がありますので、授業で最新情報を確認すること。授業内で行う作業・課題やレポート作成は、履修学生の知識、パソコン操作技術などによって、ある程度進み具合が異なることが予想される。授業内でも標準的な時間を想定するが、時間内に作業が終わらなかった回は各自必ず復習し、次回までに理解してこること。積み重ねが重要なので、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。	

科目名	社会統計学		
科目名(英語)	Social Statistics		
担当教員	坂無 淳		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(情報)、社会調査士資格、上級情報処理士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の基礎について学ぶ。記述統計学に加えて統計的推定や統計的検定などの推測統計学を学ぶ。また、多変量解析からいくつかの基本的な分析手法を取り上げる。そのことを通じて現代社会について様々な角度から適切な分析と議論ができるようになることを目指す。また、実際にコンピューターを使いながら、受講生自身がデータ分析を行って、データを活用(理解・分析・提示など)する方法を学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

必ず「社会統計学」を履修していること。そのほか「データ分析の基礎」を履修していることが望ましい。両科目の復習をしておくこと。

学期開始前と初回に授業の実施方法について確認すること。使用教室の状況によって、必要に応じてパソコンの持参を推奨する場合がある。その場合、持参するパソコンがないなどの事情がある学生は初回授業で授業の実施方法について確認し、相談すること。

テキスト

テキスト：岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎 JGSSデータとオンライン集計の活用』有斐閣、2007、2800円

参考図書・教材等

参考文献：廣瀬毅士・寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010ほか

学習相談・助言体制

授業中や前後での質問、課題、メール等。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	社会統計学に関する基本的な知識を身につけている。
-------	--------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	社会的事象に関するデータについて社会統計学の知識をもとに論理的な考察と判断ができる。 社会統計学の手法を使って分析の結果を適切かつ効果的に表現することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、基本的な理解ができています。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
履修目標(社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。)だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。	
A: 80～89	履修目標を達成している。

履修目標（社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。）を達成している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

到達目標（社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、基本的な理解ができている。）は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。

到達目標（社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、基本的な理解ができている。）を達成している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

到達目標（社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、基本的な理解ができている。）を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
小レポート	30	知識・技能(DP2), 思考・判断・表現(DP3)
最終レポート	70	知識・技能(DP2), 思考・判断・表現(DP3)
備考	提出方法を初回や授業内の説明で確認すること。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	ガイダンス、記述統計学と推測統計学、確率論の基礎（確率変数と正規分布ほか）（SSJDA等のデータ・アーカイブ、オンライン集計システムNesstar、Excelによる統計分析の活用ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
2	授業内容（担当教員）	統計的推定の考え方（無作為抽出、点推定ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
3	授業内容（担当教員）	統計的推定の考え方（区間推定ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
4	授業内容（担当教員）	統計的検定の考え方（帰無仮説と対立仮説、検定の手続きほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
5	授業内容（担当教員）	クロス集計表（クロス集計表ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
6	授業内容（担当教員）	クロス集計表（3重クロス集計表ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
7	授業内容（担当教員）	クロス集計表（独立性の検定ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する

8	授業内容（担当教員）	平均値に関する推定と検定（平均値の推定ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
9	授業内容（担当教員）	平均値に関する推定と検定（t検定ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
10	授業内容（担当教員）	平均値に関する推定と検定（分散分析ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
11	授業内容（担当教員）	相関係数、偏相関係数と検定
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
12	授業内容（担当教員）	回帰分析（回帰分析の基礎ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
13	授業内容（担当教員）	回帰分析（重回帰分析ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
14	授業内容（担当教員）	回帰分析（回帰分析の応用ほか）
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
15	授業内容（担当教員）	まとめ、その他の統計分析(SPSS、R、STATA、jamovi等各種統計ソフトの活用法)
	授業方法 / 進め方	講義ほか
	事前・事後学習	テキストと授業資料、授業課題の予習と復習。各回の授業で該当箇所を指示する
備考	受講生の状況、授業進行の状況に応じて、スケジュールを変更する場合がありますので、授業で最新情報を確認すること。授業内で行う作業・課題やレポート作成は、履修学生の知識、パソコン操作技術などによって、ある程度進み具合が異なることが予想される。授業内でも標準的な時間を想定するが、時間内に作業が終わらなかった回は各自必ず復習し、次回までに理解してくること。積み重ねが重要なので、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。	

科目名	心理学統計法		
科目名（英語）	Psychological Statistics		
担当教員	小林 亮太		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

この授業では、心理学領域で使用される統計法の基本的な考え方や用語について説明を行う。その上で、研究の方法やデータに応じて、適切な解析方法を選択できるようになることを目指す。また、実習を通して統計ソフト（HAD）を用いた基本的な解析方法を習得することも目標の1つとしている。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

なし

関連資格

公認心理師

テキスト

小宮あすか・布井雅人（2018）. Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける講談社

（講義内のHAD演習では基本的にこの教科書を参照しながら進める予定です。ただし、HAD演習は私自身が実演しながら進めるので、絶対に購入しなくてはならない本というわけでもありません。個人的には、この本は本講義だけでなく、卒論のときにも使えるので、購入を推奨しています。）

参考図書・教材等

1) 山田剛史・村井潤一郎（2004）. よくわかる心理統計（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）ミネルヴァ書房

2) 白井祐浩（2017）. 統計嫌いのための心理統計の本:統計のキホンと統計手法の選び方 創元社
（これらの本を購入しなくても一定水準の理解と単位取得には問題がないように講義を進める予定です。しかし、心理学研究のベースである統計法をより学びたい人や心理系進学・就職希望者にはぜひ参考図書なども読んでいただきたいなと思っています。推薦図書は他にもあるので講義内でも紹介していきます。）

授業中の撮影

学習相談・助言体制

個別の質問・相談はメールなどで受け付ける。全体的に必要な事項は授業中に説明する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	心理統計における基本的な用語と考え方（理論）が理解できる。
(DP2)	研究目的や方法，データに合った適切な解析方法を選択でき，その解析をソフトにより実行できる。解析結果を適切な形式（図表含む）で報告できる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

心理学研究（卒業研究）をする上で必要な統計法の基本と実践スキルを習得する。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- 1) 心理統計における基本的な用語と考え方を教科書などを参照しながら、説明できる。
- 2) 教科書などを参照しながら、研究目的や方法，データに合った適切な解析方法を選択でき，その解析を実行できる。
- 3) 教科書などを参照しながら，解析結果を適切な形式で報告できる。

成績評価の基準

S: 90 ~ 100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80 ~ 89	履修目標を達成している。
B: 70 ~ 79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60 ~ 69	到達目標を達成している。
不可: ~ 59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	40	知識・技能(DP1) : 20, (DP2) : 20
授業外レポート・宿題	60	知識・技能(DP1) : 30, (DP2) : 30

・授業計画、アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーションと心理統計法の概観
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事後学習: 講義後課題について取り組みつつ, わからないことを自習したり, 質問する。
2	授業内容(担当教員)	心理統計法の基本用語
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事前学習: 授業中に伝える参考文献や資料について 適宜予習を行う。 事後学習: 講義後課題について取り組みつつ, わからないことを自習したり, 質問する。
3	授業内容(担当教員)	1変数の記述統計と要約統計量(代表値・散布度・分布)
	授業方法/進め方	講義と解析演習
	事前・事後学習	事前学習: 授業中に伝える参考文献や資料について 適宜予習を行う。 事後学習: 講義後課題について取り組みつつ, わからないことを自習したり, 質問する。
4	授業内容(担当教員)	2変数の記述統計(相関)
	授業方法/進め方	講義と解析演習
	事前・事後学習	事前学習: 授業中に伝える参考文献や資料について 適宜予習を行う。 事後学習: 講義後課題について取り組みつつ, わからないことを自習したり, 質問する。
5	授業内容(担当教員)	標準化と正規分布
	授業方法/進め方	講義と解析演習
	事前・事後学習	事前学習: 授業中に伝える参考文献や資料について 適宜予習を行う。 事後学習: 講義後課題について取り組みつつ, わからないことを自習したり, 質問する。
6	授業内容(担当教員)	記述統計から推測統計へ(点推定・区間推定)
	授業方法/進め方	講義と解析演習
	事前・事後学習	事前学習: 授業中に伝える参考文献や資料について 適宜予習を行う。 事後学習: 講義後課題について取り組みつつ, わからないことを自習したり, 質問する。

7	授業内容（担当教員）	統計的仮説検定の考え方（t検定）
	授業方法 / 進め方	講義と解析演習
	事前・事後学習	事前学習：授業中に伝える参考文献や資料について 適宜予習を行う。 事後学習：講義後課題について取り組みつつ、わからないことを自習したり、質問する。
8	授業内容（担当教員）	統計的仮説検定の考え方（解析方法の選び方）
	授業方法 / 進め方	講義と解析演習
	事前・事後学習	事前学習：授業中に伝える参考文献や資料について 適宜予習を行う。 事後学習：講義後課題について取り組みつつ、わからないことを自習したり、質問する。
9	授業内容（担当教員）	分散分析と交互作用
	授業方法 / 進め方	講義と解析演習
	事前・事後学習	事前学習：授業中に伝える参考文献や資料について 適宜予習を行う。 事後学習：講義後課題について取り組みつつ、わからないことを自習したり、質問する。
10	授業内容（担当教員）	無相関検定と回帰分析
	授業方法 / 進め方	講義と解析演習
	事前・事後学習	事前学習：授業中に伝える参考文献や資料について 適宜予習を行う。 事後学習：講義後課題について取り組みつつ、わからないことを自習したり、質問する。
11	授業内容（担当教員）	重回帰分析
	授業方法 / 進め方	講義と解析演習
	事前・事後学習	事前学習：授業中に伝える参考文献や資料について 適宜予習を行う。 事後学習：講義後課題について取り組みつつ、わからないことを自習したり、質問する。
12	授業内容（担当教員）	因子分析
	授業方法 / 進め方	講義と解析演習
	事前・事後学習	事前学習：授業中に伝える参考文献や資料について 適宜予習を行う。 事後学習：講義後課題について取り組みつつ、わからないことを自習したり、質問する。
13	授業内容（担当教員）	構造方程式モデリング（SEM）
	授業方法 / 進め方	講義と解析演習
	事前・事後学習	事前学習：授業中に伝える参考文献や資料について 適宜予習を行う。 事後学習：講義後課題について取り組みつつ、わからないことを自習したり、質問する。
14	授業内容（担当教員）	統計解析の注意点
	授業方法 / 進め方	講義と解析演習
	事前・事後学習	事前学習：授業中に伝える参考文献や資料について 適宜予習を行う。 事後学習：講義後課題について取り組みつつ、わからないことを自習したり、質問する。

15	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法 / 進め方	講義と解析演習
	事前・事後学習	事前学習：授業中に伝える参考文献や資料について 適宜予習を行う。 事後学習：講義後課題について取り組みつつ，わからないことを自習したり，質問する。
備考	HADによる解析データなどを保存するために，必要な方はUSBなどをご用意ください。また	

科目名	保健統計学		
科目名(英語)	Statistics in Health and Welfare		
担当教員	原田 直樹、松浦 賢長、梶原 由紀子		
科目区分	看護学部 看護学科、データサイエンス・プログラム、看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

わが国の保健統計の推移と現況を最新のデータを用いて論じ、世界の状況についても学ぶ。あわせて、わが国の保健課題の地域格差についても探索的に学んでいく。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

授業「公衆衛生学」(1年次)にて扱われた知識。

関連資格

看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許

テキスト

『厚生指針 臨時増刊 国民衛生の動向(最新年版)』厚生統計協会

参考図書・教材等

授業の中で適宜紹介する。

実務経験を生かした授業

梶原は担当するコマについて実務経験(学校保健室勤務)を生かした内容で構成する。さらに、「感染症対策」「AIDSの最新事情」のコマについては、現在実務をされている講師(認定看護師等)による授業を行う。

学習相談・助言体制

レスポンスカードで受付、返却時にコメントを追加して回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	わが国の保健統計の推移と現況の概要を述べるができる。
(DP2)	資料のもつ情報を多面的・批判的に分析できる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

わが国の保健統計の推移と現況の概要を理解しており、資料のもつ情報を多面的・批判的に分析できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

わが国の保健統計の推移と現況の概要を理解しており、資料のもつ情報を分析できる(最終試験にて60点以上を得ること)。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。
不可: ~59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	90	知識・技能(DP1)：45，(DP2)：45
その他(事前・事後課題)	10	知識・技能(DP1)：5，(DP2)：5

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容	
グループディスカッション/ディベート/グループワーク	

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	統計の基礎 ・「統計」とは何か ・変数の種類と収集の方法 ・記述統計と代表値 ・単純集計とクロス集計 ・関連性の解析 (原田)
	授業方法/進め方	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)
	事前・事後学習	【事後学習】 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて配布資料の内容をもう一度確認しておく。
2	授業内容(担当教員)	保健統計学とは何か・人口動態 ・保健統計学とは何か ・静態と動態の違い ・人口動態 ・世帯とは何か (松浦)
	授業方法/進め方	教科書を解説し、ポイントをおさる。(講義形式) グループワーク
	事前・事後学習	[事前学習]教科書第2編第1章「人口動態」を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

3	授業内容（担当教員）	人口動態 ・グラフの見方・出生の動向 ・都道府県別の出生 ・出生順位と母親の年齢 ・出生児の体重と身長 ・妊娠期間別の出生 ・出生の国際比較 (松浦)
	授業方法 / 進め方	教科書を解説し、ポイントをおさる。(講義形式) グループワーク
	事前・事後学習	[事前学習]教科書第2編第2章「人口動態」の前書きと「2. 出生」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
4	授業内容（担当教員）	生命表 ・生命表とは ・平均余命 ・平均寿命 ・死因分析・死亡状況の変化 (原田)
	授業方法 / 進め方	教科書を解説し、ポイントをおさる。(講義形式)
	事前・事後学習	[事前学習]教科書第2編第3章「生命表」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
5	授業内容（担当教員）	人口動態 ・死亡の動向 ・死因の概要 ・悪性新生物・心疾患 ・脳血管疾患・肺炎 (松浦)
	授業方法 / 進め方	教科書を解説し、ポイントをおさる。(講義形式) グループワーク
	事前・事後学習	[事前学習]教科書第2編第2章「人口動態」の「3. 死亡」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

6	授業内容（担当教員）	保健対策 ・母子保健 ・老人保健 ・障害児者施策 ・精神保健・歯科保健 （原田）
	授業方法 / 進め方	教科書を解説し、ポイントをおさえる。（講義形式）
	事前・事後学習	[事前学習] 教科書第3編第2章「保健対策」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
7	授業内容（担当教員）	人口動態 ・外因死 ・死亡の国際比較 ・妊産婦死亡 ・死産・周産期死亡 ・乳児死亡・婚姻と離婚 （松浦）
	授業方法 / 進め方	教科書を解説し、ポイントをおさる。（講義形式） グループワーク
	事前・事後学習	[事前学習] 教科書第2編第2章「人口動態」の「4. 妊産婦死亡」～「9. 離婚」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
8	授業内容（担当教員）	生活習慣病対策 ・生活習慣病の概念 ・健康日本21 ・健康増進対策 （原田）
	授業方法 / 進め方	教科書を解説し、ポイントをおさえる。（講義形式）
	事前・事後学習	[事前学習] 教科書第3編第1章「生活習慣病と健康増進対策」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。

9	授業内容（担当教員）	医療対策 ・医療計画 ・在宅医療の推進・訪問看護・ ・救急、休日夜間診療 ・医療関係者・医療施設 （原田）
	授業方法／進め方	教科書を解説し、ポイントをおさえる。（講義形式）
	事前・事後学習	[事前学習]教科書第4編第1章「医療提供体制」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
10	授業内容（担当教員）	医療・介護保険制度 ・医療保険制度の概要 ・診療報酬 ・公費医療・国民医療費 ・介護保険制度の概要 ・介護報酬 ・介護サービス施設 （原田）
	授業方法／進め方	教科書を解説し、ポイントをおさえる。（講義形式）
	事前・事後学習	[事前学習]教科書第4編第2章「医療保険制度」部分と第5編第1章「介護保険」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
11	授業内容（担当教員）	AIDS の最新事情 ・HIV 検査 ・AIDS の臨床知識 ・AIDS 治療の現在 ・患者の高齢化 ・慢性疾患としてのAIDS （松浦・原田・梶原）
	授業方法／進め方	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）
	事前・事後学習	[事前学習]教科書第3編第3章「感染症対策」のうち「3-4）HIV・エイズ」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。

12	授業内容（担当教員）	健康状態と受療状況 ・健康状態・自覚症状 ・通院者の状況 ・受療状況・受療率 ・在院日数 （原田）
	授業方法／進め方	教科書を解説し、ポイントをおさえる。（講義形式）
	事前・事後学習	[事前学習]教科書第2編第4章「健康状態と受療状況」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
13	授業内容（担当教員）	疾病対策 ・がん ・難病 ・腎疾患 ・リウマチ ・アレルギー （原田）
	授業方法／進め方	教科書を解説し、ポイントをおさえる。（講義形式）
	事前・事後学習	【事前学習】 教科書第3編第4章「疾病対策」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 【事後学習】 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
14	授業内容（担当教員）	学校保健 ・学校保健行政 ・学校保健活動 ・学齢期の健康状況 ・特別支援教育 （梶原）
	授業方法／進め方	教科書を解説し、ポイントをおさえる。（講義形式）
	事前・事後学習	[事前学習]教科書第10編「学校保健」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。

15	授業内容（担当教員）	感染症対策(ワンヘルス含) (松浦・原田・梶原)
	授業方法 / 進め方	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）
	事前・事後学習	<p>[事前学習] インターネットで厚生労働省の「感染症の予防について」のページへいき、そのページにある下記の参考資料を読んでおくこと。疑問点があれば書き出しておくこと。</p> <p>【・インフルエンザ予防リーフレット・ノロウイルス食中毒予防対策リーフレット・手洗い手順リーフレット・皆様へのお願い～感染症予防のために～・流水で手洗いできない場合の手指消毒について・咳エチケットで感染症予防・避難所内のトイレの衛生管理について・浸水した家屋の感染症対策について・清掃作業時に注意してください・清掃と乾燥が重要です】</p> <p>[事後学習] 授業中にとったノートを見返して、配布された資料に書かれていた意味を確認しておく。</p>

科目名	疫学		
科目名（英語）	Epidemiology		
担当教員	井手 悠一郎		
科目区分	看護学部 看護学科、データサイエンス・プログラム、保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

疫学の基本的事項を理解することを目的に、疫学の考え方、疫学指標と疫学研究について学ぶ。あわせて、統計解析ソフトを用いた、疫学研究で用いられる指標の計算演習を行う。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

保健統計学を修得していること。統計学の基礎的知識を有し、記述統計・基本統計量を求められることが望ましい。

関連資格

保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状

テキスト

中村好一「基礎から学ぶ 楽しい疫学」医学書院

参考図書・教材等

Kenneth J. Rothman、矢野英二・橋本英樹監訳「ロスマンの疫学」篠原出版新社

Miquel Porta編、日本疫学会訳「疫学辞典 第五版」日本公衆衛生協会

自治医科大学血液内科「EZR 簡易マニュアル」

学習相談・助言体制

y-ide@st-mary.ac.jpで質問や相談を受け付ける。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	疫学とは何かについて述べるができる。 疫学の基礎知識（指標、デザイン、誤差等）についても説明できる。
(DP2)	疫学で用いられる各種指標を理解し、計算できる。 統計解析ソフト（EZR）の基礎的操作（データマネジメント、解析操作）が行える。

思考・判断・表現

(DP3)	得られた解析結果について、既存の知識と照合し、正しく評価することができる。
-------	---------------------------------------

主体性・多様性・協働性

(DP4)	データ解析を通じた健康課題の探索について、主体的に取り組むことができる。
-------	--------------------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

疫学の概念と方法について十分に理解し、各疫学の指標を適切に求めることができ、その示す意味を述べるができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

疫学の概念と方法について理解し、各疫学の指標を求めることができる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

疫学の概念と方法について十分に理解し、各疫学の指標を適切に求めることができ、その示す意味を述べるができる。また、その示す指標について改善方法を考えることができる。

A:80～89 履修目標を達成している。

疫学概念と方法について十分に理解し、各疫学指標を適切に求めることができ、その示す意味を述べることができる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

疫学概念と方法について理解し、各疫学指標を適切に求めることができ、その示す意味を述べるができる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

疫学概念と方法について理解し、各疫学指標を求めることができる。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

疫学概念と方法について理解が十分ではなく、各疫学指標を求めることが十分にできない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	50	知識・技能(DP1) : 30, (DP2) : 20
授業外レポート・宿題	50	知識・技能(DP2) : 20, 思考・判断・表現(DP3) : 20, 主体性・多様性・協働性(DP4) : 10

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1 [ｽﾀｰﾄ]	授業内容(担当教員)	疫学とは、因果関係(井手悠一郎)
	授業方法/進め方	以下の内容について講義する。 1) 疫学の語源や定義 2) 疾病と曝露 3) 関連と因果関係
	事前・事後学習	事前学習: 教科書第1、6章を読んだうえで授業に臨む。 事後学習: 私たちの生活の中での「疾病と曝露」について、その要因について調べ、振り返る。
2 [ｽﾀｰﾄ]	授業内容(担当教員)	疫学的指標 ~割合、率~ (井手悠一郎)
	授業方法/進め方	以下の内容について講義する。 1) 割合(有病率、累積罹患率、致命率、相対頻度) 2) 罹患率、死亡率
	事前・事後学習	事前学習: 教科書第2章、 を読んだうえで授業に臨む。 事後学習: 授業で提示された指標の数値と実際の任意の行政等の数値を比較し考察する。
3 [ｽﾀｰﾄ]	授業内容(担当教員)	疫学的指標 ~比~ (井手悠一郎)
	授業方法/進め方	以下の内容について講義する。 1) 相対危険 2) オッズ比 3) 寄与危険
	事前・事後学習	事前学習: 教科書第2章 を読んだうえで授業に臨む。 事後学習: 授業で提示された指標(数値)と実際の任意の行政等の数値を比較し考察する。

4 [ｽﾃｲ]	授業内容（担当教員）	年齢調整死亡率 （井手悠一郎）
	授業方法 / 進め方	以下の内容について講義する。 1) 年齢調整死亡率（直接法） 2) 年齢調整死亡率（間接法）
	事前・事後学習	事前学習：教科書第5章 を読んだうえで授業に臨む。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、年齢調整死亡率や標準化死亡率に関する問題を解き理解を深める。
5 [ｽﾃｲ]	授業内容（担当教員）	研究デザイン ～観察研究～ （井手悠一郎）
	授業方法 / 進め方	以下の内容について講義する。 1) 記述疫学研究 2) 生態学的研究 3) 横断研究 4) 症例対照研究 5) コホート研究
	事前・事後学習	事前学習：教科書第4章 、 、 を読んだうえで授業に臨む。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、記述疫学研究、生態学的研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究に関する問題を解き理解を深める。
6 [ｽﾃｲ]	授業内容（担当教員）	研究デザイン ～介入研究～ （井手悠一郎）
	授業方法 / 進め方	以下の内容について講義する。 1) 介入研究 2) メタアナリシス
	事前・事後学習	事前学習：教科書第4章 、 を読んだうえで授業に臨む。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、介入研究に関する問題を解き理解を深める。
7 [ｽﾃｲ]	授業内容（担当教員）	偏りと交絡 ～バイアス～ （井手悠一郎）
	授業方法 / 進め方	以下の内容について講義する。 1) 選択バイアス 2) 情報バイアス
	事前・事後学習	事前学習：教科書第5章 、 を読んだうえで授業に臨む。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、バイアスとその制御法に関する問題を解き理解を深める。
8 [ｽﾃｲ]	授業内容（担当教員）	偏りと交絡 ～交絡～ （井手悠一郎）
	授業方法 / 進め方	以下の内容について講義する。 1) 交絡 2) 交絡の制御方法
	事前・事後学習	事前学習：教科書第5章 を読んだうえで授業に臨む。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、交絡因子とその制御法に関する問題を解き理解を深める。

9 [ｽﾃｲ]	授業内容 (担当教員)	スクリーニング、疾病登録 (井手悠一郎)
	授業方法 / 進め方	以下の内容について講義する。 1) スクリーニング 2) 疾病登録
	事前・事後学習	事前学習：教科書第7、8章を読んだうえで授業に臨む。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、敏感度、特異度、偽陽性率、偽陰性率、陽性反応の中度、陰性反応の中度に関する問題を解き理解を深める。
10 [ｽﾃｲ]	授業内容 (担当教員)	研究倫理 (井手悠一郎)
	授業方法 / 進め方	以下の内容について講義する。 1) 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 2) 研究不正
	事前・事後学習	事前学習：教科書第11章を読んだうえで授業に臨む。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、研究倫理に関する問題を解き理解を深める。
11 [ｽﾃｲ]	授業内容 (担当教員)	生活習慣の疫学、主な疾患の疫学、社会疫学 (井手悠一郎)
	授業方法 / 進め方	以下の内容について講義する。 1) 生活習慣の疫学 2) 主な疾患の疫学 3) 社会疫学
	事前・事後学習	事前学習：教科書第12章を読んだうえで授業に臨む。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、関連する問題を解き理解を深める。
12 [ｽﾃｲ]	授業内容 (担当教員)	データセット、一変量の分析 (井手悠一郎)
	授業方法 / 進め方	以下の内容について演習を行う。 1) データセットの作成 2) データの取り込み 3) 一変量の分析
	事前・事後学習	事前学習：EZR 簡易マニュアルの1-7ページを読み、EZRのインストールを済ませておく。 事後学習：配布資料内容の復習を行う。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
13 [ｽﾃｲ]	授業内容 (担当教員)	二変量の分析、相対危険、点推定と区間推定 (井手悠一郎)
	授業方法 / 進め方	以下の内容について演習を行う。 1) 二変量の分析 2) 相対危険 3) 点推定と区間推定
	事前・事後学習	事前学習：事前配布資料を読み、操作練習を行っておく。 事後学習：授業中に指示の合った課題について取り組む。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習

14	授業内容（担当教員）	まとめ ～疫学概念、疾病頻度の指標、曝露効果の指標、疫学調査法～ （井手悠一郎）
	授業方法 / 進め方	以下の内容についてまとめの講義を行う。 1) 疫学概念 2) 疾病頻度の指標 3) 曝露効果の指標 4) 疫学調査法
	事前・事後学習	事前学習：事前に指示した問題を解いておく。 事後学習：授業内容の復習を行う。
15	授業内容（担当教員）	まとめ ～スクリーニング、疾病登録、生活習慣の疫学、主な疾患の疫学、エビデンスに基づく公衆衛生看護に関連する疫学～ （井手悠一郎）
	授業方法 / 進め方	以下の内容についてまとめの講義を行う。 1) スクリーニング 2) 疾病登録 3) 生活習慣の疫学 4) 主な疾患の疫学 5) エビデンスに基づく公衆衛生看護に関連する疫学
	事前・事後学習	事前学習：事前に指示した問題を解いておく。 事後学習：授業内容の復習を行う。

科目名	情報数学		
科目名（英語）	Information Mathematics		
担当教員	石崎 龍二		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許（情報）、上級情報処理士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

コンピュータや通信技術の技術革新により、社会における情報化が急速に進んでいる。コンピュータを使って数値計算や統計解析を行ったり画像や音声のデジタル信号処理を行ったりするためには、基礎的な数学の知識と理論的な思考が必要である。

本講義では、情報通信技術（ICT）の数学的な観点からの理解を深めることを目的として、情報のデジタル化と情報通信の基礎となる符号理論、コンピュータのハードウェア設計の基礎となる命題論理、ソフトウェア設計の基礎となる述語論理・オートマトン理論・形式言語理論・プログラミング言語などの基本的概念を学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
特になし。

関連資格

上級情報処理士

テキスト

独自テキストを配付する。

参考図書・教材等

開講時に紹介する。

学習相談・助言体制

授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	「符号理論」「命題論理」「述語論理」「オートマトン理論」「形式言語理論」「プログラミング言語」に関する基本的概念を理解している。
(DP2)	種々（文字、音、画像等）の情報を2進数に変換できる。 種々の情報の量を情報量を計算できる。

思考・判断・表現

(DP3)	論理式を使った論理演算、命題変数の真理値表での表現ができる。 命題を命題論理や述語論理の論理式として表現できる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

「符号理論」「命題論理」「述語論理」「オートマトン理論」「形式言語理論」に関する基本的概念を理解し、情報の2元符号化、情報量・平均情報量の計算、論理式を使った論理演算や命題変数の真理値表での表現、命題を述語論理の論理式で表現できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

「符号理論」「命題論理」「述語論理」「オートマトン理論」「形式言語理論」に関する基本的概念を理解している。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
確認テスト	10	知識・技能(DP1)：4，(DP2)：2，思考・判断・表現(DP3)：4
授業外レポート・宿題	60	知識・技能(DP1)：20，(DP2)：20，思考・判断・表現(DP3)：20
授業態度・授業への参加度	30	知識・技能(DP1)：10，(DP2)：10，思考・判断・表現(DP3)：10

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	事象と確率
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事象と確率について整理
2	授業内容(担当教員)	指数関数と対数関数
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	指数関数と対数関数について整理
3	授業内容(担当教員)	2元符号化理論 - 進数変換、負数の符号化
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	進数変換、負数の符号化について整理
4	授業内容(担当教員)	情報源符号化理論 - 情報量・平均情報量
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	情報量・平均情報量について整理
5	授業内容(担当教員)	情報源符号化理論 - 情報源符号化定理
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	情報源符号化定理について整理
6	授業内容(担当教員)	情報源符号化理論 - 通信速度、通信容量
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	通信速度、通信容量について整理
7	授業内容(担当教員)	論理演算と論理回路
	授業方法/進め方	講義・レポート課題提示
	事前・事後学習	論理演算と論理回路について整理し、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
8	授業内容(担当教員)	命題論理
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	命題論理について整理
9	授業内容(担当教員)	述語論理
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	述語論理について整理
10	授業内容(担当教員)	オートマトン理論の基礎
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	オートマトン理論の基礎について整理
11	授業内容(担当教員)	オートマトン理論の応用
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	オートマトン理論の応用について整理

12	授業内容（担当教員）	チューリングマシンとコンピュータ
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	チューリングマシンとコンピュータについて整理
13	授業内容（担当教員）	形式言語理論
	授業方法 / 進め方	講義・レポート課題提示
	事前・事後学習	形式言語理論について整理し、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
14	授業内容（担当教員）	プログラミング言語
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	プログラミング言語について整理
15	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	本講義の履修目標に達していない部分について復習

科目名	プログラミング概論		
科目名（英語）	Introduction to Programming		
担当教員	石崎 龍二		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許（情報）、上級情報処理士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

コンピュータプログラミングの基本的な概念や技法を習得する。
 代表的なプログラミング言語を例にして、プログラミングの基本的な要素（変数、データ型、演算子、配列など）、アルゴリズムの基本となる制御構造（順次、分岐、反復など）、関数の作り方、ファイル処理などを解説する。コンピュータを使った演習を取り入れながら進めることで、プログラミングの技法を身につける。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
 特になし。

テキスト

独自テキストを配付する。

参考図書・教材等

開講時に紹介する。

学習相談・助言体制

授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	プログラミングの基本的な要素（変数、データ型、演算子、配列など）を理解している。 アルゴリズムの基本となる制御構造（順次、分岐、反復など）を理解している。
(DP2)	問題に応じて変数を適切に設定できる。 問題に応じて制御文（順次、分岐、反復など）を適切に使ったプログラミングができる。 問題に応じて関数を適切に使ったプログラミングができる。

思考・判断・表現

(DP3)	プログラミングの対象となる問題を解決可能ないくつかの部分に分解できる。 どのような情報を入力として用い、どのような処理結果が必要とされるのかという入力と出力の関係を定めることができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

プログラミングの基本的な要素、アルゴリズムの基本となる制御構造を理解し、問題に応じて変数の宣言、制御文、関数を適切に使ったプログラミングができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

プログラミングの基本的な要素、アルゴリズムの基本となる制御構造を理解している。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
確認テスト	10	知識・技能(DP1) : 3, (DP2) : 3, 思考・判断・表現(DP3) : 4
授業外レポート・宿題	50	知識・技能(DP1) : 15, (DP2) : 20, 思考・判断・表現(DP3) : 15
授業態度・授業への参加度	40	知識・技能(DP1) : 15, (DP2) : 15, 思考・判断・表現(DP3) : 10

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

コンピュータを使った演習を取り入れながら進めることで、プログラミングの技法を身につける。

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	プログラミングの概要
	授業方法/進め方	講義・演習・確認テスト
	事前・事後学習	プログラミングの概要について整理
	アクティブ・ラーニング	その他
2	授業内容(担当教員)	基本的なデータ表現
	授業方法/進め方	講義・演習・確認テスト
	事前・事後学習	基本的なデータ表現
	アクティブ・ラーニング	その他
3	授業内容(担当教員)	簡単なデータの入出力
	授業方法/進め方	講義・演習・確認テスト
	事前・事後学習	簡単なデータの入出力について整理
	アクティブ・ラーニング	その他
4	授業内容(担当教員)	数値データの入力・計算・出力
	授業方法/進め方	講義・演習・確認テスト
	事前・事後学習	数値データの入力・計算・出力について整理
	アクティブ・ラーニング	その他
5	授業内容(担当教員)	選択処理 - 分岐
	授業方法/進め方	講義・演習・確認テスト
	事前・事後学習	選択処理 - 分岐について整理
	アクティブ・ラーニング	その他
6	授業内容(担当教員)	反復処理 - 繰り返し
	授業方法/進め方	講義・演習・確認テスト
	事前・事後学習	反復処理 - 繰り返しについて整理
	アクティブ・ラーニング	その他
7	授業内容(担当教員)	1次元配列・2次元配列
	授業方法/進め方	講義・演習・確認テスト・レポート課題提示
	事前・事後学習	1次元配列・2次元配列について整理、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
	アクティブ・ラーニング	その他
8	授業内容(担当教員)	関数の作り方
	授業方法/進め方	講義・演習・確認テスト
	事前・事後学習	関数の作り方について整理
	アクティブ・ラーニング	その他

9	授業内容 (担当教員)	文字列操作関数・数学関数
	授業方法 / 進め方	講義・演習・確認テスト
	事前・事後学習	文字列操作関数・数学関数について整理
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容 (担当教員)	ファイル処理
	授業方法 / 進め方	講義・演習・確認テスト
	事前・事後学習	ファイル処理について整理
	アクティブ・ラーニング	その他
11	授業内容 (担当教員)	スクリプト言語 - データの入出力
	授業方法 / 進め方	講義・演習・確認テスト
	事前・事後学習	スクリプト言語 - データの入出力について整理
	アクティブ・ラーニング	その他
12	授業内容 (担当教員)	スクリプト言語 - 選択処理
	授業方法 / 進め方	講義・演習・確認テスト
	事前・事後学習	スクリプト言語 - 選択処理について整理
	アクティブ・ラーニング	その他
13	授業内容 (担当教員)	スクリプト言語 - 反復処理
	授業方法 / 進め方	講義・演習・確認テスト・レポート課題提示
	事前・事後学習	スクリプト言語 - 反復処理について整理、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
	アクティブ・ラーニング	その他
14	授業内容 (担当教員)	スクリプト言語 - フォームの活用
	授業方法 / 進め方	講義・演習・確認テスト
	事前・事後学習	スクリプト言語 - フォームの活用について整理
	アクティブ・ラーニング	その他
15	授業内容 (担当教員)	スクリプト言語 - メニューの活用
	授業方法 / 進め方	講義・演習・確認テスト
	事前・事後学習	スクリプト言語 - メニューの活用について整理
	アクティブ・ラーニング	その他

科目名	データベース論		
科目名(英語)	Database Studies		
担当教員	柴田 雅博		
科目区分	全学横断型科目、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(情報)、上級情報処理士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

世の中にある様々な情報システムの中で、データベースシステムはデータ管理の中核である。本講義では、データベースについて、役割と仕組み、構築とデータ管理について学修する。また、Microsoft Accessを利用して実際にデータベースの構築を行う。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
なし

関連資格

高等学校教諭一種免許(情報)、上級情報処理士

テキスト

独自作成した講義資料を配布提供する。

Accessの操作については、矢野文彦『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2019+Access対応版』オーム社、2019,2400円を使用

参考図書・教材等

なし

学習相談・助言体制

授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	<ul style="list-style-type: none"> データベースの役割・機能について理解することができる。 SQLの記法を理解している。
(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> データベースを構築・実装することができる。 SQLを用いてデータベースの操作ができる。

思考・判断・表現

(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> データベースを設計・構築することができる。 現実事象を適切にモデル化することができる。
-------	--

主体性・多様性・協働性

(DP4)	<ul style="list-style-type: none"> 主体性をもって演習に取り組むことができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

現実事象を適切にモデル化し、データベースを設計することができる。SQLを使ってデータベースから必要な情報を抽出することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

情報システムにおけるデータベースの役割・機能について理解している。データベースの仕組みに関する基礎知識を修得している。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A:80～89 履修目標を達成している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
演習課題・レポート	80	知識・技能(DP1)：30，(DP2)：30，思考・判断・表現(DP3)：20
授業態度・参加度	20	主体性・多様性・協働性(DP4)：20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

その他：PCによる演習，設計演習

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	データベースとは：情報システムにおけるデータベースの役割と事例
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	授業内容（担当教員）	データベース管理システム
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
3	授業内容（担当教員）	関係データベース（1）：データベースの基礎知識・Access操作の基礎
	授業方法／進め方	講義とAccessの基本操作演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
4	授業内容（担当教員）	関係データベース（2）：関係とは、データベースにおけるリレーションシップの役割
	授業方法／進め方	講義とAccessの基本操作演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
5	授業内容（担当教員）	関係代数
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
6	授業内容（担当教員）	Accessの操作演習
	授業方法／進め方	AccessによるDB検索演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
7	授業内容（担当教員）	SQL（1）：SQLの基本
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容を74いて復習し授業内容の理解を深める。

8	授業内容（担当教員）	SQL（2）：SELECT文の基礎（1つのテーブルに対する検索）
	授業方法／進め方	講義とSQLによるDB操作演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
9	授業内容（担当教員）	SQL（3）：SELECT文の応用（複数テーブルにまたがる検索）
	授業方法／進め方	講義とSQLによるDB操作演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容（担当教員）	データベースの設計（1）：三層スキーマ
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
11	授業内容（担当教員）	データベースの設計（2）：E-Rモデル
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
12	授業内容（担当教員）	データベースの設計（3）：正規化1（第1正規形、第2正規形）
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
13	授業内容（担当教員）	データベースの設計（4）：正規化2（第3正規形、高次の正規化）
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
14	授業内容（担当教員）	データベース設計演習（1）：データベース設計
	授業方法／進め方	データベースの設計構築演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
15	授業内容（担当教員）	データベース設計演習（2）：データベース実装
	授業方法／進め方	データベースの設計構築演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 締切までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他

科目名	マルチメディア論		
科目名(英語)			
担当教員	柴田 雅博		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(情報)、上級情報処理士資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

コンピュータが取り扱えるデータには、テキスト、音声、画像、動画など様々な種類がある。これらがコンピュータ上でどう表現されているかを学修する。

情報コンテンツはこれらの情報メディアを単独あるいは組み合わせて使われている。個々の情報メディアに関するデータ処理技術を学び、また各種ソフトウェアを使ってマルチメディア処理技術を学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

なし

関連資格

高等学校教諭一種免許(情報), 上級情報処理士

テキスト

独自作成した講義資料を配布提供する。

参考図書・教材等

なし

学習相談・助言体制

授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・マルチメディアデータの取り扱いについて、技術的知識を得る。
(DP2)	・実際に各種ソフトウェアを使って、マルチメディアデータを処理するスキルを身につける。

思考・判断・表現

(DP3)	・マルチメディアデータの基礎的な分析ができる。 ・マルチメディアコンテンツの制作が行える。
-------	--

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・主体性をもって授業に取り組むことができる。
-------	------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

各種マルチメディアデータがどのような情報で構成されているかを理解する。また、各種マルチメディアデータの基礎的な分析を行うことができる。

目的に合わせて各種マルチメディアデータを適切に取り扱い、コンテンツの制作や編集を実践できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

各種マルチメディアデータがコンピュータ上でどのように処理されているかを理解する。

ソフトウェアを使ってマルチメディアデータの基本的な処理を行うことができる。

成績評価の基準

S:90~100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A:80~89 履修目標を達成している。

B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。
不可:～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
演習課題	50	知識・技能(DP2)：30，思考・判断・表現(DP3)：20
授業外レポート・宿題	30	知識・技能(DP1)：20，思考・判断・表現(DP3)：10
授業態度・参加度	20	知識・技能(DP2)：5，主体性・多様性・協働性(DP4)：15

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
その他：PC演習

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	オリエンテーション：情報コンテンツとマルチメディアデータ
	授業方法 / 進め方	オリエンテーションと講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を提出する。
2	授業内容（担当教員）	テキストデータの表現
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を提出する。
3	授業内容（担当教員）	自然言語処理技術
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
4	授業内容（担当教員）	テキスト情報処理演習
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
	アクティブ・ラーニング	その他
5	授業内容（担当教員）	音声データの表現
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
6	授業内容（担当教員）	音声情報処理演習
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
	アクティブ・ラーニング	その他

7	授業内容（担当教員）	画像データの表現
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を提出する。
8	授業内容（担当教員）	画像処理技術
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
9	授業内容（担当教員）	ペイントソフト演習
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容（担当教員）	ドローソフト演習
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
	アクティブ・ラーニング	その他
11	授業内容（担当教員）	3次元画像データの表現
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を提出する。
12	授業内容（担当教員）	動画データの表現
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
13	授業内容（担当教員）	映像処理技術
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
14	授業内容（担当教員）	動画編集ソフト演習
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
	アクティブ・ラーニング	その他
15	授業内容（担当教員）	コンテンツ配信技術
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を提出する。

科目名	情報ネットワーク論		
科目名(英語)	Information Network Studies		
担当教員	柴田 雅博		
科目区分	全学横断型科目、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(情報)、上級情報処理士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

現在の情報システムはネットワークと切り離して話すことができず、ネットワークがどのように構成され、どのような技術が用いられているのかを知っておくのは重要である。

本講義では、インターネットやLANなどのネットワークシステムの構成、周辺技術について学修する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

なし

関連資格

高等学校教諭一種免許(情報)、上級情報処理士

テキスト

独自作成した講義資料を配布提供する。

参考図書・教材等

なし

学習相談・助言体制

授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの仕組み、LANの構成について理解する。 ・情報セキュリティに関する基盤技術について理解する。
(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・PCのネットワーク設定、簡単なネットワーク確認を行える。

思考・判断・表現

(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティを考慮しながらネットワーク利用ができる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性をもって授業に取り組むことができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

ネットワークシステムを構築する各機器の役割について理解する。

ネットワーク技術に関する数学的知識を身につける。

情報セキュリティに関する基盤技術について理解する。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

ネットワークの仕組み、LANの構成について理解する。

情報セキュリティの基礎を理解する。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。
不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	50	知識・技能(DP1)：50
授業外レポート・宿題	20	知識・技能(DP1)：15，思考・判断・表現(DP3)：5
授業内演習	10	知識・技能(DP2)：10
授業態度・参加度	20	主体性・多様性・協働性(DP4)：20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
その他：PC演習

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	コンピュータネットワークとは：情報システムにおける通信技術の役割
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
2	授業内容（担当教員）	インターネットの技術
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
3	授業内容（担当教員）	OSI基本参照モデルとTCP/IPモデル
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める
4	授業内容（担当教員）	プロトコル技術
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
5	授業内容（担当教員）	LANシステムの構成
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
6	授業内容（担当教員）	IPアドレス
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
7	授業内容（担当教員）	サーバ（各サーバの役割、仮想化、冗長化）
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。

8	授業内容（担当教員）	ルーター
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
9	授業内容（担当教員）	スイッチとVLAN
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
10	授業内容（担当教員）	ファイアーウォール
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
11	授業内容（担当教員）	ネットワーク演習（Windowsのネットワーク設定）
	授業方法 / 進め方	PC演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
	アクティブ・ラーニング	その他
12	授業内容（担当教員）	ネットワーク攻撃とセキュリティ
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
13	授業内容（担当教員）	暗号化技術と暗号化演習
	授業方法 / 進め方	講義と演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
	アクティブ・ラーニング	その他
14	授業内容（担当教員）	無線LAN
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
15	授業内容（担当教員）	音声、動画の通信
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。

科目名	現代社会論B(情報社会論)		
科目名(英語)	Modern Social Theories B (Information Society)		
担当教員	阪井 俊文		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(公民)、高等学校教諭一種免許(情報)、中学校教諭一種免許(社会)、上級情報処理士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

メディアが発達し高度に情報化されているということは、現代社会の大きな特徴の一つである。本講義では、「流動化」「個人化」「再帰化」「グローバル化」「消費社会化」といった社会構造・社会変動に関する様々な論点と関連づけながら、情報化がもたらす功罪について考えていく。前半は、情報化に関連する主要な理論の解説を行い、後半では「恋愛」「観光」「音楽」など、身近なトピックが情報化とどのように関連しているのかを考えたい。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
特になし。

テキスト

辻・南田・土橋(編)『メディア社会論』有斐閣, 2018, 1800円

参考図書・教材等

講義の中で紹介する。

学習相談・助言体制

質問等は、授業の前後に受付ける。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1) 高度に情報化が進む現代社会について、客観的・学問的に理解するために必要な理論を身につける。

思考・判断・表現

(DP3) 情報社会論の理論や分析方法を用いて、現代の様々な社会問題について考察することができる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

情報化に関する様々な理論を理解し、それを踏まえながら具体的な社会事象について主体的に分析・考察できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

情報化に関する主要な理論を理解し、それに基づいて現代的な社会事象を説明できる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

情報化に関する様々な理論を理解し、それを踏まえながら具体的な社会事象について主体的に分析し、新しい見方を提唱できる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

情報化に関する様々な理論を理解し、それを踏まえながら具体的な社会事象について考察できる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

情報化に関する社会学理論を理解し、具体的な社会事象と関連づけて説明できる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

情報化に関連する社会学理論や専門用語について説明できる。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	20	知識・技能(DP1)：10，思考・判断・表現(DP3)：10
授業外レポート・宿題	80	知識・技能(DP1)：30，思考・判断・表現(DP3)：50

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	イントロダクション
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第1章を読む
2	授業内容(担当教員)	メディアの発達と「流動化」
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第1章を読む
3	授業内容(担当教員)	インターネットと「個人化」
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第1章を読む
4	授業内容(担当教員)	再帰的近代化論とメディア
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第1章を読む
5	授業内容(担当教員)	マクルーハンのメディア論
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第2章を読む
6	授業内容(担当教員)	マスメディアと近代化
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第2章を読む
7	授業内容(担当教員)	メディアの変遷と「広告」
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第2,7章を読む
8	授業内容(担当教員)	メディアの変遷と「権力」
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第4章を読む
9	授業内容(担当教員)	メディア社会における「健康」
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第7章を読む
10	授業内容(担当教員)	SNSとアイデンティティ
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第5章を読む
11	授業内容(担当教員)	メディアと人間関係
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第9章を読む
12	授業内容(担当教員)	芸術と「コンテンツ」
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第6,10章を読む
13	授業内容(担当教員)	観光と「疑似イベント」
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第3章を読む

14	授業内容（担当教員）	ユビキタスとビッグデータ
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第8章を読む
15	授業内容（担当教員）	まとめとレポート課題の説明
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第11章を読む

科目名	現代社会論C(情報社会と法)		
科目名(英語)	Modern Social Theories C (Media Law)		
担当教員	森脇 敦史		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(公民)、高等学校教諭一種免許(情報)、中学校教諭一種免許(社会)、上級情報処理士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

現代が情報化社会と言われて久しいが、特に近年では、インターネットの発達を契機として情報が持つインパクトが巨大化している。さらに、ビッグデータやAIの利用は、社会・経済秩序の構造そのものに大きな影響を与える一方、プライバシー等の個別的な権利理解だけでなく、法解釈や個人の在り方そのものを変える可能性/危険を有している。本講義では、社会の情報化によって生じる法の変化および、法によって変化する情報社会のあり方を検討する。

履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等

特になし。

テキスト

なし。

参考図書・教材等

- ・鈴木秀美・山田健太編著『よくわかるメディア法 第2版』ミネルヴァ書房(2019年)
- ・曾我部真裕ほか著『情報法概説 第2版』弘文堂(2019年)

学習相談・助言体制

授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp)で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	情報社会の進展と、法の変化との相互作用について理解できる。
-------	-------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	現代社会で生じている問題を自ら探索することができる。 結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

情報社会と法との関わりを、具体的事例と結びつけながら理解する。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

情報社会と法との関わりを、具体的事例と結びつけながら説明できること。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。
不可: ~59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	70	知識・技能(DP1) , 思考・判断・表現(DP3)
授業内レポート・小テスト	30	知識・技能(DP1)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	ガイダンス.....メディアの現状、表現の自由概論
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。
2	授業内容(担当教員)	メディア法取材活動の自由
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。
3	授業内容(担当教員)	メディア法名誉毀損
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。
4	授業内容(担当教員)	メディア法ヘイトスピーチ
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。
5	授業内容(担当教員)	メディア法プライバシー
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。
6	授業内容(担当教員)	メディア法わいせつ、児童ポルノ、青少年保護条例
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。
7	授業内容(担当教員)	メディア法放送制度
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。
8	授業内容(担当教員)	情報公開情報公開制度の必要性、開示対象と手続
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。
9	授業内容(担当教員)	情報公開不開示情報の類型、紛争処理手続
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。
10	授業内容(担当教員)	個人情報.....プライバシーとの違い、個人情報保護法
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。

11	授業内容（担当教員）	著作権 ……知的財産権の意義、著作物、著作権、著作者人格権
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。
12	授業内容（担当教員）	著作権 ……著作隣接権、著作権の制限
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。
13	授業内容（担当教員）	インターネットと法 ……インターネット上の権利侵害
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。
14	授業内容（担当教員）	インターネットと法 ……プロバイダー、検索エンジンの責任
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。
15	授業内容（担当教員）	情報社会の未来と法解釈……ビッグデータ、AI
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関するニュースを読む。 配布資料を読む。

科目名	情報検索システム論		
科目名(英語)	Information Retrieval Studies		
担当教員	柴田 雅博		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(情報)、上級情報処理士資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

インターネットや情報システムの中には膨大なデータが蓄積されており、今もなお増加している。我々はその膨大なデータの中から必要な情報を検索・抽出しなければならない。本講義ではWeb検索エンジンを例にテキスト検索を中心に、情報検索がどのように行われているのか、その仕組みについて学習する。また一般に判別技術についても学修する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
なし

関連資格

高等学校教諭一種免許(情報), 上級情報処理士

テキスト

独自作成した講義資料を配布提供する。

参考図書・教材等

なし

学習相談・助言体制

授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	<ul style="list-style-type: none"> Web検索エンジンに関する基盤技術を理解する。 AI技術の基礎的な知識を身につける。
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> 情報判別手法の基本を理解し、問題解決に応用できる。 機械学習(教師あり学習)を実践に応用できる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	<ul style="list-style-type: none"> 主体性をもって授業に取り組むことができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

Web検索エンジンに関する基盤技術を理解している。AIに関する基盤技術を理解し、問題解決への応用を図ることができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

Web検索エンジンの仕組みを理解している。AI技術の基礎的な知識を身につけている。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。
不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	50	知識・技能(DP1)：40，思考・判断・表現(DP3)：10
授業内演習	10	思考・判断・表現(DP3)：5，主体性・多様性・協働性(DP4)：5
授業外レポート・宿題	20	知識・技能(DP1)：10，思考・判断・表現(DP3)：10
授業態度・参加度	20	主体性・多様性・協働性(DP4)：20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
その他:機械学習の体験演習

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	情報検索とは：情報システムにおける情報検索の役割と事例
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	授業内容(担当教員)	テキスト検索：文書の表現
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
3	授業内容(担当教員)	検索エンジンの構成、クローリング
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
4	授業内容(担当教員)	単語の抽出
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
5	授業内容(担当教員)	索引付け
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
6	授業内容(担当教員)	辞書
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
7	授業内容(担当教員)	検索の評価値(1)：PageRank
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
8	授業内容(担当教員)	検索の評価値(2)：その他(tf/idf、コサイン類似度、PMI、シソーラス類似度)
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。

9	授業内容（担当教員）	画像の検索
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
10	授業内容（担当教員）	情報検索システムの評価：適合率、再現率、F 値
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
11	授業内容（担当教員）	情報検索システムの評価テスト：機械学習、クロスバリデーション
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
12	授業内容（担当教員）	検索質問の拡張：対話型検索、自然言語検索、QA
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
13	授業内容（担当教員）	情報検索技術の応用：自動要約、文書分類、情報推薦
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
14	授業内容（担当教員）	情報検索技術の応用：機械学習によるデータ判別演習（1） データの収集
	授業方法 / 進め方	講義と機械学習に関する演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
	アクティブ・ラーニング	その他
15	授業内容（担当教員）	情報検索技術の応用：機械学習によるデータ判別演習（2） データの判別実践
	授業方法 / 進め方	機械学習に関する演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。
	アクティブ・ラーニング	その他

科目名	個人情報法制		
科目名（英語）	Personal Information Legislation		
担当教員	森脇 敦史		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、キャリアマネジメント・プログラム、高等学校教諭一種免許（情報）、上級情報処理士資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

情報社会においてデータは「21世紀の石油」と言われるほど、社会活動において重要度を増している。中でも「個人情報」は、適切に取り扱われることが個人の基本的な権利として要求される一方、その適切な利用は本人及び社会への利益の観点からも重要である。本講義では、個人情報の「保護」だけでなく「利用」の側面について、現行の法制度と実際の運用を講義する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

なし。

テキスト

なし。

参考図書・教材等

岡村久道『個人情報保護法の知識＜第5版＞』日本経済新聞社出版社（2021年）

学習相談・助言体制

授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp)で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1) ・個人情報に関わる法制度に関する基本的知識を身につけている。

思考・判断・表現

(DP3) ・個人情報に関わる課題を法的制度の枠組で整理できる。
・個人情報について生じている問題を自ら探索することができる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

個人情報の保護と利用に関する現行法の制度設計を理解し、批判的に検討できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

個人情報に関わる課題を法的制度の枠組で整理し、より望ましい制度設計を考察できる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A:80～89 履修目標を達成している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	70	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3)
授業内レポート・小テスト	30	知識・技能(DP1)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	ガイダンス
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
2	授業内容(担当教員)	個人情報法制の歴史と法体系.....個人情報とプライバシー、条例と法律
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
3	授業内容(担当教員)	個人情報保護法個人情報の定義、個人情報取扱事業者
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
4	授業内容(担当教員)	個人情報保護法個人情報に対する義務
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
5	授業内容(担当教員)	個人情報保護法個人データ・保有個人データに対する義務
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
6	授業内容(担当教員)	個人情報保護法匿名加工情報、仮名加工情報、実効性確保
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
7	授業内容(担当教員)	行政機関と個人情報保護法定義、保護
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
8	授業内容(担当教員)	行政機関と個人情報保護法開示・訂正・利用停止請求
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
9	授業内容(担当教員)	医療ビッグデータ法、戸籍法、住民基本台帳法
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
10	授業内容(担当教員)	マイナンバー法
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
11	授業内容(担当教員)	個人情報の国際的保護
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する

12	授業内容（担当教員）	個人情報の国際的保護
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
13	授業内容（担当教員）	事例検討
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
14	授業内容（担当教員）	事例検討
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
15	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する

授業科目名： 地理情報システム論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：美谷 薫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>到達目標及びテーマは以下の3点である。</p> <p>①地理情報の構成要素や情報活用の意義について理解している。</p> <p>②地理情報システム（GIS）の汎用ソフトの操作方法を修得し、それらを活用して自らの調査・分析結果をわかりやすく提示できる。</p> <p>③地域課題の抽出や解決方法検討のために地理情報を活用することができる。</p> <p>教職との関連では、地理情報の活用の側面から、高等学校情報の「情報Ⅰ」における「（1）情報社会の問題解決」、 「（2）コミュニケーションと情報デザイン」、 「（4）情報通信ネットワークとデータの活用」および同「情報Ⅱ」における「（3）情報とデータサイエンス」等に係る指導法や教材作成のための技能を身につけることを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>地理空間情報活用推進基本法の制定をはじめとして、近年、社会のさまざまな場面において地理情報の活用が定着しつつある。本講義では、これらの背景のもとで、地理情報の基礎や社会における活用イメージを取り上げるとともに、汎用性のある地理情報システム（GIS）のソフトウェアを用いた作業・実習を行い、地域課題解決のための地理情報システムの活用方法を身につけることを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 イン트로ダクション：講義内容の説明，地理情報システム（GIS）の概要</p> <p>第2回 地理情報の活用イメージ（1）：WebGIS</p> <p>第3回 地理情報の活用イメージ（2）：地図作成ソフトの活用</p> <p>第4回 地理情報の活用イメージ（3）：参加型GIS</p> <p>第5回 地理情報の基礎：ベクトルデータとラスターデータ，測地系と座標系</p> <p>第6回 既存の地図データ・属性データの活用（1）：基盤数値情報と国土数値情報</p> <p>第7回 既存の地図データ・属性データの活用（2）：e-Statと自治体GIS</p> <p>第8回 空間データの作成と活用（1）：座標変換，ジオリファレンス，ジオコーディング</p> <p>第9回 空間データの作成と活用（2）：データのマージ・ディゾルブ，空間データの抽出</p> <p>第10回 空間データの分析（1）：空間解析</p> <p>第11回 空間データの分析（2）：ネットワーク分析</p> <p>第12回 空間データの分析（3）：領域分析</p>			

第13回 地理情報システムを活用したレポートの作成（1）：テーマと方法の検討，データの収集

第14回 地理情報システムを活用したレポートの作成（2）：分布作業，結果の考察

第15回 まとめ 各自のレポートの報告

定期試験は実施しない。期末レポートを課す。

テキスト

特に指定せず，毎回，資料を配布する。

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介するが，主なものとして以下の2点を挙げておく。

河端瑞貴 2018. 『経済・政策分析のためのGIS入門 1：基礎 ArcGIS Pro対応』 古今書院.

橋本雄一 2019. 『五訂版GISと地理空間情報 ArcGIS 10.7とArcGIS Pro 2.3の活用』 古今書院.

なお，授業で活用するソフトウェアについては，ESRI社のArcGIS Desktop Advancedを予定している。

学生に対する評価

講義中に実施する作業課題：40点，期末レポート：50点（内容：40点，発表：10点），授業への参加度：10点の合計100点満点で評価する。

科目名	社会調査法		
科目名（英語）	Social Research Methods		
担当教員	中村 晋介		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許（公民）、高等学校教諭一種免許（情報）、中学校教諭一種免許（社会）、社会調査士資格、上級情報処理士資格		
標準履修年次	1～4年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本学で開講される社会調査関連科目の出発点として、社会調査の意義と諸類型に関する基本的な事項について概論的に講義する。具体的には、1)現代の日本で実際に行われている社会調査の種類と方法、2)社会調査の歴史的な発展、3)社会調査の倫理/統計法、4)先行研究の探し方/調査設計のやり方（紙媒体の文献のみならず、インターネット上の資料やデータも含む）、5)量的調査（調査票調査）の諸方法と進め方（統計ソフトの紹介・基本的な使用方法を含む）、6)質的調査の諸方法と進め方（QDAソフトの紹介・基本的な使用方法を含む）について順番に述べていく。

履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等

履修条件：特になし

授業内容を理解するために必要な知識：授業内容を理解する上で、他の社会学系の講義を同時履修または履修済みであることが望ましい。

関連資格

社会調査士

テキスト

使用しない（講義担当者が作成したプリントで講義する）。

参考図書・教材等

講義中に適宜指示する。

授業中の撮影

原則として行わない。

学習相談・助言体制

コメントカード、オフィスアワー、e-learningシステムで質問や意見を受け付ける。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	問題意識に応じて、適切な社会調査の方法を選択し、遂行できる知識と技能を修得する。 調査で得られたデータを適切に整理し、報告書やエスノグラフィーを作成できる知識と技能を修得する。
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	社会調査において、自らの問題意識や研究設問を適切に設定する能力を修得する。
-------	---------------------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

現代行われている社会調査の実例、社会調査の種類と方法、社会調査の歴史、統計法/社会調査の倫理、量的調査の諸段階、質的調査の諸段階、社会調査を実施するにあたってのインターネット/コンピューターの活用法など、講義中に取り上げたテーマに関して、実践的な知識を幅広く持つ。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

現代行われている代表的な社会調査の実例、社会調査の種類と方法、社会調査の歴史、統計法/社会調査の倫理、量的調査の諸段階、質的調査の諸段階、社会調査を実施するにあたってのインターネット/コンピューターの活用法など、講義中に取り上げたテーマに関して基礎的な知識を持つ。

成績評価の基準

S: 90 ~ 100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
履修目標で示したことに加え、講義時間の都合上、講義内では簡単に触れることしかできなかった事柄について、自ら積極的に学習し、その内容を理解している。
A: 80 ~ 89 履修目標を達成している。
履修目標で示したことを十分に理解し、自分自身の知識として習得している。
B: 70 ~ 79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
履修目標で示したことをある程度まで理解し、自分自身の知識として習得している。
C: 60 ~ 69 到達目標を達成している。
到達目標で示したことについて、最低限、知識として習得している。
不可: ~ 59 到達目標を達成できていない。
到達目標で示したことについての知識が不足している。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	90	知識・技能(DP2) : 90
授業内レポート・小テスト	10	思考・判断・表現(DP3) : 10

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	イントロダクション 基本用語の解説
	授業方法/進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード(黒板)などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習: 社会調査について独自に調べる 事後学習: 今回の講義内容の復習
2	授業内容(担当教員)	現代日本で行われている社会調査の実例 公的統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチ、ビッグデータ解析など
	授業方法/進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード(黒板)などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習: 前回の講義内容の復習 事後学習: 今回の講義内容の復習 講義中に課題が出された時はそれに回答すること
3	授業内容(担当教員)	社会調査の目的と必要性 社会調査の歴史をふまえて(1): 前近代社会の重要な社会調査を主に紹介。
	授業方法/進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード(黒板)などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習: 前回の講義内容の復習 事後学習: 今回の講義内容の復習 講義中に課題が出された時はそれに回答すること

4	授業内容（担当教員）	社会調査の目的と必要性 社会調査の歴史をふまえて(2)：プースやラウントリーの貧困者調査を主に紹介。
	授業方法 / 進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習 講義中に課題が出された時はそれに回答すること
5	授業内容（担当教員）	社会調査の目的と必要性 社会調査の歴史をふまえて(3)：シカゴ学派以降の社会調査を紹介。
	授業方法 / 進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習 講義中に課題が出された時はそれに回答すること
6	授業内容（担当教員）	社会調査の事前準備 方法論の選択：量的調査と質的調査 / 統計的調査と事例研究法、web調査の現状などを講義。
	授業方法 / 進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習 講義中に課題が出された時はそれに回答すること
7	授業内容（担当教員）	社会調査の事前準備 先行研究の探し方：インターネット上に公開されている先行研究やデータアーカイブへのアクセス方法にも言及。
	授業方法 / 進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習 講義中に課題が出された時はそれに回答すること
8	授業内容（担当教員）	社会調査の事前準備 調査者の心構えと調査倫理：統計法や社会調査倫理規定への言及と、それらへの配慮について言及。
	授業方法 / 進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習 講義中に課題が出された時はそれに回答すること

9	授業内容（担当教員）	量的調査の方法 サンプルングから配票まで：先行研究や講義担当者の経験をもとに手順や注意事項を紹介。
	授業方法 / 進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習 講義中に課題が出された時はそれに回答すること
10	授業内容（担当教員）	量的調査の方法 調査票・質問文の作り方：先行研究や講義担当者の経験をもとに手順や注意事項を紹介。
	授業方法 / 進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習 講義中に課題が出された時はそれに回答すること
11	授業内容（担当教員）	量的調査の方法 量的調査で得られたデータの基礎的な分析方法：統計ソフトの紹介・基本的な使用法を含む。
	授業方法 / 進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習 講義中に課題が出された時はそれに回答すること
12	授業内容（担当教員）	質的調査の方法 面接 / インタビュー、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析、映像分析、会話分析など(1)：各種技法を著名な先行研究を参照しつつ紹介。
	授業方法 / 進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習 講義中に課題が出された時はそれに回答すること
13	授業内容（担当教員）	質的調査の方法 面接 / インタビュー、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析、映像分析、会話分析など(2)：各種技法を著名な先行研究を参照しつつ紹介。
	授業方法 / 進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習 講義中に課題が出された時はそれに回答すること

14	授業内容（担当教員）	質的調査の方法 フィールドノーツと構造化：QDAソフトの紹介と基本的な使用方法を含む。
	授業方法 / 進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習 講義中に課題が出された時はそれに回答すること
15	授業内容（担当教員）	質的調査の方法 エスノグラフィーの書き方：先行研究や講義担当者の経験をもとに手順や注意事項を紹介。
	授業方法 / 進め方	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。 コロナウィルスの蔓延状況や教室の都合によって、オンデマンド講義になる可能性もある。
	事前・事後学習	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習 講義中に課題が出された時はそれに回答すること

科目名	社会福祉調査法		
科目名(英語)	Research Methods for Social Work		
担当教員	森 康司		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、データサイエンス・プログラム、上級情報処理士資格、社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本講義では、社会調査について学ぶ。具体的には、社会調査の歴史、意義、目的、種類、企画と設計、サンプリング、質問文の作成、データ整理、質的調査の諸技法などを学ぶ。
社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」に該当する内容を学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

授業資料は事前にEラーニングに掲載するので、各自印刷するなどして準備すること。

関連資格

社会福祉士、上級情報処理士

テキスト

使用しない。

参考図書・教材等

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 5 社会福祉調査の基礎』中央法規，2021年，2,500円＋税。
大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房，2013年、2,500円＋税。

学習相談・助言体制

授業前後の時間で受け付け、回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	社会調査に関する基礎的知識を理解している。
-------	-----------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

社会調査の歴史、意義、目的、種類、企画と設計、サンプリング、質問文の作成、データ整理、質的調査の諸技法、について正確に理解し、説明できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

社会調査の歴史、意義、目的、種類、企画と設計、サンプリング、質問文の作成、データ整理、質的調査の諸技法、について用語の意味が理解できる。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。
不可: ～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	100	知識・技能(DP1)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	授業概要説明
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料を読む
2	授業内容(担当教員)	社会福祉調査の意義と目的
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料を読む
3	授業内容(担当教員)	社会福祉調査における倫理と個人情報保護
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料を読む
4	授業内容(担当教員)	社会福祉調査のデザイン
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料を読む
5	授業内容(担当教員)	量的調査の方法: 相関関係と因果関係
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料を読む
6	授業内容(担当教員)	量的調査の方法: 記述統計量
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料を読む
7	授業内容(担当教員)	量的調査の方法: 質問文と選択肢の作成
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料を読む
8	授業内容(担当教員)	量的調査の方法: 標本の抽出
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料を読む
9	授業内容(担当教員)	量的調査の方法: 量的調査の種類と特徴
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料を読む
10	授業内容(担当教員)	量的調査の方法: 集計と分析
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料を読む
11	授業内容(担当教員)	質的調査の方法: 質的調査の概要と諸方法
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料を読む
12	授業内容(担当教員)	質的調査の方法: インタビューの諸作法
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料を読む
13	授業内容(担当教員)	質的調査の方法: 質的調査の記録方法と留意点
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料を読む
14	授業内容(担当教員)	質的調査の方法: データの分析方法
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料を読む

15	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークにおける評価
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	Eラーニング掲載の資料全体を読みなおす

科目名	保健社会調査論		
科目名（英語）	Health Care Survey Research		
担当教員	小出 昭太郎		
科目区分	看護学部 看護学科、データサイエンス・プログラム		
標準履修年次	3～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

統計を用いた質問紙調査（いわゆるアンケート調査）の方法を学ぶ。質問紙調査はしばしば、「知りたいことを一つ一つ尋ねる質問を並べて質問紙をつくり、1番の選択肢を選んだ人が %、2番の選択肢を選んだ人が %、というように集計するだけのもの」と捉えられている。しかし、方法を学び、計画を吟味して質問紙調査を行えば、より確かであり有用な物事を知ることができ、卒業研究や病院・地域等における研究の主要な方法の一つとして用いることができる。また、質問紙調査を行う方法を学ぶと、質問紙調査が用いられた論文を正しく読めるようになり、研究や業務に役立つであろう。

学生の到達度に応じて授業計画を変更することがある。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
なし

テキスト

テキストはなし。配布資料を用いる。

参考図書・教材等

授業中に紹介する。

学習相談・助言体制

随時、対応する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1) 質問紙調査（特に質問紙作成と統計的分析）を行うための基礎的な知識を理解し身につける。

思考・判断・表現

(DP3) 質問紙調査（特に質問紙作成と統計的分析）を行う際の基礎的な論理的思考・判断力を身につける。

主体性・多様性・協働性

(DP4) 質問紙調査を学ぶ意義を理解し、学びに積極的に取り組む。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

助言を受けながら、自ら質問紙調査を行うことができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

質問紙調査（特に質問紙作成と統計的分析）を行うための基礎的な知識を理解し身につける。学びに積極的に取り組む。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C: 60～69 到達目標を達成している。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業外レポート・宿題	60	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3)
演習・演習報告書	40	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
-

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	イントロダクション
	授業方法/進め方	講義 配布資料を用いて、質問紙調査の概要について講義する。
2	授業内容(担当教員)	調査テーマの検討
	授業方法/進め方	演習
	事前・事後学習	第1～2回の事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、質問紙調査の概要についての理解を確実なものにする。 進捗状況に応じて演習(調査テーマの検討)の続きを行う。
3	授業内容(担当教員)	調査の流れ
	授業方法/進め方	講義 配布資料を用いて、調査の流れについて講義する。
4	授業内容(担当教員)	調査テーマの検討
	授業方法/進め方	演習
	事前・事後学習	第3～4回の事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、調査の流れについての理解を確実なものにする。 進捗状況に応じて演習(調査テーマの検討)の続きを行う。
5	授業内容(担当教員)	文献検討
	授業方法/進め方	講義 配布資料を用いて、文献検討について講義する。
6	授業内容(担当教員)	調査の企画と文献検討
	授業方法/進め方	演習
	事前・事後学習	第5～6回の事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、文献検討についての理解を確実なものにする。 進捗状況に応じて演習(調査の企画と文献検討)の続きを行う。
7	授業内容(担当教員)	質問文と選択肢の作成
	授業方法/進め方	講義 配布資料を用いて、質問文と選択肢の作成について講義する。
8	授業内容(担当教員)	調査の企画と文献検討
	授業方法/進め方	演習
	事前・事後学習	第7～8回の事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、質問文と選択肢の作成についての理解を確実なものにする。 進捗状況に応じて演習(調査の企画と文献検討)の続きを行う。
9	授業内容(担当教員)	統計的推測
	授業方法/進め方	講義 配布資料を用いて、統計的推測について講義する。

10	授業内容（担当教員）	調査の企画と文献検討
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	第9～10回の事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、統計的推測についての理解を確実なものにする。 進捗状況に応じて演習（調査の企画と文献検討）の続きを行う。
11	授業内容（担当教員）	クロス集計、相関係数
	授業方法 / 進め方	講義 配布資料を用いて、クロス集計、相関係数について講義する。
12	授業内容（担当教員）	調査の企画と文献検討
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	第11～12回の事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、クロス集計、相関係数についての理解を確実なものにする。 進捗状況に応じて演習（調査の企画と文献検討）の続きを行う。
13	授業内容（担当教員）	測定の信頼性・妥当性・内的整合性
	授業方法 / 進め方	講義 配布資料を用いて、測定の信頼性・妥当性・内的整合性について講義する。
14	授業内容（担当教員）	調査の企画と文献検討
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	第13～14回の事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、測定の信頼性・妥当性・内的整合性についての理解を確実なものにする。 進捗状況に応じて演習（調査の企画と文献検討）の続きを行う。
15	授業内容（担当教員）	質問紙の作成
	授業方法 / 進め方	演習
16	授業内容（担当教員）	質問紙の作成
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	第15～16回の事後学習 進捗状況に応じて演習（質問紙の作成）の続きを行う。
17	授業内容（担当教員）	質問紙の作成
	授業方法 / 進め方	演習
18	授業内容（担当教員）	プレテスト
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	第17～18回の事後学習 進捗状況に応じて演習（質問紙の作成、プレテスト）の続きを行う。
19	授業内容（担当教員）	質問紙の修正
	授業方法 / 進め方	演習
20	授業内容（担当教員）	調査の実施
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	第19～20回の事後学習 進捗状況に応じて演習（質問紙の修正、調査の実施）の続きを行う。
21	授業内容（担当教員）	データの入力
	授業方法 / 進め方	演習
22	授業内容（担当教員）	データの入力
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	第21～22回の事後学習 進捗状況に応じて演習（データの入力）の続きを行う。

23	授業内容（担当教員）	分析
	授業方法 / 進め方	演習
24	授業内容（担当教員）	分析
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	第23～24回の事後学習 進捗状況に応じて演習（分析）の続きを行う。
25	授業内容（担当教員）	分析
	授業方法 / 進め方	演習
26	授業内容（担当教員）	報告書の作成
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	第25～26回の事後学習 進捗状況に応じて演習（分析、報告書の作成）の続きを行う。
27	授業内容（担当教員）	報告書の作成
	授業方法 / 進め方	演習
28	授業内容（担当教員）	報告書の作成
	授業方法 / 進め方	演習
	事前・事後学習	第27～28回の事後学習 進捗状況に応じて演習（報告書の作成）の続きを行う。
29	授業内容（担当教員）	報告書の作成
	授業方法 / 進め方	演習
30	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法 / 進め方	講義 まとめの講義を行う。
	事前・事後学習	第29～30回の事後学習 進捗状況に応じて演習（報告書の作成）の続きを行う。 レポート（授業外レポート）を作成する。

科目名	心理学研究法		
科目名(英語)	Psychological Research Methods		
担当教員	上野 行良、小林 亮太、麦島 剛、古賀 なな子		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

心理学の基本的な研究方法を学びます。心理学は実証を重視することによって発展してきました。多くの心理学的な知見を学ぶ際も、その実証性を確かめながら理解することが必要です。また受講されるみなさんのほとんどが卒業論文では実証的な研究を行うこととなります。心理をどのように実証的に研究するかを知り、身につけましょう。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
なし

関連資格

公認心理師

テキスト

なし

参考図書・教材等

なし

実務経験を生かした授業

14・15回では公認心理師及び臨床心理士の資格をもち、臨床経験のある教員が面接について教授する。

授業中の撮影

対面免除申請への対応時に録画あり。

学習相談・助言体制

講義中及びメール、またはe-learning上のミニレポート内での質問を受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	心理学の研究法を知る。
(DP2)	心理学研究を行うための基礎的なスキルを身につける。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

心理学研究を実証的に研究する方法を知り、適切に行うことができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

心理学研究をどのように実践するかを知っている。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A:80～89 履修目標を達成している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	80	知識・技能(DP1) : 40 , (DP2) : 40
授業外レポート・宿題	10	知識・技能(DP1) : 5 , (DP2) : 5
発表	3	知識・技能(DP1) : 1 , (DP2) : 2
その他	7	知識・技能(DP1) : 3 , (DP2) : 4

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	仮説検証
	授業方法/進め方	グループワークを通し実験計画を立てる。
	事前・事後学習	宿題が出る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
2	授業内容(担当教員)	研究デザイン
	授業方法/進め方	グループワークを通し実験計画を立てる。
	事前・事後学習	宿題が出る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
3	授業内容(担当教員)	統計的検定
	授業方法/進め方	グループワークを通し妥当な統計的検定を選ぶ訓練をする。
	事前・事後学習	宿題が出る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
4	授業内容(担当教員)	質問紙
	授業方法/進め方	グループワークを通し質問紙を作成する。
	事前・事後学習	宿題が出る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
5	授業内容(担当教員)	質問紙
	授業方法/進め方	グループワークを通し質問紙を作成する。
	事前・事後学習	宿題が出る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
6	授業内容(担当教員)	認知心理学実験
	授業方法/進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
7	授業内容(担当教員)	認知心理学実験
	授業方法/進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
8	授業内容(担当教員)	認知心理学実験
	授業方法/進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
9	授業内容(担当教員)	生理と行動
	授業方法/進め方	講義形式で行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
10	授業内容(担当教員)	生理と行動
	授業方法/進め方	講義形式で行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク

11	授業内容（担当教員）	生理と行動
	授業方法 / 進め方	講義形式で行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
12	授業内容（担当教員）	観察
	授業方法 / 進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
13	授業内容（担当教員）	観察
	授業方法 / 進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
14	授業内容（担当教員）	面接
	授業方法 / 進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
15	授業内容（担当教員）	面接
	授業方法 / 進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。

科目名	社会調査の設計		
科目名(英語)	Planning Social Research		
担当教員	園田 浩之		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(情報)、社会調査士資格、上級情報処理士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。各回の内容は、調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、対象者の選定の諸方法、サンプリング法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法、調査データの整理などである。

履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等

本講義は社会調査士資格B科目に相当する。「社会調査法」を履修していることを前提に授業を進める。

関連資格

社会調査士、上級情報処理士

テキスト

なし

参考図書・教材等

佐藤健二・山田一成編著『社会調査論』(2009年、八千代出版)講義の進行に応じて、理解の深化につながるような手がかりを(いわゆる専門的な書籍に限定せず)紹介していかれたらと考えている。

授業中の撮影

なし

学習相談・助言体制

基本的に、講義時間の前後、教室でうかがえます。講義に関することであればどんなことでも、遠慮なく尋ねてください。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	社会調査の諸段階を理解し、社会的事象を適切に調査、分析するための社会調査を企画することができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

社会調査の目的・方法、企画と設計、仮説構成、サンプリング、質問文の作成、調査の実施方法、データ整理、質的調査の諸技法について正確に理解し、社会調査を企画することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

社会調査の目的・方法、企画と設計、仮説構成、サンプリング、質問文の作成、調査の実施方法、データ整理、質的調査の諸技法について用語の意味が理解できる。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	70	知識・技能(DP2)
授業態度・授業への参加度	30	知識・技能(DP2)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	授業概要説明
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	シラバスに記載されている基本事項をよく読み、確認しておきたいことや、不明なことがあれば、(次の講義のさい)質問できるようにしておく。
2	授業内容(担当教員)	調査の方法と調査方法の決め方
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配布された資料(と自分のメモやノート)をていねいにふりかえる。そこで、わからないこと、さらに知りたいことが生じたら(次の講義のさい)質問できるようにしておく。
3	授業内容(担当教員)	調査目的:テーマ設定と文献・データ収集(文献データベース(CiNii等)、既存の統計データの活用法(e-Statのデータの加工・分析)、過去の調査のSSJDA等のデータ・アーカイブの紹介)
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配布された資料(と自分のメモやノート)をていねいにふりかえる。そこで、わからないこと、さらに知りたいことが生じたら(次の講義のさい)質問できるようにしておく。
4	授業内容(担当教員)	調査企画と設計
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配布された資料(と自分のメモやノート)をていねいにふりかえる。そこで、わからないこと、さらに知りたいことが生じたら(次の講義のさい)質問できるようにしておく。
5	授業内容(担当教員)	仮説構成(1)(理論仮説と作業仮説、概念の操作化等)
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配布された資料(と自分のメモやノート)をていねいにふりかえる。そこで、わからないこと、さらに知りたいことが生じたら(次の講義のさい)質問できるようにしておく。
6	授業内容(担当教員)	仮説構成(2)(仮説作文の方法と注意点、作文の演習等)
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配布された資料(と自分のメモやノート)をていねいにふりかえる。そこで、わからないこと、さらに知りたいことが生じたら(次の講義のさい)質問できるようにしておく。
7	授業内容(担当教員)	調査票の構成と質問文の作り方(1)(調査票作成のステップ、ワーディングの原則、質問文作成の演習等)
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配布された資料(と自分のメモやノート)をていねいにふりかえる。そこで、わからないこと、さらに知りたいことが生じたら(次の講義のさい)質問できるようにしておく。

8	授業内容（担当教員）	調査票の構成と質問文の作り方（2）（選択肢作成の原則、調査票のレイアウト、選択肢作成の演習等）
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配布された資料（と自分のメモやノート）をていねいにふりかえる。そこで、わからないこと、さらに知りたいことが生じたら（次の講義のさい）質問できるようにしておく。
9	授業内容（担当教員）	対象者の選定とサンプリング（1）（「母集団」の理念と実際、サンプリングの基礎）
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配布された資料（と自分のメモやノート）をていねいにふりかえる。そこで、わからないこと、さらに知りたいことが生じたら（次の講義のさい）質問できるようにしておく。
10	授業内容（担当教員）	対象者の選定とサンプリング（2）（様々なサンプリング法）
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配布された資料（と自分のメモやノート）をていねいにふりかえる。そこで、わからないこと、さらに知りたいことが生じたら（次の講義のさい）質問できるようにしておく。
11	授業内容（担当教員）	調査の実施方法（実査の方法、調査票の配布と回収法等）
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配布された資料（と自分のメモやノート）をていねいにふりかえる。そこで、わからないこと、さらに知りたいことが生じたら（次の講義のさい）質問できるようにしておく。
12	授業内容（担当教員）	調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング等）
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配布された資料（と自分のメモやノート）をていねいにふりかえる。そこで、わからないこと、さらに知りたいことが生じたら（次の講義のさい）質問できるようにしておく。
13	授業内容（担当教員）	質的調査の諸技法と留意点
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配布された資料（と自分のメモやノート）をていねいにふりかえる。そこで、わからないこと、さらに知りたいことが生じたら（次の講義のさい）質問できるようにしておく。
14	授業内容（担当教員）	質的調査の手順
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配布された資料（と自分のメモやノート）をていねいにふりかえる。そこで、わからないこと、さらに知りたいことが生じたら（次の講義のさい）質問できるようにしておく。
15	授業内容（担当教員）	社会調査を学ぶ / 社会調査から学ぶ ：調査とその先にあるもの
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配布された資料（と自分のメモやノート）をていねいにふりかえる。そこで、わからないこと、さらに知りたいことが生じたら（次の講義のさい）質問できるようにしておく。

科目名	地域社会分析法C		
科目名（英語）	Regional and Community Analysis C		
担当教員	美谷 薫		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許（公民）、高等学校教諭一種免許（情報）、中学校教諭一種免許（社会）、上級情報処理士資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

「地域社会」を分析するツールの1つとして、人文地理学で用いられる質的・量的分析の手法について取り上げ、受講生が実際に作業を行うことで、それらを身につけていくことを目的とします。その前段としての統計資料の収集方法や分析結果の表現方法としての地図化の手法などについても紹介していきます。分析の結果を受講生間で共有し、より当該事象を理解しやすい地理情報の表現手法についての議論もしたいと考えています。

教職との関連では、中学校社会の地理的分野の「C 日本の様々な地域」における「(1) 地域調査の手法」に係る指導法や教材作成のための技能を身につけることを主たる目的とします。ただし、本学科の設置目的を踏まえ、分析・作業の題材については、地域社会の課題や地方自治の諸問題に係るものも取り上げることとし、高等学校公民の現代社会の「(1) 私たちの生きる社会」、同政治・経済の「(3) 現代社会の諸課題」における「ア 現代日本の政治や経済の諸課題」を教授するのに必要な知識や技能を得るという位置づけとします。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

履修条件は特にありませんが、実習的な位置づけの科目で作業量が相当多いので、その点はあらかじめご承知おきください。また、指示があった場合には、色鉛筆（12色程度）、定規、電卓（スマートフォンのアプリレベルで構いません）を用意してください。学期の中盤では、屋外での実習を行うことがありますので、その際には服装等に注意してください（事前に連絡します）。

関連資格

中学校教諭一種免許状（社会）：選択、高等学校教諭一種免許状（公民）：選択、上級情報処理士：領域2 選択

テキスト

特に指定しません。毎回、資料を配布します。

参考図書・教材等

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。

- ・ 野間晴雄ほか編『ジオ・パルNEO 地理学・地域調査便利帖 [第2版]』、海青社、2017年。
- ・ 半澤誠司ほか編『地域分析ハンドブック Excelによる図表づくりの工具箱』、ナカニシヤ出版、2015年。
- ・ 梶田 真・仁平尊明・加藤政洋編『地域調査ことはじめ あるく・みる・かく』、ナカニシヤ出版、2007年。

実務経験を生かした授業

地方公共団体職員の経験のある教員が、政策形成への応用を念頭に置き、受講生による分析実習を含めながら、地域課題に関する質的・量的分析手法や結果の表現手法について解説します。

授業中の撮影

あり

学習相談・助言体制

講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、随時受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P	
知識・技能	
(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人文地理学で活用される質的・量的な分析手法を身につけている。 ・ さまざまな研究のテーマにふさわしい調査・分析手法を選択し、適切にデータを収集・分析することができる。

思考・判断・表現

(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らが実施した分析の結果について、地理情報を用いて的確に説明できる。 ・ 主題図を中心とした地図表現の基礎やGISの活用方法を習得し、それらを活用して自らの研究結果をわかりやすく説明できる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

自らが関心をもつ地域社会の課題について、情報やデータを収集して分析を行い、その結果についての的確に説明し、考察したその解決方法についてわかりやすく説明できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

自らが関心をもつ地域社会の課題について、情報やデータを収集して分析を行い、「見える化」することができる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。
不可:～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
期末レポート	40	知識・技能(DP2), 思考・判断・表現(DP3)
授業内レポート・小テスト	40	知識・技能(DP2), 思考・判断・表現(DP3)
授業外レポート・宿題	20	知識・技能(DP2), 思考・判断・表現(DP3)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
屋外での調査実習を行うほか、作業(実習課題)について、少人数のグループで作業を分担して結果を比較したり、ディスカッションを行うことがあります。

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	イントロダクション:講義内容の説明
	授業方法/進め方	講義
2	授業内容(担当教員)	地域統計と地図表現(1):地域統計の種類と収集方法
	授業方法/進め方	講義, 作業(実習課題)
	事前・事後学習	講義内容の復習, 実習課題の結果整理
3	授業内容(担当教員)	地域統計と地図表現(2):さまざまな地図
	授業方法/進め方	講義, 作業(実習課題)
	事前・事後学習	講義内容の復習
4	授業内容(担当教員)	地域統計と地図表現(3):主題図の種類と表現方法 現代社会の諸問題を統計と地図で表現する教材作成と指導法
	授業方法/進め方	講義, 作業(実習課題)
	事前・事後学習	講義内容の復習
5	授業内容(担当教員)	質的データの収集方法(1):アンケート調査と聞き取り調査
	授業方法/進め方	講義, 作業(実習課題)
	事前・事後学習	講義内容の復習

6	授業内容（担当教員）	質的データの収集方法（2）：土地利用調査（準備）
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，各自の調査準備
7	授業内容（担当教員）	質的データの収集方法（3）：土地利用調査（調査）
	授業方法／進め方	野外実習
	事前・事後学習	調査結果の整理
8	授業内容（担当教員）	質的データの収集方法（4）：土地利用調査（まとめ） 地域調査に係るカリキュラム構成と教材研究
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，調査結果のレポート作成
9	授業内容（担当教員）	地域統計の分析（1）：特化係数
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，作業レポートの作成準備
10	授業内容（担当教員）	地域統計の分析（2）：修正ウィーバー法
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，作業レポートの作成
11	授業内容（担当教員）	地域統計の分析（3）：回帰分析と相関係数
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
12	授業内容（担当教員）	パソコンでの地図作成（1）：既存デジタル地図の加工 GISを活用した授業展開と情報機器活用の留意点
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
13	授業内容（担当教員）	パソコンでの地図作成（2）：円積図・階級区分図の作成
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，期末レポート（レポートの場合）の作成準備
14	授業内容（担当教員）	パソコンでの地図作成（3）：分布図の作成
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，期末レポート（レポートの場合）の作成
15	授業内容（担当教員）	各自の期末レポートの報告 教科指導法としての人文地理学の諸手法の意義と留意点
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
備考	<p>テーマによって多少の相違は出ますが，講義の当初に分析の手法などの解説を行い，その後，提示した課題について作業を行い，結果を提出するという形で進めます。作業のボリュームが多く，講義時間中に作業が完了しないこともあるため，必要に応じて，課外の時間に各自で作業を進めてもらう形になります。また，野外実習については，新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を踏まえて，授業計画を変更する形で実施する場合があります。</p>	

科目名	心理学実験		
科目名(英語)	Experimental Psychology Seminar		
担当教員	小林 亮太、麦島 剛		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

われわれの心を科学的に調べ、信頼性の高いデータを出すには、心理学実験の手法は欠かすことができない。このような経験は、実証的なデータに基づいた人間の多面的な理解につながり、卒業後の社会生活の重要な資質となる。この授業では、心理学実験のやり方を学習することで、心理学の実験計画や統計分析に関する基礎的知識を増やし、心理学実験に関する基礎的技能を養成することを旨とする。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
演習科目なので2回以上の欠席は原則として認めない。

関連資格

公認心理師
認定心理士

テキスト

板口典弘・山本健太郎(2017)心理学レポート・論文の書き方 演習課題から卒論まで 講談社 \ 2090

参考図書・教材等

- ・中野博幸・田中敏(2012)フリーソフトjs-STARでかんたん統計データ分析 技術評論社
- ・USBメモリーを常に持参すること。
- ・授業前にeラーニングから資料をダウンロードして印刷しておくこと。

授業中の撮影

その理由がない。

学習相談・助言体制

質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	心理学実験の方法や統計学の理論と手法に関する知識を修得して実際に活用する。
-------	---------------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	心理学実験レポート作成を通じて科学的思考やその表現方法を修得する。
-------	-----------------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

心理学実験を実施し、そのデータを統計学の理論と手法を用いて適切に処理をして、文献に基づいて考察してレポートを作成する。これにより、科学研究における原則と科学的思考を修得する。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

心理学実験を実施し、そのデータを統計学の理論と手法を用いて適切に処理をして、文献に基づいて考察してレポートを作成する。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
履修目標で想定される到達点の9割以上の成果が認められる。	
A: 80～89	履修目標を達成している。
履修目標で想定される到達点の8割以上9割未満の成果が認められる。	
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

履修目標で想定される到達点の7割以上8割未満の成果が認められる。

C:60～69 到達目標を達成している。

履修目標で想定される到達点の6割以上7割未満の成果が認められる。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

履修目標で想定される到達点の6割未満の成果が認められる。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	50	知識・技能(DP2)：25，思考・判断・表現(DP3)：25
授業外レポート・宿題	50	知識・技能(DP2)：25，思考・判断・表現(DP3)：25

・授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

アクティブラーニング

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	心理学研究法と心理学実験実施に関する説明
	授業方法／進め方	実験に際しての注意事項とレポート提出の解説。
	事前・事後学習	板口典弘・山本健太郎（2017）心理学レポート・論文の書き方 演習課題から卒論まで 講談社「ステップ1」p.1-62を所定の書式2頁以内に要約し、最後に200字程度のコメントを書く（レポート1）
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
2	授業内容（担当教員）	レポート作成のためのワード、エクセルの活用法
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
3	授業内容（担当教員）	心理学実験における統計検定の意味
	授業方法／進め方	統計検定の意味とやり方に関する解説。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
4	授業内容（担当教員）	2検定の意味と実践（1）
	授業方法／進め方	統計検定の意味とやり方に関する解説。
	事前・事後学習	小テストを活用する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
5	授業内容（担当教員）	2検定の意味と実践（2）
	授業方法／進め方	統計検定の意味とやり方に関する解説。
	事前・事後学習	小テストを活用する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
6	授業内容（担当教員）	t検定の意味と実践(1)
	授業方法／進め方	統計検定の意味とやり方に関する解説。
	事前・事後学習	小テストを活用する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
7	授業内容（担当教員）	t検定の意味と実践(2)
	授業方法／進め方	統計検定の意味とやり方に関する解説。
	事前・事後学習	小テストを活用する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
8	授業内容（担当教員）	Key Pressソフトによる反応時間測定（実験1）
	授業方法／進め方	実験と統計検定の実施
	事前・事後学習	「単純反応時間と選択反応時間」のレポートを所定の書式2頁以内にまとめる。（レポート2）
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習

9	授業内容（担当教員）	1 要因分散分析の意味と実践
	授業方法 / 進め方	統計検定の意味とやり方に関する解説。
	事前・事後学習	小テストを活用する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
10	授業内容（担当教員）	鏡影描写（実験 2）
	授業方法 / 進め方	実験と統計検定の実施
	事前・事後学習	「鏡映描写の学習効果」のレポートを所定の書式2頁以内にまとめる。（レポート3）
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
11	授業内容（担当教員）	2 要因分散分析の意味と実践
	授業方法 / 進め方	統計検定の意味とやり方に関する解説。
	事前・事後学習	小テストを活用する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
12	授業内容（担当教員）	心理学実験における統計検定の意味
	授業方法 / 進め方	統計検定の意味とやり方に関する解説。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
13	授業内容（担当教員）	ミュラーリエル錯視（実験 3）(1)
	授業方法 / 進め方	実験と統計検定の実施
	事前・事後学習	「ミュラーリエル錯視に及ぼす矢羽の長さと角度の効果」のレポートを所定の書式2頁以内にまとめる。（レポート4）
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
14	授業内容（担当教員）	ミュラーリエル錯視（実験 3）(2)
	授業方法 / 進め方	前回の続き。
	事前・事後学習	前回と同じ。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
15	授業内容（担当教員）	プレテストの実施と解説
	授業方法 / 進め方	心理学研究の考え方・データを示すグラフ作成・データを裏づける統計検定に関する試験を予行する。
	事前・事後学習	解説をもとに自己採点して、次週の本試験に備える。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
備考	期末試験期間に本試験を行う。	

科目名	心理学実験		
科目名（英語）	Experimental Psychology Seminar		
担当教員	小林 亮太、麦島 剛		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

われわれの心を科学的に調べ、信頼性の高いデータを出すには、心理学実験の手法は欠かすことができない。これらの経験は、実証的なデータに基づいた人間の多面的な理解につながり、卒業後の社会生活の重要な資質となる。この授業では、心理学実験で得た心理学実験に関する基礎的知識・技能を元にさらに具体的な実験計画、実験実施、データ解析を行い、実験レポートの提出を求める。最終的には、自ら実験を計画し、その実験結果を発表する会を設ける。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

演習科目なので2回以上の欠席は原則として認めない。
心理学実験を受講しておくこと。

関連資格

公認心理師
認定心理士

テキスト

板口典弘・山本健太郎（2017）心理学レポート・論文の書き方 演習課題から卒論まで 講談社 \ 2090

参考図書・教材等

・中野博幸・田中敏（2012）フリーソフトjs-STARでかんたん統計データ分析 技術評論社
・USBメモリーを常に持参すること。
授業前にeラーニングから資料をダウンロードして印刷しておくこと。

授業中の撮影

その理由がない。

学習相談・助言体制

質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP2)	心理学実験の方法論と統計学の理論に基づき的確に実験を計画し、実験手技を修得した上で実施し考察する技能を修得する。
-------	--

思考・判断・表現

(DP3)	心理学実験レポート作成を通じて科学的思考やその表現方法を修得する。 多様な班員との協働による主体的な研究とその発表を通じて科学の表現法を修得する。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

自ら実験を計画して、信頼できるデータを導き出し、結果を適切に処理して、的確なレポートを作成し、的確に発表する。これにより、科学研究における原則と科学的思考を修得する。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

自ら実験を計画して、信頼できるデータを導き出し、結果を適切に処理して、的確なレポートを作成し、的確に発表する。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

履修目標で想定される到達点の9割以上の成果が認められる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

履修目標で想定される到達点の8割以上9割未満の成果が認められる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

履修目標で想定される到達点の7割以上8割未満の成果が認められる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

履修目標で想定される到達点の6割以上7割未満の成果が認められる。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

履修目標で想定される到達点の6割未満の成果が認められる。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業外レポート・宿題	80	知識・技能(DP2)：40，思考・判断・表現(DP3)：40
発表	20	知識・技能(DP2)：10，思考・判断・表現(DP3)：10

・授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容		
アクティブラーニング		
回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	心理学実験実施とレポート執筆に関する説明 実験室の案内
	授業方法／進め方	手引書の説明と、実験概要の説明。
	事前・事後学習	これから実施していく実験の流れと概要を理解する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
2	授業内容（担当教員）	実験1：ストループ効果（レポート1）
	授業方法／進め方	手引書に記述した内容に従って説明する。受講者は実験を実施して、データを解析してレポートを作成する。またレポートの作成法について説明する。受講者はピアレビューを通してレポート作成を再検討する。
	事前・事後学習	実験を完了し、統計検定を行い、レポートを作成する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
3	授業内容（担当教員）	前回の続き。
	授業方法／進め方	前回と同じ。
	事前・事後学習	前回と同じ。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
4	授業内容（担当教員）	前回の続き。
	授業方法／進め方	前回と同じ。
	事前・事後学習	前回と同じ。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
5	授業内容（担当教員）	前回の続き。
	授業方法／進め方	前回と同じ。
	事前・事後学習	前回と同じ。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク

6	授業内容（担当教員）	実験2：二重課題による大脳半球左右差の検討（レポート2）
	授業方法／進め方	手引書に記述した内容に従って説明する。受講者は実験を実施して、データを解析してレポートを作成する。
	事前・事後学習	実験を完了し、統計検定を行い、レポートを作成する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
7	授業内容（担当教員）	前回の続き。
	授業方法／進め方	前回と同じ。
	事前・事後学習	前回と同じ。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
8	授業内容（担当教員）	実験3：仮現運動（レポート3）
	授業方法／進め方	手引書に記述した内容に従って説明する。受講者は実験を実施して、データを解析してレポートを作成する。
	事前・事後学習	実験を完了し、統計検定を行い、レポートを作成する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
9	授業内容（担当教員）	前回の続き。
	授業方法／進め方	前回と同じ。
	事前・事後学習	前回と同じ。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
10	授業内容（担当教員）	実験4：血液型と性格検査の関連（レポート4）
	授業方法／進め方	手引書に記述した内容に従って説明する。受講者は実験を実施して、データを解析してレポートを作成する。
	事前・事後学習	実験を完了し、統計検定を行い、レポートを作成する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
11	授業内容（担当教員）	自由研究（1）実験内容の検討
	授業方法／進め方	教員の支援を受け、実験内容を自由に検討する。
	事前・事後学習	実験内容について、先行研究を調べ、研究として期間内に実行可能かを話し合う。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
12	授業内容（担当教員）	自由研究（2）実験の計画
	授業方法／進め方	教員の支援を受け、実験計画書を作成する。
	事前・事後学習	実験実施に向けて役割分担を行う
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
13	授業内容（担当教員）	自由研究（3）実験の実施
	授業方法／進め方	教員の支援を受け、実験を実施する。
	事前・事後学習	実験を実施する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
14	授業内容（担当教員）	自由研究（4）発表の準備
	授業方法／進め方	教員の支援を受け、次週の発表のレジюмеとパワーポイント資料を作成する
	事前・事後学習	レジюме、パワーポイント資料作成、発表担当など役割分担して、発表の準備を行う
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク

15	授業内容（担当教員）	自由研究（5）発表会
	授業方法／進め方	自分たちの研究成果を口頭発表し、質問者と議論を行い、他のグループの発表の評価を行う。
	事前・事後学習	他グループからの評価を参考にして自分たちの発表を顧みる。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク

科目名	社会調査実習		
科目名（英語）	Practical Training in Social Research		
担当教員	佐野 麻由子、堤 圭史郎、美谷 薫		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）、社会調査士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

社会調査実習 ・ を通して、調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を、体験的・学生主体的な形で学習する。社会調査実習 では、社会調査の企画（仮説の立案、対象者選出など）、サンプリング、プリテスト、実査までの、社会調査に必須の過程を実際のプロジェクトを通して体験し、社会調査士として必要な実践的知識やスキルを修得する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

1年次までに「社会調査法」「データ分析の基礎」を履修していること。

2年次に「社会調査の設計」「社会統計学I・II」を必ず履修すること。

テキスト

調査テーマに関連したテキストを、4月の説明会において担当者から説明する。

参考図書・教材等

Takuo Utagawa ed 2013 『Social Research and Evaluation of Poverty Reduction Project』ハーベスト社。調査テーマに関連した参考図書・教材等を、随時担当者から説明する。

実務経験を生かした授業

行政・NPO等からの委託調査及び学術調査研究の経験がある教員が、実際に学生とともに社会調査プロジェクトを企画運営し、報告書作成に至るまでの社会調査の一連の過程について実践的に指導する。

授業中の撮影

無

学習相談・助言体制

適宜、個別の質問・相談等にも応じる。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。
-------	------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	・社会的課題を公共性の観点から整理できる。 ・社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができる。 ・公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

(1) 社会調査の設計や実施に関わる専門知識を身につけ、社会的課題を公共性の観点から整理できること、(2) 自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができること、(3) 社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できること、(4) 公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができることを目標とする。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

社会調査の企画、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成の各過程をこなすことができる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C: 60～69 到達目標を達成している。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
その他	100	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)
備考	調査設計・調査内容: 30%、分析水準・報告書の内容: 40%、出席・参加度: 30%。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーション
	授業方法/進め方	テーマにより調査グループを編成 左の内容について概略を講義する
	事前・事後学習	・調査原案の作成 ・調査企画
2	授業内容(担当教員)	社会調査の意義、方法、スケジュールリング、実施上の留意事項の確認
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
3	授業内容(担当教員)	調査企画(テーマの設定、調査対象/フィールドの検討)
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
	事前・事後学習	・調査企画・仮説の作成
4	授業内容(担当教員)	調査テーマに関する文献講読
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
5	授業内容(担当教員)	調査対象に関する文献やデータの収集
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
6	授業内容(担当教員)	調査テーマに関する既存研究成果の整理
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
7	授業内容(担当教員)	仮説の検討(仮説を構成する変数の検討)
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
8	授業内容(担当教員)	仮説導出
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う

9	授業内容（担当教員）	調査票作成（質問項目・質問文作成）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
10	授業内容（担当教員）	調査票作成（調査票の全体構成を検討）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	調査票作成
11	授業内容（担当教員）	調査票作成（ワーディングをチェック）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
12	授業内容（担当教員）	サンプリングの種類と方法の確認
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	対象者選定
13	授業内容（担当教員）	調査対象 / フィールドの現地調査
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
14	授業内容（担当教員）	調査対象 / フィールドの関係者からのヒアリング
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
15	授業内容（担当教員）	サンプリング実施（サンプリング作業とノウハウ）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	サンプリング、実査
16	授業内容（担当教員）	サンプリング実施
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
17	授業内容（担当教員）	調査対象者の名簿入力
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
18	授業内容（担当教員）	調査実施プロセスの確認、プリテスト
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
19	授業内容（担当教員）	プリテストの実施
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
20	授業内容（担当教員）	プリテストの結果についての討論
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
21	授業内容（担当教員）	調査票の再検討
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
22	授業内容（担当教員）	調査票の確定、実査マニュアルの作成
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
23	授業内容（担当教員）	実査の準備（郵送用封筒等の準備）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
24	授業内容（担当教員）	実査の準備（調査票の封入と郵送）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う

25	授業内容（担当教員）	実査（問い合わせ対応）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
26	授業内容（担当教員）	実査（回収調査票のナンバリングとチェック）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
27	授業内容（担当教員）	実査（回収調査票のナンバリングとチェック）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
28	授業内容（担当教員）	エディティング準備
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
29	授業内容（担当教員）	入力シートの作成
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
30	授業内容（担当教員）	実査までのプロセスに対するレポート作成
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
備考	各回の内容は調査を行うという授業の性格上、進行具合によって予定を変更する場合がある。	

科目名	社会調査実習		
科目名（英語）	Practical Training in Social Research		
担当教員	佐野 麻由子、堤 圭史郎、美谷 薫		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）、社会調査士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

社会調査実習を通して、調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を、体験的・学生主体的な形で学習する。社会調査実習では、社会調査実習で得られたデータのエディティング、コーディング、入力作業、データセットの作成、集計・分析、報告書の作成という社会調査に必須の過程を体験し、社会調査士として必要な実践的知識やスキルを修得する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

- 1年次までに「社会調査法」「データ分析の基礎」を履修していること。
- 2年次に「社会調査の設計」「社会統計学I・II」を必ず履修すること。
- 社会調査実習Iを履修・単位修得していること。

テキスト

調査テーマに関連したテキストを、4月の説明会において担当者から説明する。

参考図書・教材等

Takuo Utagawa ed 2013『Social Research and Evaluation of Poverty Reduction Project』ハーベスト社。調査テーマに関連した参考図書・教材等を、随時担当者から説明する。

実務経験を生かした授業

行政・NPO等からの委託調査及び学術調査研究の経験がある教員が、実際に学生とともに社会調査プロジェクトを企画運営し、報告書作成に至るまでの社会調査の一連の過程について実践的に指導する。

授業中の撮影

無

学習相談・助言体制

適宜、個別の質問・相談等にも応じる。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。
-------	------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	・社会的課題を公共性の観点から整理できる。 ・社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができる。 ・公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

(1) 社会調査の設計や実施に関わる専門知識を身につけ、社会的課題を公共性の観点から整理できること、(2) 社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できること、(3) 社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できること、(4) 公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができることを目標とする。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

社会調査の企画、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成の各過程をこなすことができる。

成績評価の基準

S: 90 ~ 100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80 ~ 89 履修目標を達成している。

B: 70 ~ 79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C: 60 ~ 69 到達目標を達成している。

不可: ~ 59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
その他	100	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)
備考	調査設計・調査内容: 30%、分析水準・報告書の内容: 40%、出席・参加度: 30%。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

実習

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	調査プロセス、分析方法、報告書執筆についての確認
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
2	授業内容(担当教員)	データエディティング
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
	事前・事後学習	データセット作成
3	授業内容(担当教員)	回収調査票の最終チェック
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
4	授業内容(担当教員)	コーディング表の作成、入力作業のノウハウ
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
5	授業内容(担当教員)	コーディング
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
6	授業内容(担当教員)	データ入力作業
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
7	授業内容(担当教員)	データ入力作業
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
8	授業内容(担当教員)	データクリーニング
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う

9	授業内容 (担当教員)	データセット確認
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
10	授業内容 (担当教員)	データの読み取りと集計・分析ソフトの使い方に関するディスカッション
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
11	授業内容 (担当教員)	データ集計 (単純集計)
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
12	授業内容 (担当教員)	データ分析 (単純集計結果の分析)
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
	事前・事後学習	各種の分析手法によりデータ分析を行う
13	授業内容 (担当教員)	データ集計 (属性と他項目のクロス集計)
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
14	授業内容 (担当教員)	データ分析 (属性と他項目のクロス集計結果の分析)
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
15	授業内容 (担当教員)	データ集計 (主要項目間のクロス集計)
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
16	授業内容 (担当教員)	データ分析 (主要項目間のクロス集計の分析)
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
17	授業内容 (担当教員)	データ分析から得られた知見のまとめ
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
18	授業内容 (担当教員)	中間発表会のプレゼンテーションの準備
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
19	授業内容 (担当教員)	中間発表会
	授業方法 / 進め方	データ分析結果の中間発表会。分析過程や結果を検討し、さらに分析を進める。
20	授業内容 (担当教員)	中間発表会
	授業方法 / 進め方	データ分析結果の中間発表会。分析過程や結果を検討し、さらに分析を進める。
21	授業内容 (担当教員)	報告書の構成案作成、執筆分担決定
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・報告書を執筆する ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
	事前・事後学習	報告書の構想を検討
22	授業内容 (担当教員)	報告書原稿執筆 (調査実施概要)
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・報告書を執筆する ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
	事前・事後学習	報告書執筆

23	授業内容（担当教員）	報告書原稿執筆（単純集計の図表作成と分析）
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
24	授業内容（担当教員）	報告書原稿執筆（属性と他項目のクロス集計の図表作成と分析）
	授業方法 / 進め方	報告会を行う。今回の調査で得られた反省点を討議する。
25	授業内容（担当教員）	報告書原稿執筆（主要項目間のクロス集計の図表作成と分析）
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
26	授業内容（担当教員）	仮説の検証と考察
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
27	授業内容（担当教員）	報告書原稿執筆（仮説検証結果の説明）
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
28	授業内容（担当教員）	報告書原稿に関する検討会
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
29	授業内容（担当教員）	検討会での意見を踏まえて報告書原稿修正
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
30	授業内容（担当教員）	報告書原稿完成、公開（プレゼンテーション）
	事前・事後学習	調査の全過程を点検
備考	各回の内容は調査を行うという授業の性格上、進行具合によって予定を変更する場合がある。	

科目名	看護研究(2年生)		
科目名(英語)	Nursing Research		
担当教員	石田 智恵美、福田 和美、四戸 智昭、山田 美幸、小出 昭太郎、杉野 浩幸、		
科目区分	看護学部 看護学科、データサイエンス・プログラム、看護師国家試験受験資格、養護教諭一種免許		
標準履修年次	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

看護師が科学的な実践を行っていくうえで、その基盤となる知識を形成する看護研究は非常に重要である。本科目では、将来学生が、実践者として研究から見出された知識を正しく理解し臨床で活用できる能力を身に付けることをねらいとする。また、看護の事象を科学的に捉え分析するための基礎知識として、看護研究における様々な研究方法についても学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
なし

テキスト

配布テキスト

その他、適宜必要な資料を配布します。

参考図書・教材等

適宜配布します。

学習相談・助言体制

e-mailで各教員にアポイントを取ってください。

石田：emishida@fukuoka-pu.ac.jp 福田：fukuda-k@fukuoka-pu.ac.jp

四戸：shinohe@fukuoka-pu.ac.jp 山田：yamadami@fukuoka-pu.ac.jp

小出：koide@fukuoka-pu.ac.jp 杉野：hsugino@fukuoka-pu.ac.jp

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	看護研究の意義と基本的な研究方法について理解できる。
-------	----------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	研究論文の意図を解釈するとともに批判的に読解することができる。
-------	---------------------------------

主体性・多様性・協働性

(DP4)	グループワークを通して自己の考えを他者に説明することができる。
-------	---------------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

研究の目的を理解し、文献を論理的に読み解くことを通して論理的な思考につなげる。それぞれの研究方法に関する知識を獲得し、自己の研究活動の基礎とする。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

それぞれの研究方法に関する知識を獲得する。文献を読むために必要な視点について理解する。

成績評価の基準

S: 90 ~ 100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
-------------	---------------------------------------

文献を論理的に読み解くことができ、その文献の研究成果と課題について述べるができる。また、自己の研究テーマに応じた研究方法について理解を深め、具体的な計画を立てるために必要な知識を獲得できる。履修目標以上の学修成果が認められる。

A: 80 ~ 89	履修目標を達成している。
------------	--------------

研究目的に沿って文献を読み解くことができる。また、研究方法の違いを理解し、研究テーマに応じた方法を選択することができる。

B: 70 ~ 79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
------------	-------------------------------

文献を読み、自己の考えを述べることができる。また、研究方法の違いを理解することができる。

C:60～69 到達目標を達成している。

文献を読み、自己の考えを述べることができる。また、様々な研究方法を知る。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

文献を読むが自己の考えを述べるできない。研究方法に関する知識を獲得できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業外レポート・宿題	60	知識・技能(DP2) : 60
グループワーク	40	知識・技能(DP2) : 10, 思考・判断・表現(DP3) : 10, 主体性・多様性・協働性(DP4) : 20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

文章を論理的に読む

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	研究とは (石田智恵美)
	事前・事後学習	事前学習: 研究の目的および意義について調べておく。(DP2) 事後学習: 研究の目的を意識しながら2回目の講義資料を読む。(DP2) * 事前学習90分 事後学習90分
2	授業内容(担当教員)	研究課題の選定 ・リサーチクエストの立て方 ・文献検索 (山田美幸)
	授業方法/進め方	1. 講義 ・リサーチクエストとは何か、研究課題の見つけ方、研究課題の絞り方、研究の概念枠組みについて説明を行う。 ・文献の種類と検索の意義と方法について説明を行う。 2. グループワーク ・各自で気になるテーマを持ち寄り、リサーチクエストを見直す体験をする。
	事前・事後学習	事前学習: 看護(健康)に関係する「気になるテーマ」を疑問形で記述する。(DP2) 事後学習: グループワークで見直したリサーチクエストをより具体的なものに絞り込み、仮のリサーチクエストを立てる。 (DP2, DP4) * 事前学習90分 事後学習90分
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク

3	授業内容（担当教員）	研究における倫理的配慮 ・研究倫理に関わる指針と考え方 ・研究の各段階における倫理的配慮 （山田美幸）
	授業方法 / 進め方	講義 ・研究における倫理の必要性、研究の倫理原則、研究対象者の権利について説明を行う。 ・研究立案の段階、研究実施・公表の段階に必要な倫理的配慮と依頼書の書き方、同意の取り方について説明を行う。
	事前・事後学習	事前学習：既習の倫理の4つの原則、医療専門職の義務の基盤となる2つの原則、研究倫理について復習しておく。（DP2） 事後学習：研究の各段階における倫理的配慮、研究の対象者の権利を守るための方法について復習しておく。（DP2） * 事前学習90分 事後学習90分
4	授業内容（担当教員）	統計的研究-1、統計的研究概論 （小出昭太郎）
	授業方法 / 進め方	講義 配布資料を用いて、統計的研究の目的、調査の流れ、統計ソフトの使い方について講義する。
	事前・事後学習	事前学習：統計学についてこれまでに各自が学習した内容を復習すること。学習したのが高校までであれば、それを復習すること。高校での学習の復習については後日連絡します。 事後学習：配布資料を見直すなどして復習を行い、理解を確実なものにすること。特に2変数間の関連について復習すること。 * 事前学習180分 事後学習120分
5	授業内容（担当教員）	統計的研究-2、統計的分析方法 （小出昭太郎）
	授業方法 / 進め方	講義 配布資料を用いて、統計的分析方法の選び方の概要、基本的な統計的分析方法について講義する。
	事前・事後学習	事後学習：配布資料を見直すなどして復習を行い、理解を確実なものにすること。特に相関係数とクロス集計について復習すること。 * 事後学習120分
6	授業内容（担当教員）	統計的研究-3、統計的推測、統計的実験 （小出昭太郎）
	授業方法 / 進め方	講義 配布資料を用いて、統計的推測、統計的実験について講義する。
	事前・事後学習	事後学習：配布資料を見直すなどして復習を行い、理解を確実なものにすること。特に検定の考え方について復習すること。 * 事後学習120分
7	授業内容（担当教員）	質的研究とは ・質的研究デザイン ・質的研究の特徴 ・質的研究におけるデータ収集と分析 （福田和美）
	授業方法 / 進め方	講義 ・質的研究の定義、特徴、留意点について説明を行う。 ・質的研究のデータ収集方法について説明する。 ・質的研究の分析方法について説明し、事例をもとに分析を行う。
	事前・事後学習	事前学習：看護研究および文献検討についての復習（DP2, 3） 事後学習：様々な質的研究手法の特徴についての復習（DP2） * 事前学習134分 事後学習90分

8	授業内容（担当教員）	質的研究とは ・質的研究の質の確保 ・質的研究の代表的なデザイン （福田和美）
	授業方法 / 進め方	講義 ・質的研究の質の確保について説明を行う。 ・質的研究の手法（グランデットセオリー、現象学、ナラティブ研究、事例研究など）について説明を行う。
	事前・事後学習	事前学習：質的研究を行った文献を精読する（DP3） 事後学習：課題論文のクリティークをする（DP3） * 事前学習90分 事後学習90分
9	授業内容（担当教員）	測定尺度-1、測定尺度の概要 （四戸智昭）
	授業方法 / 進め方	講義 測定尺度に関する概要を解説。特に、測定尺度に求められる、構成概念の明確さ、信頼性、妥当性について解説を行う。
	事前・事後学習	事後学習：配布資料を見直すなどして復習を行い、理解を確実なものにすること。 * 事後学習120分
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
10	授業内容（担当教員）	測定尺度-2、測定尺度開発における統計的分析 （四戸智昭）
	授業方法 / 進め方	講義 測定尺度開発における統計的分析について解説を行う。
	事前・事後学習	事後学習：配布資料を見直すなどして復習を行い、理解を確実なものにすること。 * 事後学習120分
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
11	授業内容（担当教員）	実験研究-1、実験テーマの設定、実験計画の設定、実験における注意点について （杉野浩幸）
	授業方法 / 進め方	講義 テキストを配布し、実験研究と他の研究方法との相違、テーマの設定、実験条件の統制、コントロール実験の意義、予備実験の必要性について解説を行う。
	事前・事後学習	事前学習：EBN（根拠に基づく看護）について調べておくこと。（DP2） 事後学習：テキストを再度読み返し不明点を再確認し、コントロール実験および予備実験の必要性について復習しておくこと。（DP2） * 事前学習90分 事後学習90分

12	授業内容（担当教員）	実験研究-2、卒業研究レベルの実験研究の実例について （杉野浩幸）
	授業方法 / 進め方	講義 テキストを配布し、卒業論文レベルでの実験研究の実例をもとに、 実験方法、実験に特化した困難さと、これらの解決方法について解説を行う。
	事前・事後学習	事前学習：図書館データベースを利用して実験研究を扱った文献を検索し、公開されている文献の概要を確認しておく。（DP2） 事後学習：テキストを再度読み返し専門看護学ゼミおよび、卒業研究におけるテーマ、もしくは関連するキーワードをピックアップする。（DP2） * 事前学習90分 事後学習90分
13	授業内容（担当教員）	研究計画書の作成 ・研究計画書を作成する目的と意義 ・研究計画書の構成と項目の要点 （山田美幸）
	授業方法 / 進め方	講義 ・研究計画書を作成する目的、研究計画書の主要項目と記載内容について説明を行う。 ・研究計画書を生かした研究成果のまとめについて説明を行う。
	事前・事後学習	事前学習：提示した研究論文を読み、構成や概要を把握しておく。（DP2） 事後学習：研究計画書の構成と項目の要点について復習をしておく。（DP2） * 事前学習90分 事後学習90分
14	授業内容（担当教員）	論理的思考 （石田智恵美）
	授業方法 / 進め方	文章を論理的に読む 物語を論理的に読む 文章を論理的に書く 書くことのメカニズムを体験する。 資料を基に、個人ワークで進める
	事前・事後学習	事前学習：自己の文章の読み方の傾向について整理しておく。（DP3） 事後学習：論理的に読む・書くことに関する自己の課題を考察する。（DP3） * 事前学習90分 事後学習90分
15	授業内容（担当教員）	論理的思考 （石田智恵美）
	授業方法 / 進め方	文章を論理的に書く リレー作文を通して、文章のつながりと整合性について体験的に学習する。 個人ワークおよびグループワークで進める。
	事前・事後学習	事前学習：論理的に読む・書くことに関する自己の課題を整理しておく。（DP4） 事後学習：文章の論理的なつながりについて整理し、自己の課題を考察する。（DP4） * 事前学習90分 事後学習90分

備考

課題レポート：教員より課題提出の指示があった場合はそれに従うこと。また無断欠席の場合は減点します。

科目名	公衆衛生看護アセスメント論		
科目名(英語)	Assessment in Public Health Nursing		
担当教員	尾形 由起子、山下 清香、小野 順子、中村 美穂子		
科目区分	看護学部 看護学科、データサイエンス・プログラム、保健師国家試験受験資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

公衆衛生看護活動の活動展開の基盤となる地域のアセスメント方法を学ぶ。
コミュニティアズパートナーモデルを用いてコミュニティを把握するために必要な情報を理解し、人々の健康課題を把握するためのアセスメント方法を学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

看護学部専門基礎科目及び専門科目の中の必須科目のうち3年前期までに開講された科目の単位を修得していること。

関連資格

保健師国家試験受験資格

テキスト

尾形由起子他編「地域包括ケアを進める公衆衛生看護学 演習・実習」クオリティケア 2019、3080円
佐伯和子編著「地域看護アセスメントガイド - アセスメント・計画・評価のすすめかた 第2版」医歯薬出版株式会社、2018、2,860円

参考図書・教材等

エリザベス T. アンダーソン編集・金川克子他監訳『コミュニティアズパートナー - 地域看護の理論と実際 -』医学書院、2007
佐伯和子編他『第2巻 公衆衛生看護の方法と技術 第2版』医歯薬出版株式会社、2022
厚生労働統計協会著『国民衛生の動向2021/2022』厚生労働統計協会、2021
井伊久美子他編『新版 保健師業務要覧 第4版』日本看護協会出版会、2021
井伊久美子他『住民の主体的組織活動の展開 地域保健活動のめざすもの』医学書院、1996
適宜提示する。

実務経験を生かした授業

保健師として実務経験を有する教員が、地域を対象とした公衆衛生看護アセスメントについて教授する。

授業中の撮影

有

学習相談・助言体制

質問はメールで受け付け、授業またはメールで回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方を理解する。
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	コミュニティに関する情報を収集して特長を捉え、人々の生活のあり方や社会環境を背景とした顕在的、潜在的な健康課題について考察することができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

- ・公衆衛生看護活動の活動展開の基盤となる地域のアセスメント方法を理解する。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- ・公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方が理解できる。
- ・インタビューにより個別の情報を収集し、多角的に分析して健康問題を把握することができる。
- ・複数の事例の情報を集約して分析し、在宅介護の実態、人々の生活のありようや社会環境を捉え、それらが地域の健康課題と関連していることを理解することができる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方が理解できる。
インタビューにより個別の情報を収集し、多角的に分析して健康問題を把握し、地域の健康課題と関連付けて理解できる。
複数の事例の情報を集約して分析し、在宅介護の特長を捉え、人々の生活のありようや社会環境と関連付けて顕在的、潜在的な健康課題を把握することができる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方が理解できる。
インタビューにより個別の情報を収集し、多角的に分析して健康問題を把握し、地域の健康課題との関連を考えることができる。
複数の事例の情報を集約して分析し、在宅介護の特長を捉え、人々の生活のありようや社会環境と関連付けて顕在的、潜在的な健康課題を検討することができる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方が理解できる。
インタビューにより個別の情報を収集し、多角的に分析して健康問題を把握し、地域の健康課題と関連付けて考える必要性が理解できる。
複数の事例の情報を集約して分析し、在宅介護の特長を捉え、人々の生活のありようや社会環境と関連付けて健康課題を検討することができる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方が理解できる。
インタビューにより個別の情報を収集し、多角的に分析して健康問題を把握することができる。
複数の事例の情報を集約して分析し、在宅介護の実態、人々の生活のありようや社会環境を捉え、それらが地域の健康課題と関連していることを理解することができる。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業外レポート・宿題	60	知識・技能(DP1)：30，思考・判断・表現(DP3)：30
発表	40	知識・技能(DP1)：20，思考・判断・表現(DP3)：20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

体験学習・グループディスカッション

回	授業計画
---	------

1	授業内容（担当教員）	公衆衛生看護活動における健康課題の把握とアセスメント（尾形）
	授業方法 / 進め方	1．講義 公衆衛生看護の目的とアセスメントの必要性について理解する。 1) 病気のトラジャクトリー（実習事例をもとにディスカッション） 2) 高齢化の進展及び多死社会に向けた課題解決方法 3) 在宅療養の課題 4) 地域を看護するとは
	事前・事後学習	事前学習 ・テキスト の該当部分（p16～36）を読む。 事後学習 ・テキスト の該当部分（第2章）を読む。
2	授業内容（担当教員）	地域の生活者のアセスメント（小野）
	授業方法 / 進め方	1．講義 ・生活者のアセスメントに必要な情報とその方法を理解する。 【からだの状況・生活（食事・身体活動・休養）・取り巻く環境】
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
3	授業内容（担当教員）	個別事例から地域の健康課題を把握する方法を理解する（山下）
	授業方法 / 進め方	1．オリエンテーション 演習の進め方 2．講義 ・個別事例から地域の健康課題を把握する方法 ・介護体験の理解（訪問インタビュー）
	事前・事後学習	事前学習 ・介護負担に関する配布文献を読む。 事後学習 ・テキスト の該当部分（第1章）を読む。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
4	授業内容（担当教員）	在宅介護者の介護負担の理解 （尾形・山下・小野・（中村）） 1) 文献学習 2) 介護負担と関連要因
	授業方法 / 進め方	1．グループワーク ・文献要約を紹介し、介護の実態と介護負担について討議する。 ・介護者及び被介護者の特徴、介護負担の軽減・増強要因等をグルーピングし、関連図を作成する。 ・グループ毎に発表する。
	事前・事後学習	事前学習 ・介護負担に関する配布文献および自分で検索した文献3本を読み要約を作成する。 事後学習 ・テキストの関連部分を読む。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

5	授業内容（担当教員）	在宅介護者の介護負担の理解 （尾形・山下・小野・（中村）） 1)文献学習 2)介護負担と関連要因
	授業方法 / 進め方	1. グループワーク ・文献要約を紹介し、介護の実態と介護負担について討議する。 ・介護者及び被介護者の特徴、介護負担の軽減・増強要因等をグルーピングし、関連図を作成する。 ・グループ毎に発表する。
	事前・事後学習	事前学習 ・介護負担に関する配布文献および自分で検索した文献3本を読み要約を作成する。 事後学習 ・テキストの関連部分を読む。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
6・7	授業内容（担当教員）	訪問インタビューの進め方 （尾形・山下・小野・（中村）） 1)個別からみた地域の健康課題把握の進め方 2)福智町の概要 3)訪問対象者の概要
	授業方法 / 進め方	1. 講義 ・個別事例から地域の健康課題を把握する方法の考え方 ・介護者インタビューの実施手順 ・訪問対象者が生活する地域概要 2. 演習 ・訪問対象者の概要を理解し、訪問計画を立案する。 ・訪問カバン貸出
	事前・事後学習	事前学習 ・テキストの該当部分（第1章・第2章）を読んでくる。 事後学習 ・家庭訪問対象の介護者及び被介護者の基礎疾患の概要と看護について学習する。 ・訪問計画を立案する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
8	授業内容（担当教員）	訪問インタビュー準備 （尾形・山下・小野・（中村）） 1)訪問インタビュー計画作成 2)ロールプレイ・計画修正
	授業方法 / 進め方	1. 演習 ・訪問計画を立案し、留意事項、聞き取りポイント等を検討する。 ・計画を基にロールプレイを行い、指導を受けて計画を修正する。 ・訪問先までの経路を確認する。
	事前・事後学習	事前学習 ・訪問計画の立案 事後学習 ・訪問計画の修正 ・訪問経路の確認 ・インタビュー準備
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク

9	授業内容（担当教員）	訪問インタビュー実施 （尾形・山下・小野・（中村）） 1)家庭訪問予定の確認 2)訪問インタビュー実施 3)事後報告・記録整理
	授業方法 / 進め方	1．学外演習 1)訪問準備：前日に訪問対象者に電話し、時間場所等を確認する。 2)訪問実施：介護経験者の自宅を訪問し、介護経験を聞き取る。 3)事後報告・記録：訪問終了後、訪問状況を報告し、記録を整理する。
	事前・事後学習	事前学習 ・家庭訪問の事前学習 ・訪問計画書の作成 ・ロールプレイ 事後学習 ・家庭訪問記録作成
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
10	授業内容（担当教員）	訪問インタビュー結果の情報整理 （尾形・山下・小野・（中村）） 1)介護者・被介護者の状況 2)介護経過 3)介護負担の現状について
	授業方法 / 進め方	1．演習 ・記録を整理して報告し、在宅介護の実態を確認する。 ・エコマップ、住宅見取り図、介護者の生活、生活史等により介護者の状況を可視化する。 ・介護経過から、被介護者及び介護者の状況、気持ち、支援状況を把握し、介護者の体験を理解し、介護負担について考察する。
	事前・事後学習	事前学習 ・訪問記録の整理 事後学習 ・家庭訪問事例発表の準備 ・記録整理 ・在宅介護の実態についての考察 ・介護負担と関連要因についての考察
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デバート / グループワーク
11	授業内容（担当教員）	在宅介護者の介護体験の理解 （尾形・山下・小野・（中村）） 1)訪問インタビューで把握した在宅介護の実態 2)在宅介護の実態、介護負担と関連要因について
	授業方法 / 進め方	1．演習 1)個別訪問記録をもと、聞き取った介護経験を発表し共有する。 ・介護者：概要、健康状態、1日の生活、家族状況、生活環境 ・被介護者：概要、健康状態、介護・サービス利用状況、介護経過 ・介護前後の変化、介護や周囲の支援等に対する思い 2)在宅介護の実態、介護負担と関連要因について討議する。
	事前・事後学習	事前学習 ・訪問看護記録の整理と発表準備 事後学習 ・家庭訪問一覧及び要約の作成
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デバート / グループワーク

12	授業内容（担当教員）	在宅介護者の介護体験の理解 （尾形・山下・小野・（中村）） 1)訪問インタビューで把握した在宅介護の実態 2)在宅介護の実態、介護負担と関連要因について
	授業方法 / 進め方	1. 演習 1)個別訪問記録をもと、聞き取った介護経験を発表し共有する。 ・介護者：概要、健康状態、1日の生活、家族状況、生活環境 ・被介護者：概要、健康状態、介護・サービス利用状況、介護経過 ・介護前後の変化、介護や周囲の支援等に対する思い 2)在宅介護の実態、介護負担と関連要因について討議する。
	事前・事後学習	事前学習 ・訪問看護記録の整理と発表準備 事後学習 ・家庭訪問一覧及び要約の作成
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
13	授業内容（担当教員）	複数事例から在宅介護の実態を把握する（尾形・山下・小野・（中村）） 1)地域の在宅介護の実態把握
	授業方法 / 進め方	1. グループワーク ・グループに分かれ、訪問事例の情報を項目別に記入し、要約を作成して概要を把握する。 ・被介護者の状況及び介護状況 ・介護者家族の状況 ・介護者の健康状態及び生活状況 ・介護に対する思い等
	事前・事後学習	事後学習 ・様式に従って各事例の情報を記入して要約し、概要を把握する。 ・発表の準備 個別訪問記録と複数事例の概要から、以下の3点を介護者の立場で考える。 介護者の生活からわかること 介護経過からわかること 介護者の健康状態からわかること
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

14	授業内容（担当教員）	複数事例から在宅介護の実態を把握する （尾形・山下・小野・（中村）） 1)介護者の1日の生活状況と課題 2)介護経過と課題 3)介護者の健康課題 4)まとめ
	授業方法 / 進め方	1．発表 グループ討議の結果を発表する。 介護者の生活 介護経過 介護者の健康状態の変化 2．グループワーク ・グループで介護者にはどのような負担を抱えているのか、どのような健康課題があるのか検討し、発表する。
	事前・事後学習	事前準備 ・発表準備 事後学習 ・レポート作成 「介護経過と介護者の健康課題」 介護者の健康問題、健康問題が生じる生活状況、取り巻く環境との関連を検討し考察する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
15	授業内容（担当教員）	複数事例から在宅介護の実態を把握する （尾形・山下・小野・（中村）） 1)介護者の1日の生活状況と課題 2)介護経過と課題 3)介護者の健康課題 4)まとめ
	授業方法 / 進め方	1．発表 グループ討議の結果を発表する。 介護者の生活 介護経過 介護者の健康状態の変化 2．グループワーク ・グループで介護者にはどのような負担を抱えているのか、どのような健康課題があるのか検討し、発表する。
	事前・事後学習	事前準備 ・発表準備 事後学習 ・レポート作成 「介護経過と介護者の健康課題」 介護者の健康問題、健康問題が生じる生活状況、取り巻く環境との関連を検討し考察する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

科目名	公衆衛生看護アセスメント論		
科目名(英語)	Assessment in Public Health Nursing		
担当教員	尾形 由起子、山下 清香、小野 順子		
科目区分	看護学部 看護学科、データサイエンス・プログラム、保健師国家試験受験資格		
標準履修年次	4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

公衆衛生看護活動の展開につながる地域のアセスメント技術を習得するため、実習先の地域の情報を収集しアセスメントを行い、抽出した健康課題をもとに必要な活動を検討する。把握した地域の特徴と健康課題を資料化して意見交換を行い、人々への健康教育のためのプレゼンテーション技術や討議の進め方について学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

公衆衛生看護アセスメント論 を修得していること

関連資格

保健師国家試験受験資格

テキスト

尾形由起子他編「地域包括ケアを進める公衆衛生看護学 演習・実習」クオリティケア 2019、3080円

佐伯和子編著「地域看護アセスメントガイド - アセスメント・計画・評価のすすめかた 第2版」、
医歯薬出版株式会社、2007、2,860円

佐伯和子他編、「公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護の方法と技術(第2版)」、医歯薬出版株式会社、
2022、4,400円

参考図書・教材等

エリザベス T. アンダーソン編集・金川克子他監訳、「コミュニティアズパートナー - 地域看護の理論と実際 - 」、医学書院、2007、4,180円

厚生労働統計協会「国民衛生の動向2021/2022」、厚生労働統計協会
適宜提示

実務経験を生かした授業

保健師として実務経験を有する教員が、地域を対象とした公衆衛生看護アセスメントについて教授する。

授業中の撮影

有

学習相談・助言体制

質問はメールで受け付け、授業またはメールで回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	実習先の統計データやフィールドサーベイ、インタビューを通して情報収集ができる。収集した地域の情報と健康課題を資料化し、発表できる。
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	実習先の地域についての統計データやフィールドサーベイやインタビューなどを通して得た情報をアセスメントし、健康課題を検討した結果について、自分の意見を述べ、他者の意見を傾聴し討議することができる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	統計データのほか、フィールドサーベイやインタビューなど現場に身をおいた体験をして積極的に地域の情報を収集できる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

- ・コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いたコミュニティを把握するために必要な情報の収集方法と、人々の健康課題を把握するためのアセスメント方法を理解する。
- ・公衆衛生看護活動の展開につながる地域のアセスメント技術を習得するため、実習先の地域の情報を収集しアセスメントを行い、抽出した健康課題をもとに必要な活動を検討する。
- ・把握した地域の特徴と健康課題を資料化して意見交換を行い、プレゼンテーション技術や討議の進め方を学ぶ。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- ・訪問インタビューで把握した健康問題を関係者に報告し、課題解決について検討できる。
- ・地域の健康課題を把握するため統計データ、フィールドサーベイ、インタビュー等により情報収集し、資料化して地域の特徴をと地域の健康課題を検討できる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

- ・訪問インタビューで把握した健康問題の構造を把握して関係者に報告し、課題解決の方策を提言できる。
- ・地域の健康課題を把握するため統計データ、フィールドサーベイ、インタビュー等により情報収集し、資料化して分析し、コミュニティアズパートナーモデルを活用して地域の健康課題を抽出することができる。

A:80～89 履修目標を達成している。

- ・訪問インタビューで把握した健康問題の構造を理解して関係者に報告し、課題解決の方策を検討できる。
- ・地域の健康課題を把握するため統計データ、フィールドサーベイ、インタビュー等により情報収集し、資料化して分析し、コミュニティアズパートナーモデルを活用して地域の特性を把握し、地域の健康課題を検討することができる。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

- ・訪問インタビューで把握した健康問題の構造を検討して関係者に報告し、課題解決について検討できる。地域の健康課題を把握するため統計データ、フィールドサーベイ、インタビュー等により情報収集し、資料化して分析し、コミュニティアズパートナーモデルを活用して地域の特性を理解し健康課題を検討することができる。

C:60～69 到達目標を達成している。

- ・訪問インタビューで把握した健康問題を関係者に報告し、課題解決について検討できる。地域の健康課題を把握するため統計データ、フィールドサーベイ、インタビュー等により情報収集し、資料化して地域の特徴をと地域の健康課題を検討できる。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	30	知識・技能(DP1)：10，思考・判断・表現(DP3)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
授業外レポート・宿題	30	知識・技能(DP1)：10，思考・判断・表現(DP3)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
発表	40	知識・技能(DP1)：10，思考・判断・表現(DP3)：15，主体性・多様性・協働性(DP4)：15

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

グループディスカッション/グループワーク、体験学習/調査学習

回	授業計画
---	------

1・2・3	授業内容（担当教員）	地域の高齢者の健康課題の構造化（全員）
	授業方法／進め方	1．ガイダンス 授業概要、内容、方法 2．講義 アセスメント論 の振り返り 3．プレゼンテーション 健康課題の構造化（レポートの概要） 4．グループディスカッション 介護者の健康問題、 健康問題の背景と要因、 必要な支援と活動 地域の健康課題 5．介護者インタビュー報告会の説明
	事前・事後学習	事前学習 レポート内容発表準備 事後学習 ・テキスト の該当部分（第3章）を読む。 ・発表内容検討
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
4・5・6	授業内容（担当教員）	地域の高齢者の健康課題の構造化（全員）
	授業方法／進め方	1．グループディスカッション 介護者へのメッセージの検討と共有 2．グループワーク 報告会での発表内容の検討、媒体作成、シナリオ作成
	事前・事後学習	事前・事後学習 健康課題に関する情報収集 発表内容検討 媒体作成 発表シナリオ作成
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
7・8	授業内容（担当教員）	地域の高齢者の健康課題の共有（全員）
	授業方法／進め方	1．グループワーク 報告会の媒体、シナリオ作成 2．デモンストレーション
	事前・事後学習	事前事後学習 媒体作成 発表シナリオ作成
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
9・10	授業内容（担当教員）	地域の高齢者の健康課題の共有（全員）
	授業方法／進め方	1．グループワーク 報告会準備 2．学外演習 報告会実施 在宅介護の実態、健康課題 健康課題の共有 解決策の検討
	事前・事後学習	事前学習 媒体作成 発表シナリオ作成 発表準備
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習

11	授業内容（担当教員）	地域の高齢者の健康課題のまとめ
	授業方法 / 進め方	1. グループディスカッション 報告会の振り返り、評価 在宅介護の課題共有 地域の実態と課題 報告会の意義
	事前・事後学習	事後学習 レポート「在宅介護における地域の健康課題把握と課題共有について」 在宅介護の実態と地域の健康課題についてまとめ、個別の事例から地域の健康課題を把握し地域の住民や関係者と課題共有するために重要なことをまとめる。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク
12	授業内容（担当教員）	健康課題抽出の為のデータ収集 1 人口動態・静態 1（小野）
	授業方法 / 進め方	1. オリエンテーション 12回目から30回目の授業内容・方法について 2. 演習 人口動態・静態データについて 授業での説明を聞きながらデータ収集、データ整理、入力作業を行い、その方法・技術を学ぶ。 3. 課題説明
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
13	授業内容（担当教員）	健康課題抽出の為のデータ収集 1 人口動態・静態 1（全員）
	授業方法 / 進め方	1. グループワーク 提示された課題のすすめ方についてグループで話し合い、役割分担を行う。 2. 個人学習 データ収集、入力、グラフ作成を行う。
	事前・事後学習	事後学習 ・個別学習の結果を実習グループごとに集約し提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク
14	授業内容（担当教員）	健康課題抽出の為のデータ収集 1 人口動態・静態 1（小野）
	授業方法 / 進め方	1. 発表 人口動態・静態データの読み取り・考察を発表する。 各グループが提出した人口動態データを集約したのについて解説を行う。 2. ディスカッション 実習先ごとのデータを比較し、実習先の人口動態にどのような特徴があるかディスカッションを行う。
	事前・事後学習	事後学習 人口動態データについてデータとその地域の人々の健康状態との関連を考える。 ・データから分かる事実を読み取る。 ・経年変化から分かる傾向を読み取る。 ・他地域との比較によって考えられる地域の特徴を考える。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク

15	授業内容（担当教員）	健康課題抽出の為のデータ収集 2 人口動態・静態 2（中村・小野）
	授業方法 / 進め方	1．演習 人口動態・静態データについて 授業での説明を聞きながらデータ収集、データ整理、データ入力、 グラフ作成を行い、その方法・技術を学ぶ。 2．課題説明
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
16	授業内容（担当教員）	健康課題抽出の為のデータ収集 2 人口動態・静態 2（全員）
	授業方法 / 進め方	1．グループワーク 提示された課題のすすめ方についてグループで話し合い、役割分担 を行う。 2．個人学習 データ収集、データ整理、データ入力、グラフ作成を行う。
	事前・事後学習	事後学習 ・個別学習の結果を実習グループごとに集約し課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク
17	授業内容（担当教員）	健康課題抽出の為のデータ収集 2 人口動態・静態 2（中村・小野）
	授業方法 / 進め方	1．発表 人口静態データの読み取り・考察 各グループが提出した人口静態データについての発表のについて解 説を行う。 2．ディスカッション 実習先ごとのデータを比較し、実習先の人口静態にどのような特徴 があるかディスカッションを行う。
	事前・事後学習	事後学習 人口静態データについてデータとその地域の人々の健康状態との関 連を考える。 ・データから分かる事実を読み取る。 ・経年変化から分かる傾向を読み取る。 ・他地域との比較によって考えられる地域の特徴を考える。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デベート / グループワーク
18	授業内容（担当教員）	健康課題抽出の為のデータ収集 3 健康指標（小野）
	授業方法 / 進め方	1．演習 健康指標データについて 授業での説明を聞きながらデータ収集、データ整理、データ入力、 グラフ作成を行い、その方法・技術を学ぶ。 2．課題説明
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
19	授業内容（担当教員）	健康課題抽出の為のデータ収集 3 健康指標（全員）
	授業方法 / 進め方	1．グループワーク 提示された課題のすすめ方についてグループで話し合い、役割分担 を行う。 2．個人学習 データ収集、入力、グラフ作成を行う。
	事前・事後学習	事後学習 ・個別学習の結果を実習グループごとに集約し課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク

20	授業内容（担当教員）	健康課題抽出の為のデータ収集3健康指標（小野）
	授業方法 / 進め方	1. 発表 健康指標データの読み取り・考察 各グループが提出した人口静態データについての発表のについて解説を行う。 2. ディスカッション 実習先ごとのデータを比較し、実習先の人口静態にどのような特徴があるかディスカッションを行う。
	事前・事後学習	事後学習 健康指標データについてデータとその地域の人々の健康状態との関連を考える。 ・データから分かる事実を読み取る。 ・他地域との比較によって考えられる地域の特徴を考える。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
21	授業内容（担当教員）	健康課題抽出の為のデータ収集4サブシステム（小野・中村）
	授業方法 / 進め方	1. 演習： サブシステムデータについて 授業での説明を聞きながらデータ収集、データ整理、データ入力、グラフ作成を行い、その方法・技術を学ぶ。 2. 課題説明
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
22	授業内容（担当教員）	健康課題抽出の為のデータ収集4サブシステム（全員）
	授業方法 / 進め方	1. グループワーク 提示された課題のすすめ方についてグループで話し合い、役割分担を行う。 2. 個人学習 データ収集、入力、資料作成を行う。
	事前・事後学習	事後学習 ・個別学習の結果を実習グループごとに集約し課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク
23	授業内容（担当教員）	健康課題抽出の為のデータ収集4サブシステム（小野・中村）
	授業方法 / 進め方	1. 発表 サブシステムデータの読み取り・考察各グループが提出したサブシステムの発表を行う。 2. ディスカッション 実習先ごとのデータを比較し、実習先のサブシステムにどのような特徴があるかディスカッションを行う。
	事前・事後学習	事後学習 サブシステムデータについてデータとその地域の人々の健康状態との関連を考える。 ・データから分かる事実を読み取る。 ・経年変化から分かる傾向を読み取る。 ・他地域との比較によって考えられる地域の特徴を考える。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

24	授業内容（担当教員）	地区把握（小野）
	授業方法 / 進め方	1. グループワーク 実習先の全体像が分かる地図を作成する。 2. ディスカッション 地域の特徴について、これまでに集めたデータと合わせてディスカッションを行う。
	事前・事後学習	事後学習 ・ Google map等で実習先の地域の航空写真を確認し、生活状況を把握する。 ・ 地域全体の地形や自然環境、交通網、集落や住宅、産業の様子を確認する。 ・ 実習先の全体像を地図に起こし、得られた情報や特徴などを書き込む。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デバート / グループワーク
25	授業内容（担当教員）	地区踏査計画・地域の特徴の検討（全員）
	授業方法 / 進め方	1. グループワーク これまでに集めたデータ読み取り、比較、推論を統合し、実習先の地域の特徴を検討する。
	事前・事後学習	事後学習 ・ 作成した地図を基に、地区踏査の計画を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デバート / グループワーク
26・27	授業内容（担当教員）	地区踏査（実習担当教員）
	授業方法 / 進め方	1. 学外演習 地区踏査の計画を基に地区踏査を行う。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
28	授業内容（担当教員）	地域の健康課題の検討（実習担当教員）
	授業方法 / 進め方	1. グループワーク これまでに集めたデータ読み取り、比較、推論、地域の特徴から考えられる顕在化している健康課題、潜在的な健康課題を検討する。
	事前・事後学習	事後学習 ・ ライフステージ別（母子、成人、高齢者）の健康課題をディスカッションする。 ・ 発表資料を作成する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デバート / グループワーク
29・30	授業内容（担当教員）	地域の健康課題の発表（全員）
	授業方法 / 進め方	1. 発表 実習先の地域特性とライフステージごとの健康課題を発表する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デバート / グループワーク

科目名	データ処理とデータ解析		
科目名（英語）	Data Processing and Data Analysis		
担当教員	石崎 龍二		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許（公民）、高等学校教諭一種免許（情報）、中学校教諭一種免許（社会）、社会調査士資格、上級情報処理士資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

社会学・心理学・教育学等に必要となる統計解析の基礎とその応用を、コンピュータで統計処理を行う演習を通して学習する。具体的には、基本統計量や度数分布などの記述統計、母平均・母比率・母分散に関する区間推定、検定などの推測統計のデータ処理と分析の方法を学習する。次に変数間の関係の分析方法や回帰分析を学ぶ。以上のデータ処理と解析法を学んだ後、グループ単位でミニ調査を実施し、統計解析を行い、報告書を作成する。こうした演習を通して、卒業論文等の課題研究における主張や仮説を検証するデータの処理と解析方法、統計解析を基礎にした議論の展開を身につける。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
特になし。

関連資格

上級情報処理士・社会調査士

テキスト

独自演習用テキストを配付する。

参考図書・教材等

白砂堤津耶「例題で学ぶ初歩からの統計学」第2版、日本評論社、2015年、大谷信介他「社会調査へのアプローチ」第2版、ミネルヴァ書房、2005年、青木繁伸「Rによる統計解析」オーム社、2009年

学習相談・助言体制

授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	量的・質的データの集計や基礎的な統計解析の方法を理解している。
(DP2)	データの単純集計、度数分布の作成ができる。 量的データの基本統計量を算出できる。 量的データの母平均・母比率・母分散の区間推定・検定、2群の検定ができる。 質的変数間のクロス集計の作成、量的変数間の相関係数の算出ができる。 一元配置分散分析ができる。 回帰分析ができる。

思考・判断・表現

(DP3)	量的・質的データの集計結果や基礎的な統計解析法により解析された結果を適切に解釈できる。 データに応じて集計や基礎的な統計解析の方法を適切に選択できる。 基礎的な集計や統計解析を行った結果を的確にまとめ、報告できる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

量的・質的データの集計や基礎的な統計解析の方法を理解しており、データに応じて集計や基礎的な統計解析を適切に行い、結果を的確にまとめ、報告できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

量的・質的データの集計や基礎的な統計解析の方法を理解しており、データに応じて集計や基礎的な統計解析の方法を適切に選択できる。

成績評価の基準

S: 90 ~ 100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80 ~ 89 履修目標を達成している。

B: 70 ~ 79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C: 60 ~ 69 到達目標を達成している。

不可: ~ 59 到達目標を達成できていない。

成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
確認テスト	10	知識・技能(DP1) : 3, (DP2) : 3, 思考・判断・表現(DP3) : 4
授業外レポート・宿題	40	知識・技能(DP1) : 10, (DP2) : 15, 思考・判断・表現(DP3) : 15
授業態度・授業への参加度	50	知識・技能(DP1) : 15, (DP2) : 20, 思考・判断・表現(DP3) : 15

授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

PCを使った演習・調査学習・グループワークを通して、課題研究における主張や仮説を検証するデータの処理と解析方法、統計解析を基礎にした議論の展開を身につける。

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	記述統計と推測統計について概説
	授業方法/進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	データの尺度の復習
	アクティブ・ラーニング	その他
2	授業内容(担当教員)	記述統計 - 単純集計表、度数分布表
	授業方法/進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	度数分布の階級数・階級幅の復習
	アクティブ・ラーニング	その他
3	授業内容(担当教員)	記述統計 - 分布の代表値・散布度
	授業方法/進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	平均値、最頻値、中央値、分散、標準偏差などの復習
	アクティブ・ラーニング	その他
4	授業内容(担当教員)	記述統計から推測統計へ - 標準得点と偏差値、正規分布
	授業方法/進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	データの標準化、正規分布などの復習
	アクティブ・ラーニング	その他
5	授業内容(担当教員)	推測統計 - 母平均、母比率、母分散の点推定・区間推定
	授業方法/進め方	演習・確認テスト・レポート課題提示
	事前・事後学習	標準誤差の復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
	アクティブ・ラーニング	その他
6	授業内容(担当教員)	推測統計 - 母平均、母比率、母分散の検定
	授業方法/進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	帰無仮説、有意確率などの意味、Z検定、t検定、カイ二乗検定の復習
	アクティブ・ラーニング	その他

7	授業内容（担当教員）	推測統計 - 対応のない2群の検定
	授業方法 / 進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	対応のない2群の検定の復習
	アクティブ・ラーニング	その他
8	授業内容（担当教員）	推測統計 - 対応のある2群の検定
	授業方法 / 進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	対応のある2群の検定の復習
	アクティブ・ラーニング	その他
9	授業内容（担当教員）	一元配置分散分析
	授業方法 / 進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	要因、因子、水準、一元配置の意味の復習
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容（担当教員）	質的変数における2変数間の関係 - クロス集計、カイ二乗検定
	授業方法 / 進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	カイ二乗検定・クラメルの変数間の関係などの復習
	アクティブ・ラーニング	その他
11	授業内容（担当教員）	量的変数における2変数間の関係 - 相関分析（相関係数、偏相関係数）
	授業方法 / 進め方	演習・確認テスト・レポート課題提示
	事前・事後学習	相関係数・偏相関係数などの復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
	アクティブ・ラーニング	その他
12	授業内容（担当教員）	回帰分析 - 量的変数における2変数間の因果関係
	授業方法 / 進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	最小二乗法による回帰係数の推定などの復習
	アクティブ・ラーニング	その他
13	授業内容（担当教員）	調査データの解析 - 調査内容について話し合い、質問項目の作成・ミニ調査実施
	授業方法 / 進め方	グループワーク・確認テスト
	事前・事後学習	作成した質問紙の集計・解析方法の確認
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク、その他
14	授業内容（担当教員）	調査データの解析 - 調査データの集計・解析（単純集計・クロス集計、仮説の検定・変数間の関係）
	授業方法 / 進め方	グループワーク・確認テスト
	事前・事後学習	調査データの集計結果、解析結果のチェック
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク、その他
15	授業内容（担当教員）	調査データの解析 - 調査報告書作成（結果及び考察・対策を含む）
	授業方法 / 進め方	グループワーク・確認テスト
	事前・事後学習	調査データの報告書のチェック
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク、その他

科目名	データ処理とデータ解析		
科目名(英語)	Data Processing and Data Analysis		
担当教員	石崎 龍二		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(情報)、社会調査士資格、上級情報処理士資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

社会学・心理学・教育学等に必要となる統計解析の基礎とその応用について、コンピュータでの統計処理演習を通して学習する。「データ処理とデータ解析」で学習した記述統計、推測統計、2変数間の相関分析、回帰分析、分散分析を基礎として、量的データ及び質的データの多変量解析を学ぶ。

以上のデータ処理と解析法を学んだ後、グループ単位でミニ調査を実施し、統計解析を行い、報告書を作成する。こうした演習を通して、卒業論文等の課題研究における主張や仮説を検証するデータの処理と解析方法、統計解析を基礎にした議論の展開を身につける。

履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等

「データ処理とデータ解析」を履修していること。

関連資格

上級情報処理士・社会調査士

テキスト

独自演習用テキストを配付する。

参考図書・教材等

駒沢勉・橋口捷久、石崎龍二著、赤池弘次監修、『新版 パソコン数量化分析』、朝倉書店、1998年(6,264円)、石村貞夫著、『すぐわかる多変量解析』、東京図書、1992年(2,160円)、菅民郎著、『多変量解析の実践 下』、現代数学社、1993年(2,916円)

学習相談・助言体制

授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	量的・質的データの多変量解析の方法を理解している。
(DP2)	二元配置分散分析ができる。 量的データの多変量解析(重回帰分析・ロジスティック回帰分析・判別分析・主成分分析・因子分析)ができる。 質的データの多変量解析(数量化理論第Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類)ができる。

思考・判断・表現

(DP3)	量的・質的データの多変量解析により解析された結果を適切に解釈できる。 データに応じて多変量解析の方法を適切に選択できる。 多変量解析を行った結果を的確にまとめ、報告できる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

量的・質的データの多変量解析の方法を理解しており、データに応じて多変量解析を適切に行い、結果を的確にまとめ、報告できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

量的・質的データの多変量解析の方法を理解しており、データに応じて多変量解析の方法を適切に選択できる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A:80～89 履修目標を達成している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
確認テスト	10	知識・技能(DP1) : 3, (DP2) : 3, 思考・判断・表現(DP3) : 4
授業外レポート・宿題	40	知識・技能(DP1) : 10, (DP2) : 15, 思考・判断・表現(DP3) : 15
授業態度・授業への参加度	50	知識・技能(DP1) : 15, (DP2) : 20, 思考・判断・表現(DP3) : 15

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
PCを使った演習・調査学習・グループワークを通して、課題研究における主張や仮説を検証するデータの処理と解析方法、統計解析を基礎にした議論の展開を身につける。

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	授業概要、二元配置分散分析
	授業方法/進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	二元配置分散分析、主効果、交互作用の復習
	アクティブ・ラーニング	その他
2	授業内容(担当教員)	多変量解析 - 重回帰分析
	授業方法/進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	重回帰式、偏回帰係数、決定係数の復習
	アクティブ・ラーニング	その他
3	授業内容(担当教員)	多変量解析 - ロジスティック回帰分析
	授業方法/進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	オッズ、オッズ比の復習
	アクティブ・ラーニング	その他
4	授業内容(担当教員)	多変量解析 - 判別分析
	授業方法/進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	相関比、判別関数の復習
	アクティブ・ラーニング	その他
5	授業内容(担当教員)	多変量解析 - 主成分分析
	授業方法/進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	固有値、主成分負荷量、主成分得点の復習
	アクティブ・ラーニング	その他
6	授業内容(担当教員)	多変量解析 - 因子分析
	授業方法/進め方	演習・確認テスト・レポート課題提示
	事前・事後学習	因子数の決定基準、因子寄与、因子寄与率、因子名の決定方法の復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
	アクティブ・ラーニング	その他
7	授業内容(担当教員)	多変量解析 - 数量化理論第 類(予測、要因分析のための数量化)の解析
	授業方法/進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	説明アイテムの選択基準、アイテム・カテゴリー数量の復習
	アクティブ・ラーニング	その他

8	授業内容（担当教員）	多変量解析 - 数量化理論第 類による解析
	授業方法 / 進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	レンジ、偏相関係数、重相関係数の復習
	アクティブ・ラーニング	その他
9	授業内容（担当教員）	多変量解析 - 数量化理論第 類（判別、予測、要因分析のための数量化）の解析
	授業方法 / 進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	説明アイテムの選択基準、アイテム・カテゴリ-数量の復習
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容（担当教員）	多変量解析 - 数量化理論第 類による解析
	授業方法 / 進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	レンジ、偏相関係数、相関比、判別区分点、判別的中率の復習
	アクティブ・ラーニング	その他
11	授業内容（担当教員）	多変量解析 - 数量化理論第 類（分類、要因、データ構造分析のための数量化）の解析
	授業方法 / 進め方	演習・確認テスト・レポート課題提示
	事前・事後学習	アイテム・カテゴリ-数量及び散布図、サンプル数量の散布図の復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
	アクティブ・ラーニング	その他
12	授業内容（担当教員）	多変量解析 - 数量化理論第 類による解析（自由記述データの解析）
	授業方法 / 進め方	演習・確認テスト
	事前・事後学習	自由記述データの加工手順を復習
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デバート / グループワーク、その他
13	授業内容（担当教員）	調査データの解析 - 調査内容について話し合い、ミニ調査実施
	授業方法 / 進め方	グループワーク・確認テスト
	事前・事後学習	作成した質問紙の集計・解析方法の確認
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デバート / グループワーク、その他
14	授業内容（担当教員）	調査データの解析 - 調査データの集計・解析
	授業方法 / 進め方	グループワーク・確認テスト
	事前・事後学習	入力データ、データの集計結果のチェック、調査データの解析結果のチェック
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デバート / グループワーク、その他
15	授業内容（担当教員）	調査データの解析 - 調査データの報告書作成
	授業方法 / 進め方	グループワーク・確認テスト
	事前・事後学習	調査データの報告書のチェック
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デバート / グループワーク、その他

科目名	Webデザイン演習		
科目名（英語）	Web Design ? Practicum		
担当教員	柴田 雅博		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許（情報）、上級情報処理士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

インターネットでは様々なWebサイトが運営されている。Webページがどのように作られているのか、Webページを構成する代表的な技術（HTML，CSS）について学び、自ら情報発信を行える技能を身に付ける。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

なし

関連資格

高等学校教諭一種免許（情報），上級情報処理士

テキスト

こもりまさあき・赤間公太郎『Webデザインの新しい教科書（改訂3版）』，エムディーエヌコーポレーション，2021，2750円

そのほか、独自作成した講義資料を配布提供する。

参考図書・教材等

なし

学習相談・助言体制

授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・HTML，CSSといったWeb関連技術を理解する。
(DP2)	・HTML，CSSなどを用いてWebページを作成することができる。

思考・判断・表現

(DP3)	・目的に応じたWebサイトのデザインを行うことができる。 ・アクセシビリティ、ユーザビリティを考慮してWebページをデザインすることができる。
-------	--

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・主体性をもって演習に取り組むことができる。
-------	------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

Web関連技術を十分に理解し、目的やユーザー層を鑑みながら、Webサイトの仕様策定、設計、制作を実施することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

Web関連技術を理解し、HTML，CSSなどを用いてWebページを作成することができる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。
不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
演習課題	70	知識・技能(DP1)：10，(DP2)：40，思考・判断・表現(DP3)：20
授業態度・参加度	30	知識・技能(DP2)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
その他：PCによる演習

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	Webコンテンツの製作：Webサイトの構成（システム構成、Webサーバ）
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。
2	授業内容（担当教員）	Webサイトの設計。アクセシビリティ、ユーザビリティ
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。
3	授業内容（担当教員）	Webサイト制作の設計計画
	授業方法 / 進め方	Webサイト制作のための作成計画演習
	事前・事後学習	事前にどのようなWebサイトを作るか、ある程度の構想を建てておく。次週までにWebサイトの構成、仕様策定、ある程度のデザインなどの計画書を作成する。
	アクティブ・ラーニング	その他
4	授業内容（担当教員）	HTML（1）： タグ、属性、Webページの基本構造
	授業方法 / 進め方	講義とWebページ作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
5	授業内容（担当教員）	HTML（2）： 文章記述、修飾
	授業方法 / 進め方	講義とWebページ作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
6	授業内容（担当教員）	HTML（3）： 画像表示とリンク
	授業方法 / 進め方	講義とWebページ作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。今後、Webサイトに使うための素材や画像を準備しておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
7	授業内容（担当教員）	HTML（4）： リストと表
	授業方法 / 進め方	講義とWebページ作成演習
	事前・事後学習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。WebサイトのトップページのHTML作成を進めておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
8	授業内容（担当教員）	HTML（5）： HTMLでのトップページの完成
	授業方法 / 進め方	Webページ作成演習
	事前・事後学習	次週までにWebサイトのトップページのHTMLを完成させる。
	アクティブ・ラーニング	その他

9	授業内容（担当教員）	CSS（１）：CSSの役割、HTMLへのCSSの適用
	授業方法／進め方	講義とCSSによるデザイン演習
	事前・事後学習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容（担当教員）	CSS（２）：セレクタと画像
	授業方法／進め方	講義とCSSによるデザイン演習
	事前・事後学習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。WebサイトのトップページのCSSレイアウト作成を進めておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
11	授業内容（担当教員）	CSS（３）：ボックスモデル
	授業方法／進め方	講義とCSSによるデザイン演習
	事前・事後学習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。WebサイトのトップページのCSSレイアウト作成を進めておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
12	授業内容（担当教員）	CSS（４）：レスポンシブルデザイン
	授業方法／進め方	講義とCSSによるデザイン演習
	事前・事後学習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。次週までにWebサイトのトップページのCSSレイアウト作成を完成させる。
	アクティブ・ラーニング	その他
13	授業内容（担当教員）	マルチメディアデータの埋め込み
	授業方法／進め方	講義とWebページ作成演習
	事前・事後学習	事前に資料の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。演習課題のプログラミングを進めておく。
	アクティブ・ラーニング	その他
14	授業内容（担当教員）	インタラクティブコンテンツ
	授業方法／進め方	講義とWebプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に資料の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。次週までに演習課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
15	授業内容（担当教員）	Webサイトの仕上げ
	授業方法／進め方	Webサイト制作演習
	事前・事後学習	締切までにWebサイトを完成させ、仕様書と共に提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他

科目名	看護情報学		
科目名（英語）	Nursing Informatics		
担当教員	杉野 浩幸		
科目区分	看護学部 看護学科、データサイエンス・プログラム		
標準履修年次	2年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

看護情報学とは、コンピュータサイエンスと情報科学、看護科学を組み合わせることによって看護についてのデータ、情報、知識の処理と管理を行い、臨床看護と看護ケアの提供を支援するものであるという定義のもと、看護に関わる情報について理解し、データ収集・整理・入力・解析について体系的に学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

PC操作の基本的技術、統計学の基礎知識。PCを使用した演習は個人所有のノートPCのみで毎回持参することが必須となります。履修者の能力によっては、HTML、CSS、jQuery (Javascript) などWebサイトの基礎、ExcelVBAの概要、セキュリティに関する暗号化（公開鍵方式など）、認証局（CA）その他、無線LANのセキュリティ関連（SSID、ステルスSSID、MACアドレスフィルタリング、IEEE802.1X認証など）についても概説するため基礎的なIT、ネットワークの知識を有することが望ましい。

テキスト

講義担当者が作成したテキスト、および、Nursing Informatics: Scope and Standards of Practice, 2nd Ed

参考図書・教材等

エッセンシャル 看護情報学、第3版、2020年、医歯薬出版

学習相談・助言体制

オフィスアワー、メール、授業後に直接質問を受けるなど、リクエストに応じて随時対応を行う。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	情報器機の一般的操作、情報学、統計学の基礎、基礎的な看護学、専門的な臨床看護と看護ケアについて理解し、第三者に説明できる。
(DP2)	看護における様々な情報について電子ジャーナル等を活用した文献検索により必要な情報を収集することができる。

思考・判断・表現

(DP3)	医療、看護、福祉におけるデータについて、IT器機を活用した整理・入力・解析を行い、分析結果を作成することができる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	看護における様々な情報を集約し、問題点を抽出し対応策について主体的に取り組み、発表資料を作成できる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

看護におけるあらゆる情報について、適切な情報を取捨選択し活用することができ、その現象や意味から論理的に筋道を立てて考えることができる。IT器機を活用し、データを収集・整理・入力・解析することができる。情報セキュリティ、情報倫理について理解し、演習、実習時における情報の正しい利用方法について把握している。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

看護におけるあらゆる情報について、適切な情報を取捨選択し活用することができ、その現象や意味を考え、IT器機を活用し、データを収集・整理・入力・解析することができる。情報を安全に管理し遵守すべきポイントを把握している。

成績評価の基準

- 161 -

- 147 -

S: 90 ~ 100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。 コンピュータサイエンスと情報科学、看護科学を組み合わせ、看護に関わるデータ収集・整理・入力・解析方法について体系的に理解している。履修目標以上の学修成果が認められる。
A: 80 ~ 89	履修目標を達成している。 コンピュータサイエンスと情報科学、看護科学を組み合わせ、看護に関わるデータ収集・整理・入力・解析方法について体系的に理解している。
B: 70 ~ 79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 コンピュータサイエンスと情報科学、看護科学を組み合わせ、看護に関わるデータ収集・整理・入力・解析方法について理解しているが履修目標には届いていない。
C: 60 ~ 69	到達目標を達成している。 コンピュータサイエンスと情報科学、看護科学を組み合わせ、看護に関わるデータ収集・整理・入力・解析方法について理解し到達目標に達しているが履修目的を達成するには不十分な点が多い。
不可: ~ 59	到達目標を達成できていない。 コンピュータサイエンスと情報科学、看護科学を組み合わせ、看護に関わるデータ収集・整理・入力・解析方法について学修が不足している。到達目標に達していない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	60	知識・技能(DP1) : 10, (DP2) : 10, 思考・判断・表現(DP3) : 20, 主体性・多様性・協働性(DP4) : 20
授業外レポート・宿題	40	知識・技能(DP1) : 20, (DP2) : 20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーション 看護情報学の定義
	授業方法/進め方	講義 看護師に求められる看護情報学の知識、初心者ナースに求められる能力、情報の共有 演習 Wordの書式設定、リスト、書式のコピー、段落設定の再確認
	事前・事後学習	事前学習(80分) 配布テキストの確認と構成の把握、不明点の確認を行う。 事後学習(80分) ANAに記載された看護情報学の定義について文献を確認する。
2	授業内容(担当教員)	コンピューターリテラシー
	授業方法/進め方	講義 ハードウェア、ソフトウェア、クラウド、データの保存、インターネット 演習 Wordのページ設定、改行とセクション区切り、段区切り
	事前・事後学習	事前学習(80分) ハードディスク、SSDについて概要を調査する。自身が所有するPCにインストールされているソフトウェアについて確認しておく。 事後学習(80分) 自身が所有するPCのハードウェア、ソフトウェアの構成について再確認する。

3	授業内容（担当教員）	情報リテラシー
	授業方法 / 進め方	講義 情報検索、CiNii、J-STAGEの利用方法 演習 Wordのスタイルの登録と活用、目次の作成
	事前・事後学習	事前学習（80分） 図書館ホームページを閲覧し、情報検索のシステムについて確認しておく。 事後学習（80分） CiNii、J-STAGEを利用した情報検索を行い和雑誌、洋雑誌をダウンロードし印刷する。
4	授業内容（担当教員）	情報セキュリティ
	授業方法 / 進め方	講義 物理的セキュリティ、論理的セキュリティ、PCのセキュリティ 演習 Excelの基本操作、ショートカットキー、絶対参照と相対参照、条件付き書式
	事前・事後学習	事前学習（80分） 自身が所有するPCにインストールされているセキュリティソフトについて確認しておく。 事後学習（80分） 自身が所有するPCのセキュリティソフトのバージョン、定義ファイルの更新状況について確認を行う。
5	授業内容（担当教員）	情報発信
	授業方法 / 進め方	講義 ブログ、SNSにおける可能性と課題 演習 Excelの基本操作、文字列の変換、結合
	事前・事後学習	事前学習（80分） 自身が保有するSNSやLINEのアカウントについて個人設定の方法、公開設定の方法を再確認しておく。 事後学習（80分） 自身が保有するSNSやLINEのアカウント設定の個人情報に関する設定項目を再確認し、不要な公開設定や個人の特定に繋がる設定の有無を確認し必要であれば修正する。
6	授業内容（担当教員）	情報倫理
	授業方法 / 進め方	講義 コンピューター倫理、情報モラル、電子カルテをめぐる課題 演習 Excel関数、COUNTA、COUNTIF、SUMIF
	事前・事後学習	事前学習（80分） 情報倫理について調べておく。 事後学習（80分） 電子カルテをめぐる情報倫理的課題について再確認する。
7	授業内容（担当教員）	プライバシーと守秘義務
	授業方法 / 進め方	講義 情報化時代のプライバシー、看護場面でのプライバシー 演習 Excelのセルのスタイル、テーブルの書式設定
	事前・事後学習	事前学習（80分） プライバシーと守秘義務について調べておく。 事後学習（80分） 自身が作成し提出したレポート等において個人のプライバシーに関わる記述の有無や、倫理上の問題に関わる記述を含む箇所について確認する。

8	授業内容（担当教員）	臨地実習における患者情報の取り扱い
	授業方法 / 進め方	講義 実習記録、実習中のメモ、SNSの利用 演習 PowerPointを用いたプレゼンテーションの基礎、スライドデザイン、画像出力に関するインターフェース、変換
	事前・事後学習	事前学習（80分） 1,2年次の病院実習における記録の保管状況と内容を再確認しておく。 事後学習（80分） 1,2年次の病院実習における記録の保管状況、倫理上の問題点について再確認する。

科目名	情報ネットワーク演習		
科目名(英語)			
担当教員	柴田 雅博		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(情報)、上級情報処理士資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

ネットワーク技術を知識としてだけでなく、実際にコンピュータを触りながら実戦経験を積む。
Windowsにおけるネットワーク関連の設定と通信コマンドを学修する。
ソケット通信プログラミングを通じてネットワークの仕組みと動作を理解する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

なし(「情報ネットワーク論」「プログラミング概論」も履修している方が望ましい)

関連資格

高等学校教諭一種免許(情報)、上級情報処理士

テキスト

小高知宏『PythonによるTCP/IPソケットプログラミング』, オーム社, 2019, 2200円
ほか、独自作成した講義資料を配布提供する。

参考図書・教材等

なし

学習相談・助言体制

授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・ネットワーク通信の基本的な仕組みを理解できる。
(DP2)	・Windows等のネットワーク設定を確認し、状況を把握できる通信コマンドを実行できる。

思考・判断・表現

(DP3)	・通信トラブルに対し、ネットワーク設定を確認し、簡単な対処を行うことができる。 ・簡単なネットワークプログラミングを理解し実践することができる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・主体性をもって授業に取り組むことができる。
-------	------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

コンピュータネットワークにおける通信の仕組みを理解する。
通信トラブルに対し設定等を確認しながら問題を切り分け、簡単な対処であれば自分で行うことができる。
ソケット通信プログラムの内容を理解しネットワークプログラミングを実践することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

コンピュータネットワークにおける通信の基本的な仕組みを理解する。
通信トラブルに対し、基本的な問題確認を行うことができる。
簡単なネットワークプログラミングを実践することができる。

成績評価の基準

S:90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80~89	履修目標を達成している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
演習課題	70	知識・技能(DP1)：20，(DP2)：30，思考・判断・表現(DP3)：20
授業態度・参加度	30	知識・技能(DP2)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
その他：PC演習

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーション：ネットワークトラブルとその対処
	授業方法/進め方	オリエンテーションと講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	授業内容(担当教員)	ネットワーク技術の復習：OSI基本参照モデル、TCP/IP
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
3	授業内容(担当教員)	ネットワーク技術の復習：LANの構成、WWW
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
4	授業内容(担当教員)	Windows、その他の通信端末におけるネットワーク情報の確認
	授業方法/進め方	講義と演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
	アクティブ・ラーニング	その他
5	授業内容(担当教員)	簡単なネットワーク関連コマンド：ping, ipconfig, netstat, nslookup
	授業方法/進め方	講義と演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
	アクティブ・ラーニング	その他
6	授業内容(担当教員)	LANの構築：有線LANの構築と設定
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
7	授業内容(担当教員)	LANの構築：無線LANの設定
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。

8	授業内容（担当教員）	ネットワークプログラミング：Pythonプログラミングの基礎
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
	アクティブ・ラーニング	その他
9	授業内容（担当教員）	ネットワークプログラミング：ソケット通信とは
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容（担当教員）	ネットワークプログラミング：簡単な通信プログラムの作成
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
	アクティブ・ラーニング	その他
11	授業内容（担当教員）	ネットワークプログラミング：クライアントサーバプログラム（クライアント）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
	アクティブ・ラーニング	その他
12	授業内容（担当教員）	ネットワークプログラミング：クライアントサーバプログラム（サーバ）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
	アクティブ・ラーニング	その他
13	授業内容（担当教員）	ネットワークプログラミング：チャットアプリの開発
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
	アクティブ・ラーニング	その他
14	授業内容（担当教員）	ネットワークプログラミング：Webページの取得
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
	アクティブ・ラーニング	その他
15	授業内容（担当教員）	ネットワークプログラミング：Webページの解析
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
	アクティブ・ラーニング	その他

科目名	プログラミング演習		
科目名（英語）	Programming Practium		
担当教員	柴田 雅博		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許（情報）、上級情報処理士資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

問題解決を図るためには論理的思考が必要である。プログラミングは論理的思考能力を身に付けるのに非常に有効である。これまで学んだプログラミング記法を使って、具体的な目的を達成するためのアプリケーション開発を行う。そのために必要なモデル化、モジュール化の知識を修得し、実践に活かす力を身につける。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

「プログラミング概論」を受講していることが望ましい。

関連資格

高等学校教諭一種免許（情報），上級情報処理士

テキスト

独自作成した講義資料を配布提供する。

参考図書・教材等

なし

学習相談・助言体制

授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・オブジェクト指向型プログラミングの概念を理解し、実践できる。 ・論理的思考を行うための前提知識を身につける。
(DP2)	・目的を達成するために、アルゴリズムを設計し、プログラム開発を行うことができる。

思考・判断・表現

(DP3)	・問題解決のために、問題をモデル化し、解決手段を論理的に検討することができる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・主体性をもって演習に取り組むことができる。
-------	------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

問題解決のために、問題をモデル化し、解決手段を論理的に検討することができる。またプログラミング的思考で問題解決を図ることができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

オブジェクト指向型プログラミングの概念を理解し、プログラムを作成できる。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
演習課題	70	知識・技能(DP1)：20，(DP2)：30，思考・判断・表現(DP3)：20
授業態度・参加度	30	知識・技能(DP2)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

その他：PCによる演習

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	オリエンテーション：問題解決のための論理的思考とプログラミング能力
	授業方法／進め方	講義とプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
2	授業内容（担当教員）	「プログラミング概論」の復習
	授業方法／進め方	講義とプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
3	授業内容（担当教員）	関数（メソッド）
	授業方法／進め方	講義とプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
4	授業内容（担当教員）	オブジェクト指向型プログラミング
	授業方法／進め方	講義とプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
5	授業内容（担当教員）	GUIアプリケーション
	授業方法／進め方	講義とプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
6	授業内容（担当教員）	イベント駆動型プログラミング（1）：ボタン
	授業方法／進め方	講義とプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
7	授業内容（担当教員）	イベント駆動型プログラミング（2）：タイマー処理
	授業方法／進め方	講義とプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他

8	授業内容（担当教員）	イベント駆動型プログラミング（3）：キーボードとマウス
	授業方法 / 進め方	講義とプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
9	授業内容（担当教員）	アルゴリズムの基礎（1）：探索アルゴリズム
	授業方法 / 進め方	講義とプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容（担当教員）	アルゴリズムの基礎（2）：整列アルゴリズム
	授業方法 / 進め方	講義とプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
11	授業内容（担当教員）	継承（1）：継承の概念
	授業方法 / 進め方	講義とプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
12	授業内容（担当教員）	継承（2）：ポリモーフィズム
	授業方法 / 進め方	講義とプログラミング演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
13	授業内容（担当教員）	中規模アプリケーションの開発：アプリケーション設計と画面表示
	授業方法 / 進め方	講義とアプリケーション設計演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
14	授業内容（担当教員）	中規模アプリケーションの開発：アプリケーション動作設計
	授業方法 / 進め方	講義とアプリケーション設計演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他
15	授業内容（担当教員）	中規模アプリケーションの開発：アプリケーションの機能追加
	授業方法 / 進め方	講義とアプリケーション設計演習
	事前・事後学習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
	アクティブ・ラーニング	その他

2. 全学横断型教育について

(1) 全学横断型科目

地域における保健・医療・福祉の諸課題に、主体性をもって他者と協働して課題を解決できる実践的能力を向上させるため、本学では、両学部で学べる全学横断型科目を配置しています。

下記の7科目が全学横断型科目です。

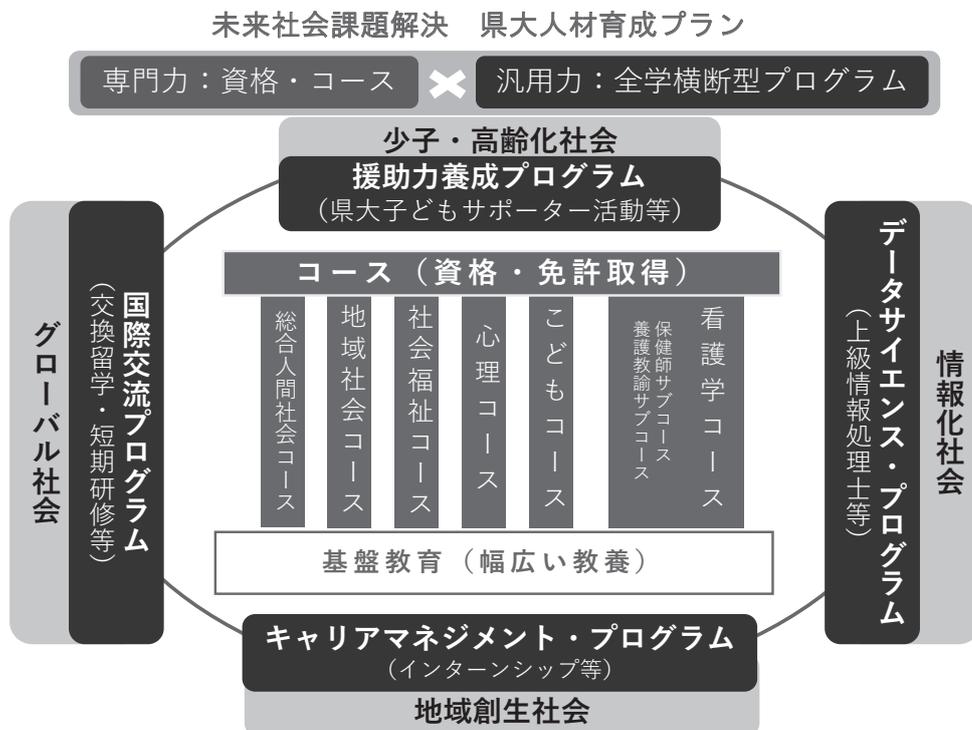
別表第3 全学横断型科目

授業科目の区分と科目名	単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				卒業要件	
	必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	人間社会学部	看護学部
不登校・ひきこもり援助論		2	講義	2				各学科とも自由 選択の12単位に 含めることが できる	自由選択の8単 位に含めること ができる
子供学習支援論		1	講義	1					
プレ・インターンシップ		1	実習	1					
※データベース論		2	講義		2				
※情報ネットワーク論		2	講義		2				
※問題解決演習		1	演習		1				
日本語ライティング		1	演習		1				

※人間社会学部においては各学科の定めるところにより、専門教育科目の単位に含めることができる。

(2) 全学横断型教育プログラム

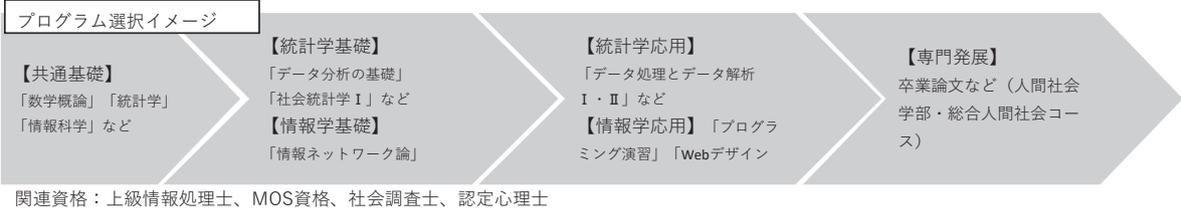
本学では、将来のいかなる社会の変動に対しても適切に対応できる、潜在的能力、いわゆる社会人基礎力を身につけるための全学横断型教育プログラム教育が4つ用意されています。それぞれの学科（コース）での専門教育を縦糸、プログラム教育を横糸として、「コース・プログラム」システムによる重層的な教育体制を構築する教育改革を進めています。



(各プログラムの詳細は次ページを確認)

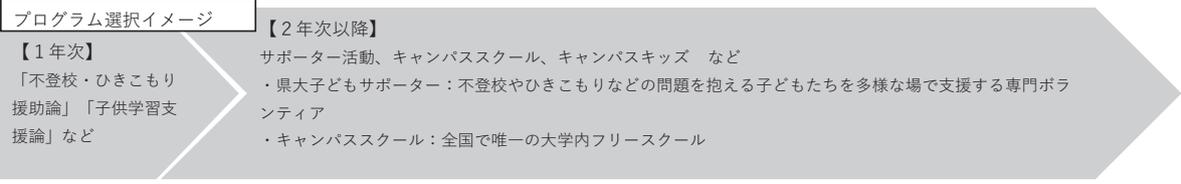
●データサイエンス・プログラム ※定められた条件を満たすと学修証明書が交付されます。(67p～69p参照)

統計・情報の知識を保健福祉分野での課題解決に活用できる力を養成します。
 統計学・情報学を系統的に学ぶことにより、IoT、AI、ビックデータ等の新技術の進展する新しい時代に求められる統計的手法や情報技術を修得することができます。
 人間社会学部では、3年次に総合人間社会コースを選択し、本プログラムに沿った知識やスキルを用いて「卒業論文」等に取り組むことも可能です。
 プログラムを構成する科目については、67 p～69 p (学修証明書の交付)を確認してください。



●援助力養成プログラム ※活動実績に応じたマイスター制度(学長表彰制度)があります。

子どもへの支援活動を通じて対人援助力や対人スキルを養成します。
 全国で唯一の教育プログラムです。子どもへの関わり方の基礎を授業で学び、その後、不登校・ひきこもりサポートセンターで実際に子どもの支援活動に参加します。
 まずは1年次前期の「不登校・ひきこもり援助論」で、学生のボランティア活動における支援のあり方や意義について学びます。



●国際交流プログラム

短期留学から長期留学を通して異文化とのコミュニケーション力を養成します。
 『福岡県ふくおか未来人材育成ビジョン』に連動したプログラムです。
 「多文化を尊重する力」「多様な価値を認める力」「郷土を知り、愛する力」「臨機応変に対応する力」「英語・中国語・韓国語で表現する力」を身につけ、社会で活躍できる存在を目指します。
 留学や語学研修については便覧の128 pを参照してください。



●キャリアマネジメント・プログラム ※定められた条件を満たすと学修証明書が交付されます。(67p～69p参照)

入学時からの系統的な授業や活動を通して「就業力」を養成します。
 正課教育科目(授業)、正課外プログラム(授業以外の活動)を並行することにより一つの活動における自分の関わり方について自問自答する力が培われ、就業力向上につながります。
 人間社会学部では、3年次に総合人間社会コースを選択し、本プログラムに沿った知識やスキルを用いて「卒業論文」等に取り組むことも可能です。
 プログラムを構成する科目については、67 p～69 p (学修証明書の交付)を確認してください。



6. 学修証明書の交付

本学では、「全学横断型プログラム」として設置している「データサイエンス・プログラム」および「キャリアマネジメント・プログラム」において、所定の要件を満たすことで、その学修内容を履修したことを証明する学修証明書の交付を行っています。この学修証明書は、総合人間社会コースに所属していなくても、本学の学生であれば以下の要件を満たせば交付されます。また、これらに加えて看護学部独自の「ケアリング・ナーシング・プログラム」においても、所定の要件を満たすことで学修証明書が交付されます。

それぞれの学修証明書の交付要件は下記の通りです。対応する別表Ⅰ～Ⅵは次ページから記載しています。

<データサイエンス（リテラシー）学修証明書>

データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を学修した者に与えられる。

【要件】 3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満たした者

- ・別表Ⅰに示す科目の中から合計2単位以上を取得
- ・別表Ⅰ、別表Ⅱ、別表Ⅲに示す科目の中から合計8単位以上を取得
- ・上記単位取得科目の獲得G Pの総和（累積G P）が16以上

<データサイエンス（基礎）学修証明書>

データサイエンスにおける基礎的な知識・技能を学修し、またデータサイエンスを用いた基本的な調査分析の方法やICTの利活用について学修した者に与えられる。

【要件】 3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満たした者

- ・別表Ⅰ、別表Ⅱに示す科目の中からそれぞれ4単位以上を取得
- ・別表Ⅰ、別表Ⅱ、別表Ⅲに示す科目の中から合計18単位以上を取得
- ・上記単位取得科目の獲得G Pの総和（累積G P）が36以上

<データサイエンス学修証明書>

データサイエンスにおける知識・技能を学修し、またデータサイエンスを用いて実践的な調査分析の方法、問題解決等に活用する方法について学修した者に与えられる。

【要件】 3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満たした者

- ・別表Ⅰ、別表Ⅱ、別表Ⅲに示す科目の中からそれぞれ4単位以上を取得
- ・別表Ⅰ、別表Ⅱ、別表Ⅲに示す科目の中から合計30単位以上を取得
- ・上記単位取得科目の獲得G Pの総和（累積G P）が75以上

<キャリアマネジメント（基礎）学修証明書>

職業生活に関わる多様な見解や実践に触れることで、自己の人生を主体的に設計することの意義を知り、職業人生において他者との協働、協調が果たす重要性を学んだ者に与えられる。

【要件】 3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満たした者

- ・別表Ⅳから3単位以上を取得
- ・別表Ⅴから4単位以上を取得
- ・上記単位取得科目の獲得G Pの総和（累積G P）が14以上

<キャリアマネジメント学修証明書>

職業生活に関わる知識や技能を学び、それらがどのように実践されているかを知り、創造的な職業人生を自ら構築するため必要となる、継続的な自己成長の方法を学んだ者に与えられる。

【要件】 3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満たした者

- ・別表Ⅳから4単位以上を取得
- ・別表Ⅴから8単位以上を取得
- ・上記単位取得科目の獲得G Pの総和（累積G P）が30以上

別表Ⅰ データサイエンス 共通基礎

科目名	単位	方法	開設時期（標準履修年次）				履修方法
			1年次	2年次	3年次	4年次	
数学概論	2	講義	2				
統計学	2	講義	2				
情報科学	2	講義	2				
情報処理の基礎と演習	2	演習	2				必修（人社）
情報処理演習Ⅰ	1	演習	1				必修（看護）
情報処理演習Ⅱ	1	演習	1				
情報処理応用演習	1	演習	1				

備考

「履修方法」欄の「必修（人社）」は、人間社会学部の必修科目（卒業要件）である。

「必修（看護）」は、看護学部の必修科目（卒業要件）である。

別表Ⅱ データサイエンス 専門基礎

分野	科目名	単位	方法	開設時期（標準履修年次）			
				1年次	2年次	3年次	4年次
統計学	データ分析の基礎	2	講義	2			
	社会統計学Ⅰ	2	講義		2		
	社会統計学Ⅱ	2	講義		2		
	心理学統計法	2	講義		2		
	保健統計学	2	講義		2		
	疫学	2	講義		2		
情報学	情報数学	2	講義		2		
	プログラミング概論	2	講義		2		
	データベース論	2	講義		2		
	マルチメディア論	2	講義		2		
	情報ネットワーク論	2	講義		2		
	現代社会論B（情報社会論）	2	講義		2		
	現代社会論C（情報社会と法）	2	講義		2		
	情報検索システム論	2	講義			2	
	個人情報法制	2	講義			2	
	地理情報システム論	2	講義			2	

別表Ⅲ データサイエンス 専門応用

分野	科目名	単位	方法	開設時期（標準履修年次）			
				1年次	2年次	3年次	4年次
統計学	社会調査法	2	講義	2			
	社会福祉調査法	2	講義		2		
	保健社会調査論	2	講義		2		
	心理学研究法	2	講義		2		
	社会調査の設計	2	講義		2		
	地域社会分析法C	2	講義			2	
	心理学実験Ⅰ	2	演習		2		
	心理学実験Ⅱ	2	演習		2		
	社会調査実習Ⅰ	2	実習		2		
	社会調査実習Ⅱ	2	実習		2		
	看護研究	2	講義		2		
	公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ	2	演習			2	
	公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ	2	演習				2
	データ処理とデータ解析Ⅰ	1	演習			1	
	データ処理とデータ解析Ⅱ	1	演習			1	
情報学	Webデザイン演習	1	演習		1		
	看護情報学	1	演習		1		
	情報ネットワーク演習	1	演習		1		
	プログラミング演習	1	演習			1	

別表Ⅳ キャリアの基盤に関する科目

科目名	単位	方法	開設時期（標準履修年次）			
			1年次	2年次	3年次	4年次
ライフキャリア論	2	講義	2			
プレ・インターンシップ	1	実習	1			
入門・数字で見る日本社会	2	講義	2			

別表Ⅴ キャリアのスキル形成に関する科目

科目名	単位	方法	開設時期（標準履修年次）				履修方法
			1年次	2年次	3年次	4年次	
キャリア像確立講義Ⅰ	1	講義	1				
社会人基礎力演習	1	演習		1			
問題解決演習	1	演習		1			
日本語ライティング	1	演習		1			
人的資源管理論	2	講義		2			
キャリア論	2	講義			2		
組織マネジメント	2	講義			2		
ビジネス倫理	2	講義			2		
個人情報法制	2	講義			2		
看護教育学	1	講義			1		
キャリア像確立講義Ⅱ	1	講義			1		
看護管理論	1	講義				1	必修（看護）

備考

「履修方法」欄の「必修（看護）」は、看護学部の必修科目（卒業要件）である。

<ケアリング・ナーシング学修証明書>

看護師国家資格に対応した学びを基盤としながらさらなる付加価値を身につけるため、医療の高度化・細分化、国際化等の変化に対応する方法を学んだ者に与えられる。

【要件】 3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満たした者

- ・別表Ⅵのすべての単位を取得
- ・上記単位取得科目の獲得G Pの総和（累積G P）が14以上

別表Ⅵ ケアリング・ナーシング・プログラムに関する科目

科目名	単位	方法	開設時期 (標準履修年次)	履修方法
①基盤科目				
キャリア像確立講義Ⅰ	1	講義	1・2年次	VOD
キャリア像確立講義Ⅱ	1	講義	3・4年次	VOD
②災害看護に関する科目				
災害看護学	1	講義	2年次	VOD
③国際看護及び看護倫理に関する科目				
国際看護学	1	講義	2年次	
看護倫理学	1	講義	2年次	
④看護師キャリア形成に関する演習科目				
ケアリング・ナーシング演習	1	演習	1～4年次	一部VOD

公立大学法人福岡県立大学基盤教育センター全学横断型教育小委員会設置要綱

令和5年4月1日

(設置)

第1条 福岡県立大学基盤教育センター（以下「基盤教育センター」という）のもとに「全学横断型教育小委員会」（以下「小委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 小委員会は、全学横断型教育プログラムを推進することを目的とする。全学横断型教育プログラムを構成する各プログラムについては別に定める。

(構成)

第3条 小委員会の構成は以下の通りである。

- (1) 小委員長
 - (2) 人間社会学部教員
 - (3) 看護学部教員
- 2 前項に定める小委員長、小委員会は、基盤教育センター長が指名する。

(分掌事項)

第4条 小委員会の分掌事項は以下の通りである。

- (1) 全学横断型教育プログラムに係わる教務に関する要綱等の制定・改廃の立案に関すること
- (2) 全学横断型教育プログラムに係わるカリキュラム、授業等に関すること
- (3) 全学横断型教育プログラムの円滑な運営、教育課程、教育方法等の検討に関すること
- (4) その他小委員会が必要と認めたこと

(会議)

第5条 小委員会は、構成員の過半数の出席により成立する。

2 議事は、出席者の過半数によって決する。なお、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(提案・報告)

第6条 小委員会は、必要に応じて基盤教育センターに提案及び報告を行う。

(改廃)

第7条 この要綱の改廃は、基盤教育センターの議を経て、基盤教育センター長が行う。

附 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

福岡県立大学全学横断型教育プログラムを構成するプログラム

令和5年4月1日

公立大学法人福岡県立大学基盤教育センター全学横断型教育小部会要綱第2条に定める全学横断型教育プログラムは以下の4つとする。

- (1) データサイエンス・プログラム
- (2) 援助力養成プログラム
- (3) 国際交流プログラム
- (4) キャリアマネジメント・プログラム

公立大学法人福岡県立大学基盤教育センター全学横断型教育小委員会設置要綱

令和5年4月1日

(設置)

第1条 福岡県立大学基盤教育センター（以下「基盤教育センター」という）のもとに「全学横断型教育小委員会」（以下「小委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 小委員会は、全学横断型教育プログラムを推進することを目的とする。全学横断型教育プログラムを構成する各プログラムについては別に定める。

(構成)

第3条 小委員会の構成は以下の通りである。

- (1) 小委員長
 - (2) 人間社会学部教員
 - (3) 看護学部教員
- 2 前項に定める小委員長、小委員会は、基盤教育センター長が指名する。

(分掌事項)

第4条 小委員会の分掌事項は以下の通りである。

- (1) 全学横断型教育プログラムに係わる教務に関する要綱等の制定・改廃の立案に関すること
- (2) 全学横断型教育プログラムに係わるカリキュラム、授業等に関すること
- (3) 全学横断型教育プログラムの円滑な運営、教育課程、教育方法等の検討に関すること
- (4) その他小委員会が必要と認めたこと

(会議)

第5条 小委員会は、構成員の過半数の出席により成立する。

2 議事は、出席者の過半数によって決する。なお、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(提案・報告)

第6条 小委員会は、必要に応じて基盤教育センターに提案及び報告を行う。

(改廃)

第7条 この要綱の改廃は、基盤教育センターの議を経て、基盤教育センター長が行う。

附 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

福岡県立大学全学横断型教育プログラムを構成するプログラム

令和5年4月1日

公立大学法人福岡県立大学基盤教育センター全学横断型教育小部会要綱第2条に定める全学横断型教育プログラムは以下の4つとする。

- (1) データサイエンス・プログラム
- (2) 援助力養成プログラム
- (3) 国際交流プログラム
- (4) キャリアマネジメント・プログラム

大学等名	福岡県立大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	データサイエンス・プログラム	申請年度	令和6年度

取組概要

福岡県立大学 データサイエンス・プログラム

プログラムの目的と身に付けられる能力

本プログラムは、全学部の学生を対象として、データサイエンスの知識やスキルを各専門分野での課題解決に活用できる力を養うことを目的としています。データサイエンスの共通基礎科目を学び、各専門分野におけるデータサイエンスの専門基礎科目を学びます。その上で、演習形式での学修を通じてデータサイエンスの応用能力を養います。こうした段階的な学びにより、学生はデータサイエンスの知識を自分の専門分野の課題解決に効果的に活用する力を身につけることができます。

科目の構成

データサイエンス共通基礎

「数学概論」「統計学」「情報科学」「情報処理の基礎と演習」
「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」等

データサイエンス専門基礎

「データ分析の基礎」「社会統計学Ⅰ・Ⅱ」「保健統計学」等「情報数学」「プログラミング概論」「情報ネットワーク論」等

データサイエンス専門応用

「社会調査実習Ⅰ・Ⅱ」「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「データ処理とデータ解析Ⅰ・Ⅱ」「プログラミング演習」「Webデザイン演習」等

- 180 -

修了要件

本プログラムの授業科目群を履修した学生に対し、取得した単位数に応じて
「データサイエンス（リテラシー）」
「データサイエンス（基礎）」
「データサイエンス」
の学修証明書を交付。各証明書の具体的な交付要件については、補足資料を参照。

実施体制

【プログラムの企画・運営・改善】

- ・基盤教育センター
- ・基盤教育センター全学横断型教育小部会

【プログラムの自己点検・評価】

- ・SD・FD部会
- ・教務・共通教育部会
- ・進路・生活支援部会
- ・基盤教育センター
- ・基盤教育センター全学横断型教育小部会

データサイエンス学修証明書交付要件

データサイエンス（リテラシー）学修証明書

データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を学修した者に与えられる。

【要件】

3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満足した者。

- ・ 別表Ⅰに示す科目の中から合計2単位以上を取得
- ・ 別表Ⅰ、別表Ⅱ、別表Ⅲに示す科目の中から合計8単位以上を取得
- ・ 上記単位取得科目の獲得GPの総和（累積GP）が16以上

データサイエンス（基礎）学修証明書

データサイエンスにおける基礎的な知識・技能を学修し、またデータサイエンスを用いた基本的な調査分析の方法やICTの活用について学修した者に与えられる。

【要件】

3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満足した者。

- ・ 別表Ⅰ、別表Ⅱに示す科目の中からそれぞれ4単位以上を取得
- ・ 別表Ⅰ、別表Ⅱ、別表Ⅲに示す科目の中から合計18単位以上を取得
- ・ 上記単位取得科目の獲得GPの総和（累積GP）が36以上

データサイエンス学修証明書

データサイエンスにおける知識・技能を学修し、またデータサイエンスを用いて実践的な調査分析の方法、問題解決等に活用する方法について学修した者に与えられる。

【要件】

3年次修了時又は卒業時に次の条件をすべて満足した者。

- ・ 別表Ⅰ、別表Ⅱ、別表Ⅲに示す科目の中からそれぞれ4単位以上を取得
- ・ 別表Ⅰ、別表Ⅱ、別表Ⅲに示す科目の中から合計30単位以上を取得
- ・ 上記単位取得科目の獲得GPの総和（累積GP）が75以上

別表Ⅰ データサイエンス共通基礎科目

数学概論	統計学	情報科学
情報処理の基礎と演習（※）	情報処理演習Ⅰ（※）	情報処理演習Ⅱ
情報処理応用演習		

※「情報処理の基礎と演習」は人間社会学部必修科目、「情報処理演習Ⅰ」は看護学部必修科目

別表Ⅱ データサイエンス専門基礎科目

データ分析の基礎	社会統計学Ⅰ	社会統計学Ⅱ
心理学統計法	保健統計学	疫学
情報数学	プログラミング概論	データベース論
マルチメディア論	情報ネットワーク論	現代社会論B（情報社会論）
現代社会論C（情報社会と法）	情報検索システム論	個人情報法制
地理情報システム論		

別表Ⅲ データサイエンス専門応用科目

社会調査法	社会福祉調査法	保健社会調査論
心理学研究法	社会調査の設計	地域社会分析法C
心理学実験Ⅰ	心理学実験Ⅱ	社会調査実習Ⅰ
社会調査実習Ⅱ	看護研究	公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ
公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ	データ処理とデータ解析Ⅰ	データ処理とデータ解析Ⅱ
Webデザイン演習	看護情報学	情報ネットワーク演習
プログラミング演習		

実施体制

基盤教育センター
全学横断型教育小部会

基盤教育センター
全学横断型教育小部会

改善

企画

自己点
検・評価

運営

SD・FD部会
教務・共通教育部会
進路・生活支援部会
基盤教育センター
全学横断型教育小部会

基盤教育センター
全学横断型教育小部会